

2020 年度

シラバス

岐阜保健大学

看護学部

2020年度 看護学部 シラバス目次

授業科目の名称	必修	選択	年次	期	担当教員	頁
基礎ゼミナール	1		1	前	臼井キミカ他	1
情報科学	1		1	前	高久道子	3
基礎統計学	1		1	前	高久道子、市川誠一	4
問題解決法		1	1	後	西牟田祐美子	6
哲学		1	1	前	鷺見コト江	8
英語Ⅰ	1		1	前	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak、Carrido	9
英語Ⅱ	1		1	後	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak、Carrido	10
日本語Ⅰ	1		1	前	伊藤亜希子	11
日本語Ⅱ		1	2	前	伊藤亜希子	13
手話		1	1	後	尾関裕子	15
中国語Ⅰ		1	2	前	干海	16
中国語Ⅱ		1	2	後	干海	18
自己管理と社会規範	2		1	前	塚本銳裕	20
健康と運動（体育）	1		1	後	羽田野正史	22
地域活動と社会貢献		2	1	後	市川季夫	24
現代の倫理	2		1	前	鷺見コト江	25
心理と行動		2	1	後	岩田郁子	26
学習と行動		2	1	前	堀学	27
健康と生活		2	1	前	稻葉政徳	28
岐阜県の歴史と文化		2	1	後	池田雅志	29
多文化と多様性の理解	2		1	前	内藤直子、高久道子、三浦昌子、市川誠一	30
人体構造機能学Ⅰ	2		1	前	永井博氏	32
人体構造機能学Ⅱ	1		1	後	小萱康徳	34
人体構造機能学Ⅲ	1		2	前	井上眞人	36
栄養代謝学	1		1	前	森裕志	38
人間の生殖と発達		1	1	後	野田みや子	39
人間の健康と社会・心理的適応		1	2	前	松井一久	40
生体防御学	1		2	前	森裕志、永井博氏	41
栄養治療学	1		2	前	熊崎貴仁	43
医療薬理学	1		2	後	永井博氏	44
病理学	1		2	前	川田憲司	45
疾病治療論Ⅰ（成人A）	2		1	後	河田美紀	47
疾病治療論Ⅱ（成人B）	2		1	後	河田美紀、河田好泰	48
疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）	1		2	前	井上眞人、河田美紀	49

授業科目的名称	必修	選択	年次	期	担当教員	頁
疾病治療論Ⅳ（小児・母性）	1		2	前	磯貝光治	51
疾病治療論Ⅳ（小児・母性）	1		2	前	尾藤長雄	52
公衆衛生学	1		2	後	森裕志	53
疫学	1		2	後	市川誠一	54
保健統計学	1		1	後	市川誠一	55
社会保障論	1		2	前	塚本銳裕	56
看護と関係法規	1		2	後	高木繁子	57
保健医療福祉行政論	2		1	前	原田裕子、牧野悦子	59
保健看護情報学		1	2	前	永坂和子	61
看護学概論	2		1	前	山本澄子、岩瀬通江	63
看護援助方法論Ⅰ	1		1	前	山本澄子、岩瀬通江	65
看護援助方法論Ⅱ	1		1	後	山本澄子、岩瀬通江	67
看護援助方法論Ⅲ	1		1	後	山本澄子、岩瀬通江	69
看護過程演習	1		2	前	山本澄子、岩瀬通江	70
フィジカルアセスメント	1		2	前	山本澄子、岩瀬通江	72
看護理論	1		1	後	山本澄子、臼井キミカ、野田みや子、内藤直子、三浦昌子、岩瀬通江	74
看護倫理	1		1	前	川北美枝子、内藤直子	75
基礎看護学実習Ⅰ	1		1	前	山本澄子他	77
基礎看護学実習Ⅱ	2		2	後	山本澄子他	78
成人看護学概論	2		2	前	三浦昌子、永坂和子	79
成人看護援助論Ⅰ（急性期）	2		2	後	三浦昌子、野村浩、中屋ひとみ	81
成人看護援助論Ⅱ（慢性期）	2		2	後	高木繁子、永坂和子	83
老年看護学概論	2		2	前	臼井キミカ	85
老年看護援助論Ⅰ	1		2	後	臼井キミカ、中谷こずえ、中野美加	87
小児看護学概論	2		2	前	野田みや子、平岡翠	89
小児看護援助論Ⅰ	1		2	後	野田みや子、平岡翠	91
母性看護学概論	2		2	前	内藤直子	93
母性看護援助論Ⅰ	1		2	後	内藤直子、石田美知	95
精神看護学概論	2		2	前	多喜田恵子	97
精神看護援助論Ⅰ	1		2	後	多喜田恵子、小野悟	99
在宅看護学概論	2		2	前	柄本千鶴、石井英子	101
在宅看護援助論Ⅰ	1		2	後	柄本千鶴、榎田恵子、石井英子	103
公衆衛生看護学概論	2		2	前	石井英子、柄本千鶴	105

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			○ ○ ○ ○ ○ ○	
授業コード					
授業科目名	基礎ゼミナール				
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		
担当教員	臼井キミカ、石井英子、山本澄子、内藤直子、柄本千鶴、多喜田恵子、小菅康徳、永坂和子、中谷こずえ、野村浩、平岡翠、小野悟、原田英子、榎田恵子、中屋ひとみ、岩瀬通江				

講義目的

本科目は、本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・保健・看護のトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルズを修得し、看護学に対する学びの意欲を高める。

授業内容

1. 大学で学ぶ目的を理解し、大学生としての基本的な知識・技術や態度、学修方法を理解する。
 - 1) 大学生活・社会生活における基本的なマナーを学修する
 - 2) レポートの書き方を学修する
 - 3) プrezentation等での資料作成に必要なPC操作を学修する
2. 7人程度の少人数の学生グループと教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発すると共に、学生相互の親睦と連帯意識を高めるための態度を身につける。
3. 保健・医療・看護に関連するテーマを用いた少人数グループでの討論を通して、関心あるテーマへの理解を深める。
4. 自分の考えを人に伝える工夫ができ、文献検索やグループ討論を通して各自の考えとは異なる意見を受け止め、さらに自分の考えを深めることができる。
5. この科目での学びをレポートにまとめることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. この科目は本学での導入科目であり、主体的に学修する態度を身につけるには積極的に参加する意識と行動が必要である。
2. 保健・医療・看護に関連するテーマは、学生の希望を優先するが、人数のアンバランスが生じたときには各担当教員の指示に従う。
3. 演習成果発表のためのプレゼンテーション等の資料作成はグループメンバーが協力して行う。なお、プレゼンテーション資料は大学祭の学術研究発表として展示予定である。
4. この単位を修得するためには、授業時間以外に30時間程度の学修が必要である。
5. グループ討論や、発表等に関するフィードバックはその都度講義時間内に行う。

教材

テキスト 知へのステップ 第5版：学習技術研修会編、くろしお出版、2019、1,944円 ISBN978-4-87424-789-1C1081
 参考図書 スタディスキルズ・トレーニング改訂版 大学で学ぶための25のスキル：吉原恵子他、実教出版、2017、1,320円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、自己紹介 スタディ・スキルとは (担当：臼井)	第1章(pp3~14)を読み、大学生として何をどのように学修するのかを考え、2分程度の自己紹介文を作成して演習に参加する。
2	大学生活、社会生活におけるマナー (担当：臼井)	第2章(pp17~28)を読み、講義の受講方法を理解する。教員とのアポイントの取り方、メールでの連絡方法、研究室訪問の基本的マナー等を理解する。
3	保健・医療・看護に関連するテーマの決定 (担当：臼井)	第3章(pp29~41)を読み、興味・関心のあるテーマについて自己学習し、箇条書きまたは200字程度にまとめて演習に参加する。関心のあるテーマによって7人程度のグループ編成(14グループ)を行う。4回目以降のゼミは基本的に各グループごとの演習とする。

4 ・ 5	図書館の利用方法、文献検索方法（1）（各担当教員） 図書館の利用方法、文献検索方法（2）（各担当教員）	第5章（pp57～70）：図書館の利用方法、第6章（pp71～82）：文献検索方法を理解して演習に参加する。 なお、人数の関係から図書館グループと情報処理室グループの2つに分かれて進める（第4回目と第5回目は場所を交代して演習を行う）。
6 か ら 11	1. 文献検索・文献の整理 2. 文献の整理・要約 3. ワープロソフトの活用 4. レポートの作成（形式、記載内容、文献引用のルール他） 5. 表計算ソフトの活用 6. プレゼンテーションソフトの活用 7. カンファレンスの進め方 （各担当教員）	各担当教員単位のグループに分かれて、「選択した保健・医療・看護に関連するテーマ」について、ゼミナール形式でディスカッションを重ねる。 学生が主体となって各グループで学びたいテーマを決め、そのテーマについて深く探し、その学びをまとめる。 1. レポートの作成の基本 2. ワープロソフト（Word）による文書作成 3. 表計算ソフト（Excel）との連携 4. プレゼンテーションの方法を理解する 5. プレゼンテーションソフト（Power Point）の活用
12	各グループ別学びの成果発表準備 （各担当教員）	第11章「プレゼンテーションの基本スキル」を読みプレゼンテーション資料作成に必要な基本操作を理解し、実践する。
13	各グループ別学びの発表会（1） （全担当教員）	第12章「分かりやすいプレゼンテーションのために」を読み、プレゼンテーションの方法を理解し、各グループの学びを発表する。発表内容は所定様式に沿って評価（自己・他者評価）する。司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。
14	各グループ別学びの発表会（2） （全担当教員）	第12章「分かりやすいプレゼンテーションのために」を読み、プレゼンテーションの方法を理解し、各グループの学びを発表する。発表内容は所定様式に沿って評価（自己・他者評価）する。司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。
15	各グループ別学びの発表会（3） （全担当教員）	第12章「分かりやすいプレゼンテーションのために」を読み、プレゼンテーションの方法を理解し、各グループの学びを発表する。発表内容は所定様式に沿って評価（自己・他者評価）する。司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。 この科目全体を通して、学んだことをA4用紙2枚程度にまとめたレポートを1週間後に提出する。また、作成したプレゼンテーション資料は大学祭で学術研究として発表（展示）するため、所定の枚数を厳選して提出する。
評価方法 および評価基準		
授業への参加状況（文献検索、討論、まとめ、発表）：50%、課題レポート50%により評価する。		
S（100～90点）：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
A（89～80点）：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
B（79～70点）：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。		
C（69～60点）：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。		
D（60点未満）：Cのレベルに達していない。		

科目区分	基本教育科目－思考力の養成			デジタルリテラシー るために必要な能力	人間力	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード					ケア・スピリット	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	情報科学				実践的理 解		
配当学年/学期	1/前期	単位数	1		プロフェッショナリズム		
担当教員	高久道子				多職種連携		

講義目的											
汎用ソフトウェアの基本機能を利用し、ソフトウェア相互のデータ変換ができるように情報リテラシーを向上する。リスク管理や情報倫理を理解しつつインターネット環境でのデータ処理ができるようにする。講義と演習により、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作方法を習得し、汎用ソフトウェア間のデータの変換や移動、課題に即して必要となる情報を収集、整理、加工して結果を表現するための情報活用能力を身につける。PCを用いた情報通信技術(Information and Communication Technology: ICT)の修得を基本的な目的とする。											
授業内容											
情報処理演習室でコンピューター(PC)の使い方を説明し、受講生は実際にPCを使用しながら文章作成ソフト(Word)による文書やレポートの作成、表計算ソフト(Excel)を用いた表計算やデータ集計、表やグラフの作成、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使ったスライド作成を演習する。保健統計や医学検査等のデータを活用して集計・グラフ作成に取り組み、各人がレポート課題を完成させることを目指す。											
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)											
この科目的単位習得には約30時間の授業時間以外の学習が必要である。講義ごとに課題を提示するので、前期中に課題を完成し、提出すること。											
教材											
参考図書：講義プリント、参考書は適宜紹介する											
授業計画および学習課題(予習・復習)											
回	内 容	学習課題(予習・復習)									
1	オリエンテーション：演習室の使い方、授業の進め方などの説明	本学での情報処理に関するガイダンスを行う。 演習室のコンピューター・プリンター、インターネットの利用、メールの送信方法について理解し、習得する。									
2	看護において保健医療情報を取り扱うことについて 情報倫理・情報リテラシーについて	看護師として個人情報、患者データ等を取り扱う上での倫理や情報リテラシーについて学び理解する。 SNSやインターネット上で氾濫する情報の整理・処理、個人情報の保護、情報倫理等、情報リテラシーについて学ぶ。 (予習・復習：テキストの閲読)									
3	コンピューターとネットワークの基本機能と操作	コンピューターのオペレーションシステム(OS)やインターネットの仕組み等、基本機能と操作を理解・習得する。									
4	ワープロソフトの演習1	Wordの基本機能と操作を学習する。									
5	ワープロソフトの演習2	日本語や英語で文字入力を行い、図や表の挿入等基本操作を用いて文書を作成し、印刷、課題提出までの演習を行う。									
6	ワープロソフトの演習3										
12	プレゼンテーションソフトの演習1	Power Pointの基本機能と操作を習得する。 自ら収集した保健医療情報データをもとに、アニメーション機能や特殊効果などを使ってスライド(文章・表・グラフの挿入)を作成する。スライドを課題として印刷、提出する。									
13	プレゼンテーションソフトの演習2										
7	表計算ソフトの演習1	Excelの基本機能と操作を習得する。									
8	表計算ソフトの演習2	保健医療情報データを収集し、Excel上で表を作成、グラフの作成、範囲を選択して印刷等、基本操作を習得する。									
9	表計算ソフトの演習3										
10	表計算ソフトの演習4	自ら収集した保健医療情報データをもとに、Excel関数を用いて統計量の計算を習得する。計算結果からグラフを作成し、課題を作成、印刷までの基本操作を習得する。									
11	表計算ソフトの演習5										
14	情報科学の演習1	最終課題。これまでの演習で習得した技術・知識を応用して、保健医療データを用いた課題に取り組む。Wordを用いてレポートを作成し、印刷して提出する。									
15	情報科学の演習2										
評価方法および評価基準											
欠席は1回につき2点減点30%、Word、Power Point、Excelからの各課題、レポート提出70%により評価する。											
S(100～90点)：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理が十分にできる。											
A(89～80点)：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理ができる。											
B(79～70点)：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理がほぼできる。											
C(69～60点)：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理がややできる。											
D(60点未満)：Cのレベルに達していない。											

科目区分	基本教育科目—思考力の養成			アシスト するため に必 要な 能力	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット		
授業科目名	基礎統計学				実践的理		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		プロフェッショナリズム		
担当教員	高久道子、市川誠一				多職種連携		

講義目的

統計は地域集団の特徴を把握し活用する学問である。授業では保健統計に焦点をあてて、保健・医療データをより的確に処理する統計学の基礎を身につける。

授業内容（授業の到達目標）

保健医療データの統計処理を理解するために必要な基本統計学、保健・生物統計の基礎として記述統計、母集団からの標本抽出、母集団の推定、標本におけるグループの違いを推定する比較検定を学習する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目的単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。講義配布資料の内容はテキストで確認し、学習すること。講義内で課題を提示するので、前期中に課題を完成し、提出すること。

教材

テキスト：杉田 岬道「統計学入門」医学書院 2,400円+税

参考図書：大木秀一「基本からわかる看護統計学入門」医歯薬出版株式会社 3200円+税、随時講義プリントの配布

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	講義の内容 統計学を学ぶ意義	統計を学ぶ意義、グラフの見方や作成における留意点を学ぶ。*統計学で用いるデータを測定する。 (予習・復習：第1章)
2	母集団と標本	母集団と標本集団、標本集団を抽出する方法（サンプリング）を学ぶ。*統計学で用いるデータを測定する。 (予習・復習：第1章)
3	基本統計量	基本統計量としての平均値、標準偏差、中央値、最頻値、変動係数、外れ値、四分位を学ぶ。(予習・復習：第1章)
4	データの分布：度数分布とヒストグラム	度数分布、ヒストグラム、正規分布について学ぶ。 (予習・復習：第1章)
5	統計学において扱う問題：推定と仮説検定	統計学で扱う推定、仮説検定について学ぶ。 信頼度、信頼区間、仮説検定における帰無仮説を学ぶ。 (予習・復習：第1章)
6	平均値 1) 母集団の推定	平均値、標準偏差から母集団を推定する統計方法を学ぶ。 (予習・復習：第2章)
7	平均値 1) 母集団の推定（演習）	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いた基本統計量の算出、平均値、標準偏差から母集団を推定する統計方法を学ぶ。 (予習・復習：第2章)
8	平均値 2) 母平均と標本平均の比較検定	標本集団の平均値と母平均を比較する統計方法を学ぶ。 (予習・復習：第2章)
9	平均値 2) 母平均と標本平均の比較検定（演習）	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて基本統計量の算出し、母平均と比較する統計方法を学ぶ。(予習・復習：第2章)
10	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定「対応が無い場合」	二つの標本平均の比較検定に関する統計方法を学ぶ。「対応が無い場合」の検定を学ぶ。エクセルを用いた検定方法を学ぶ。(予習・復習：第2章)
11	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定「対応がある場合」	平均値の比較検定のうち、「対応がある場合」の検定を学ぶ。エクセルを用いた検定方法を学ぶ。(予習・復習：第2章)
12	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定（演習）	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて「対応がある場合」「対応が無い場合」の検定を学ぶ。(予習・復習：第2章)
13	相関関係	相関係数の算出や検定方法を学ぶ。健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて基本統計量の算出、相関図の作成、相関関係の検定を学ぶ。 (予習・復習：第4章)
14	百分率の比較検定	離散量(百分率等)に関するデータについて、母集団の推定や、カイ二乗検定による標本百分率の比較等の方法を学ぶ。

		(予習・復習：第3章)
15	百分率の比較検定（演習）	離散量(百分率等)に関するデータについて、エクセルを用いて、母集団の推定や、カイ二乗検定による標本百分率の比較などの方法を学ぶ。(予習・復習：第3章)
評価方法 および評価基準		
欠席は1回につき2点減点30%、課題・レポート提出70%により評価する。		
S (100~90点)：保健医療データに基づく統計的処理について十分に理解している。		
A (89~80点)：保健医療データに基づく統計的処理について理解している。		
B (79~70点)：保健医療データに基づく統計的処理についてある程度理解している。		
C (69~60点)：保健医療データに基づく統計的処理についての基本的な理解をしている。		
D (60点未満)：Cのレベルに達していない。		

科目区分	基本教育科目－思考力の養成	成するためには ディプロマポリシーを達成するためには 必要な能力	人間力	<input checked="" type="radio"/>
授業コード			ケア・スピーリット	
授業科目名	問題解決法		実践的理解	
配当学年/学期	1/後期		プロジェクトマネジメント	
担当教員	西牟田祐美子		多職種連携	

講義目的

現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中にあって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的な
あるべき姿はどのようにして描いていくのかなどが課題となる。問題解決法とはこれから的人生設計・自己実現のために何
を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントな
どを取り扱う。

授業内容

自己とは何か？自分とは何かという問い合わせなしに自己実現、人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たち
の自己の在り方、また自己実現を学修しながら、自分なりの目的を探す手がかりとする。また実際にしていく中で遭遇する問
題を自分なりに特定し、その対処法も思索させる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

積極的に授業に参加することが望まれる。この科目的単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学修課題(予
習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできる
だけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

授業計画および学習課題(予習・復習)

回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	自己とは何か	テキスト、プリントを基に自己とは何か自分なりに考察する。
2	フロイトの考える自我、自己	テキスト、プリントを基に、フロイトの考える自我、自己を理解する。
3	ユングの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ユングの考える、自己と自己実現を理解する。
4	アードラーの考える、自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、アードラーの考える自己と自己実現を理解する。
5	マズローの考える自己実現	テキスト、プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。
6	行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、行動療法の考える自己と問題解決法を理解する。
7	まとめ レポート	まとめ、レポート
8	認知行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、認知行動療法の考える自己と問題解決を理解する。
9	ヒューマニスティックアプローチの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ヒューマニスティックアプローチの自己と自己実現を理解する。
10	アサーティブネスと自己実現	テキスト、プリントを基に、アサーティブネスを理解する。
11	コーピングと自己実現	テキスト、プリントを基に、コーピングを理解する。
12	ジェンダーと自己実現	テキスト、プリントを基に、ジェンダーと自己、自己実現を理解する。
13	カウンセリングと自己実現	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと自己実現を理解する。
14	カウンセリングと問題解決	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと問題解決を理解する。
15	まとめ、テスト	

評価方法 および評価基準

筆記テスト 30%、授業への取り組み 65%、レポート 5%

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目一思考力の養成			成するため に必要な能 力	人間力	○	
授業コード					ケア・スピ リット	○	
授業科目名	哲学				実践的理 解		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		プロフェッ ショナリズ ム		
担当教員	鷲見コトエ				多職種連携		

講義目的

西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。

授業内容

フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考え方従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。

教材

テキスト

参考図書：講義中に指示します。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	哲学誕生	哲学とは
2	愛智學としての哲学	愛智學とは
3	哲学と方法	思考方法とは
4	科学と哲学	科学と哲学の違い
5	ベルクソンの存在論	存在とは
6	現代の宇宙論	宇宙とは
7	生命の進化	生命とは
8	人類誕生	ホモ・サピエンスとは
9	ベルクソンの人間論	人間とは
10	心的存在者としての人間	幼児の心とは
11	エリクソンの人間論	社会的人間とは
12	エリクソンの発達理論	心の発達とは
13	人生とは	人生の目的とは
14	障害とは	障害者と健常者とは
15	医学と看護	看護とは

評価方法および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 40%、最終試験 50%により評価する。

S (100~90 点)：授業内容を正しく理解し、様々な側面から「命とは」「人間とは」について、根拠を示し、自分独自の考えを述べることができる。

A (89~80 点)：授業内容を正しく理解し、様々な側面から「命とは」「人間とは」について、根拠を示し、自分の考えを述べることができる。

B (79~70 点)：授業内容を理解し、様々な側面から、学習課題について根拠を示し、自分の考えを述べることができる。

C (69~60 点)：授業内容を理解し、学習課題について根拠を示し、自分の考えを述べることができる。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目一表現力の養成			成するためには必要な能力 デイブロマポリシーを達成するためには必要な能力 人間力 ケア・スピリット 実践的理 解 プロフェッショナリズム 多職種連携	
授業コード					
授業科目名	英語 I				
配当学年/学期	1/前期	単位数	1		
担当教員	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak、Carrido				

講義目的

グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聞く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目指とする。

「英語 I」では、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語(Medical Term)をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。

授業内容

英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。

現場で直ぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。

留意事項(履修条件・授業時間外の学修)

積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

テキスト 適宜教材を印刷して渡す。

参考図書

授業計画および学習課題(予習・復習)

回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介の練習
2	発音/スピーキング、リーディング	発音について理解し練習する。
3	リスニング/クラスルームイングリッシュ、歌手に関するリサーチ	英語の歌、歌手について調べる
4	時間、スケジュール	時間の読み方の練習する。
5	プレゼンの準備	文章を覚える/プレゼンの練習する。
6	病気、ペアワーク	質問に答える/辞書を使う。
7	マインドマップ/病気、経験したこと書き	クロスワード、病気の体験についてインタビューの準備をする。
8	リスニング、病気についてインタビュー、ロールプレイ	リスニングの練習をする。
9	グループワーク、患者さんとの会話	ダイアローグ A と B を読む。
10	ペアワーク	ダイアローグ A を覚える。
11	ダイアローグ	ダイアローグ B を覚える。
12	復習/経験を尋ねる	経験を書き出す。
13	プレゼン/スキットを覚える、クイズ	自分のバイトについて書く。
14	復習/夏休みの予定をたてる	それまでに学修したことを見語中心にまとめる。
15	確認テスト	それまでに学修したことを見文法中心にまとめる。

評価方法 やび評価基準

筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目—表現力の養成			成するためには、ディプロマボーリシティを達成する能力	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット		
授業科目名	英語 II				実践的理		
配当学年/学期	1/後期	単位数	1		プロフェッショナリズム		
担当教員	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak、Carrido				多職種連携		

講義目的

グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語II」では、「英語I」の続編として、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読み解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。

授業内容

英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。

現場すぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目的単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

テキスト 適宜教材を印刷して渡す。

参考図書

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	会話、夏休み	スクラップページを作成する。
2	プレゼン	病院実習について書く。
3	フィットネス/ダイエット	食品群について理解する。
4	ブレーンストーミング、単語	新出単語の復習をする。
5	怖い話	怖かった出来事について作文する。
6	ハロウィン	仮定法の練習をする。
7	発音、許可を求める	空欄を埋める
8	アドバイスする	質問文を作る
9	過去について話す	写真を準備する
10	経験についての文章をつくる。	完了形(現在、過去)の文の練習をする。
11	こうだったら、と想像する	仮定法過去完了の文の練習をする。
12	リスニング	歌を覚える
13	歌、ダイアローグ	カード、手紙を書く。
14	復習	学修したことを見直す。
15	確認テスト	学修したことまとめ復習する。

評価方法 および評価基準

筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目—表現力の養成			○ 人間力 ケア・スピリット 実践的理 プロフェッショナリズム 多職種連携	
授業コード					
授業科目名	日本語 I				
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		
担当教員	伊藤亜希子				

講義目的

日頃は無意識に使っている日本語であるが、果たして正しい日本語を使って話していたのか、また、文書を作成していたのかを振り返り、正しい日本語の使い方について学ぶことがこの科目的目的である。その一連のプロセスを通して日本語を客観的に分析することができることを目指す。国際人になるためには、まず求められることは母国語である日本語を正しく話し、正しい文書を作成し、発表することができるることである。その全過程を通して、正しい日本語の使い方ができることを目指す。

授業内容

日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史の分野から日本語の特徴を概説し、日本語について理解を深める。普段使っている自分の言葉について意識を高め、看護学生としての必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。さまざまなテーマの分析を通して運用力を高める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約 30 時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。内容が変わることごとに小レポートの課題がある。

教材

テキストなし

参考図書『日本語概説』岩波書店

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	日本語概説、授業内容の説明	配布資料を読み直す、自分自身の使う日本語について振り返る、小レポート（2 時間）
2	日本語の発声と発音 1 発声のしくみ	配布資料を読み直す（1 時間）
3	日本語の発声と発音 2 IPA	配布資料を読み直す（1 時間）
4	日本語の語彙と表現 1 語彙のしくみ	配布資料を読み直す、自分の使う語彙について振り返る（2 時間）
5	日本語の語彙と表現 2 語彙の運用	配布資料を読み直す、人を傷つける言葉、自分の言葉遣いについて考える（2 時間）
6	日本語の語彙と表現 3 敬語と意識	配布資料を読み直す、普段の敬語の使い方について振り返る（2 時間）
7	日本語の語彙と表現 4 非言語による表現	配布資料を読み直す、小レポート（3 時間）
8	日本語の語彙と表現 5 まとめ	配布資料を読み直す（1 時間）
9	日本語の文法 1 品詞と組み立て	配布資料を読み直す、高校までに学習した品詞、活用について振り返る（2 時間）
10	日本語の文法 2 配慮と丁寧さ	配布資料を読み直す、これまでに書いた LINE、メールについて振り返る（2 時間）
11	日本語の文字 1 表記上の決まり事	配布資料を読み直す、自分の普段の文章、これまでの自分の文章の書き方について振り返る（2 時間）
12	日本語の文字 2 表記上の決まり事	配布資料を読み直す、小レポート（3 時間）
13	日本語の歴史的受容 音声と文字の歴史	配布資料を読み直す、日本語表記の多様さを歴史的に振り返る（2 時間）
14	日本語の歴史的受容 日本語の変化	配布資料を読み直す、若者言葉、LINE で使う言葉、ネット用語などについて自分の使用を振り返る（2 時間）
15	日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史についてのまとめ	配布資料を読み直す、小レポート（3 時間）

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 20%、小レポート 20%、最終試験 60%により評価する。

S (100~90 点) : 日本語の仕組みを理解したうえで、言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。また多彩な表現が使え、歴史的事実を理解している。

A (89~80 点) : 日本語の仕組みを理解したうえで、自分の言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。

B (79~70 点) : 日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解したうえで、自分の言葉を客観的に観察・分析することができる。

C (69~60 点) : 日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解している。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-基本教育科目 表現力の養成			ディプロマポリシー達成 するための必修能力	人間力 ○	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	日本語Ⅱ				実践的理 解	
配当学年/学期	2年 前期 選択	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	伊藤亜希子				多職種連携	

講義目的

コミュニケーション力の基礎として、自己の考えを論理的に明確に、相手に表現する能力が求められているが、それらの能力の育成のために、問題意識を持つこと、自分の意見を持ち、情報を選択し、整理する能力を高め、論理的にものを考えることが求められている。さらに、相手（他者）の立場に立って考えることができるためにはどのようにすることが必要なのか、幅の広いものの考え方、見方をするようにして、他者の発言を注意深く聞くようになり、ひいては協調性を養うことができることを目指す。

授業内容

前半では主に、読解力、表現力を身につけるために縮約・要約文を作成、要点を抑えてメモを取るなどの練習を行う。後半では論理的な文章を書くための小論文作成を行う。文章を書くための基本事項、感想文と小論文の違い、意見を論理的に書くための方法など、適宜解説をする。さまざまな文章を書くことを通じて、看護学生として必要な日本語運用力を身につける。グループワークではブレーンストーミングを通して意見を出し合い、協力して意見をまとめ発表を行う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目的単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。授業内に作成したものは、その都度添削して返却する。

教材

テキスト 特になし

参考図書 特になし

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業内容の説明	配布資料を読み直す（1時間）
2	文章の書き方1 語彙と表記	配布資料を読み直す、適切な表記、言葉遣いについて考える（2時間）
3	文章の書き方2 文法と文体	配布資料を読み直す、分かりにくい文章について考える（2時間）
4	要点をおさえる、メモを取る	配布資料を読み直す（1時間）
5	縮約・要約とは 縮約・要約文作成1	
6	縮約・要約文作成2	
7	縮約・要約文発表	
8	ブレーンストーミング	
9	感想文とは 感想文作成	
10	言葉を説明する	配布資料を読み直す、国語辞典の記述を読む（2時間）
11	小論文を書くための表現1	配布資料を読み直す、次回テーマの内容について考える（2時間）
12	小論文1	次回テーマの内容について考える（1時間）
13	小論文2	次回テーマの内容について考える（1時間）
14	小論文3	課題レポートの内容について考える（2時間）
15	小論文発表	

評価方法 および評価基準

提出物 50%、期末レポート 30%、授業態度 20%により評価する。

S (100~90点) : 表記上、文法上の間違いのない文章が書け、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、独自の視点による説得的論理的な小論文が書ける。なおかつ、グループ活動、プレゼンテーションができる。

A (89~80点) : 表記上、文法上の間違いのない文章が書け、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、論理的な小論文が書け

る。なおかつグループ活動、プレゼンテーションができる。

B (79~70 点) : 表記上、文法上の間違いのない文章が書け、小論文と感想文の違いをよく理解し、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、自分の意見を小論文に述べることができる。なおかつグループ活動、プレゼンテーションができる。

C (69~60 点) : 原稿用紙の使い方、漢字や仮名遣い、文法的に間違いのない表現ができ、最低限の縮約・要約文、小論文を作成したり、グループ活動、プレゼンテーションができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目—表現力の養成			成するため必要となる能力 ディプロマポリシーを達成するため必要となる能力 人間力 ケア・スピリット 実践的理理解 プロフェッショナリズム 多職種連携					
授業コード									
授業科目名	手話								
配当学年/学期	1 /後期	単位数	1						
担当教員	尾関裕子								
講義目的									
「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意味だけでなく、意思の疎通、心の通い合いという側面もあり、互いに理解し合うことでもある。コミュニケーションの障害を持った人との意思の疎通のためにどのようにしたらよいかを、本科目では手話を通して考える。すなわち、コミュニケーション行動の機能は、たんに情報の伝達にとどまらず、情動的な共感、さらには相手の行動の制御をも幅広く含んでいることを意識することが求められている。コミュニケーションの成立のために、何が必要であるのかを手話を通じて理解を深める。									
授業内容									
手話の実技及び聴覚障害に関する講義									
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）									
教材									
テキスト「今すぐ始める手話テキスト 聴さんと学ぼう！」 市民向け手話学習テキスト編集委員会 一般財団法人全日本ろうあ連盟									
参考図書 なし									
授業計画および学習課題（予習・復習）									
回	内 容	学習課題（予習・復習）							
1	自己紹介をしてみよう—名前を手話で表す	名前の手話表現を学ぶ コミュニケーション方法について知る							
2	自己紹介をしてみよう—家族の手話を表す	家族の手話表現を学ぶ							
3	自己紹介をしてみよう—誕生日の手話を表す	数字の手話表現を学ぶ							
4	自己紹介をしてみよう—趣味の手話を表す	趣味に関する手話表現を学ぶ							
5	自己紹介をしてみよう—仕事の手話を表す	仕事に関する手話表現を学ぶ							
6	自己紹介をしてみよう—住所の手話を表す	県・市町村の手話表現を学ぶ 場所の説明方法を工夫する							
7	お互いに自己紹介をしよう—質問をしてみよう	手話で会話をしながら自己紹介をする 聞こえないことについて考える							
8	聴覚障害者の生活を知ろう	聴覚障害者の生活について学ぶ							
9	数字の手話を使って1日、1か月のこと話そう	いろいろな数の表し方を学ぶ							
10	数字の手話を使って1年のことを話そう	いろいろな数の表し方を表現する 1年の行事に関する手話表現を学ぶ							
11	行きたい場所のこと話そう	地名、場所や交通手段の手話表現を学ぶ							
12	病院のこと話そう	体調に関する手話表現を学ぶ 聴覚障害者について考えてみる							
13	手話の基礎知識	手話の歴史やろう者にとっての手話について学ぶ							
14	災害に関する手話を学ぼう	災害に関する手話表現を学ぶと共に必要なサポートについて考える							
15	学んだ手話を使って話をしてみよう	友達と楽しく手話で会話ができる							
評価方法 および評価基準									
授業の参加状況 10%、手話実技 30%、最終試験 60%により評価する									
S (100~90点) : 学んだ手話を使って会話ができる。聴覚障害や手話について理解できる。									
A (89~80点) : 学んだ手話を使って簡単な会話ができる。聴覚障害者の生活について理解できる。									
B (79~70点) : 自己紹介ができる。聞こえないことについて理解できる。									
C (69~60点) : 挨拶、自分の名前を手話で表現できる。									
D (60点未満) : Cのレベルに達していない。									

科目区分	-基本教育科目 表現力の養成			ディプロマポリシーを達成するための留意点	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット		
授業科目名	中国語 I				実践的理 解		
配当学年/学期	2年 前期 選択	単位数	1単位		プロフェッショナリズム		
担当教員	干海				多職種連携		

講義目的

中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようになる。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。

授業内容

中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目的単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。

教材

テキスト プリント配布

参考図書 隨時紹介する。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	中国語概論	中国語の特性を概説する
2	中国語の表現	正書法の決めを説明する
3	中国語の音声①	中国語のメロディーを詳説する
4	中国語の音声②	単母音、そり舌音と複母音を詳説する
5	中国語の音声③	鼻母音、子音と声調変化を詳説する
6	中国語の語順	語順の3原則を詳説する
7	中国語の表現の骨組	日本語との共通点及び相違点を提示する
8	中国語の表現の構造	基本単語（約80語）を説明する
9	中国語の表現①	命題とモダリティーについて詳説する
10	中国語の表現②	あいさつ言葉と数量について説明する
11	中国語の表現③	人称代名詞と名詞述語文を詳説する
12	中国語の表現④	指示代名詞と形容詞述語文を詳説する
13	中国語の表現⑤	疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する
14	中国語の表現⑥	副詞、助動詞と連動文を詳説する
15	中国語の表現⑦	動詞述語文、「有」、「的」を詳説する

評価方法 および評価基準

授業態度 30%、筆記試験 70%により評価する。

S (100~90点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-基本教育科目 表現力の養成			ディプロマポリシーを達成するための必要な能力	人間力 ○	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	中国語Ⅱ				実践的理解	
配当学年/学期	2年 後期 選択	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	千海				多職種連携	

講義目的

「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。

授業内容

中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目的単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。

教材

テキスト プリント配布

参考図書 随時紹介する。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	中国語の表現⑧	基本単語②（約80語）を説明する
2	中国語の表現⑨	比較、使役の表現を説明する
3	中国語の表現⑩	可能、受身、否定を説明する
4	中国語の表現⑪	補語、接続語、前置詞を説明する
5	中国語の表現⑫	既知、未知について詳説する
6	中国語の表現⑬	基本単語③（約80語）を説明する
7	中国語の表現⑭	日常会話文を説明する
8	中国語の表現⑮	案内する言葉を説明する
9	中国語の表現⑯	医療用語（解剖と病名）を詳説する
10	中国語の表現⑰	医療通訳の基本を説明する
11	中国語の表現⑱	医療現場の会話文①（腹痛）を詳説する
12	中国語の表現⑲	医療現場の会話文②（腰痛）を詳説する
13	中国語の表現⑳	医療現場の会話文③（熱、咳）を詳説する
14	中国語の表現㉑	医療現場の会話文④（健康診断）を詳説する
15	中国語の表現㉒	まとめ

評価方法 および評価基準

授業態度 30%、筆記試験 70%により評価する。

S (100~90点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができ

る。

C (69~60 点) : 中国語を学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

B (79～70 点)：自己管理の基礎知識を理解し、自らの立場での自己管理計画を立てることができる。

C (69～60 点)：社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について理解できる。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目一人間力の養成			人間力を醸成するための能力	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット		
授業科目名	健康と運動				実践的理		
配当学年/学期	1 /後期	単位数	1		プロフェッショナリズム		
担当教員	羽田野正史				多職種連携		

講義目的

体を動かすことは、人間にとて本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあっては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を取り入れることが重要であり、本科目ではスポーツ医・科学と健康についての基礎知識を学習するとともに、ラジオ体操やスポーツ等の実践を通じて、生涯に亘って健康の保持増進を図る方法を学ぶ。

授業内容

- 1 スポーツ医・科学と健康について理解する。
- 2 ラジオ体操やスポーツの実践及びトレーニングのための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教材

テキスト：なし

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス 本講義の目的・意義及び授業展開について 体育・スポーツの概念 体育・スポーツの概念について	
2	体育・スポーツの概念 スポーツの歴史とスポーツ文化について、オリンピックについて	
3	現代のスポーツ振興施策 諸外国及び日本のスポーツ振興施策について 競技スポーツの振興について、生涯スポーツの振興について	
4	岐阜県のスポーツ振興施策 岐阜県のスポーツ推進計画について 競技力向上施策について、地域スポーツの振興について スポーツ環境の整備について	
5	運動の実践 1 ラジオ体操の歴史と実践	
6	運動の実践 2 ラジオ体操・ストレッチ レクリエーションスポーツの実践	
7	運動の実践 3 ラジオ体操・ストレッチ レクリエーションスポーツの実践	
8	体力とトレーニング 体力について、トレーニングの原理・原則について トレーニングの種類、トレーニング方法について 疲労と疲労回復のメカニズムについて	
9	メンタルトレーニング 各種メンタルトレーニングの方法について	
10	運動の実践 4 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
11	運動の実践 5 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
12	運動の実践 6 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
13	運動の実践 7 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
14	子どもとスポーツ 子どもの発育発達特性について トレーニングが子どもの心身に与える影響について	
15	高齢者・障害者とスポーツ 高齢化社会とスポーツについて 障害者のスポーツの変遷について	

評価方法および評価基準

出席・授業態度 50 %、テスト結果 50 % の総合評価による。

S (100~90 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識をよく理解し、学習や運動の実践において、リーダーシップを發揮し積極的に活動できた。

A (89~80 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識をよく理解し、学習や運動の実践において、積極的に活動できた。

B (79~70 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識を理解し、学習や運動の実践ができた。

C (69~60 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識の学習や運動の実践に参加し、運動を行うことの重要性が理解できた。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目一人間力の養成			成するためには ディプロマボリシーを達成するためには 実践的理 プロフェッショナリズム 多職種連携	人間力 ○					
授業コード					ケア・スピリット ○					
授業科目名	地域活動と社会貢献				実践的理					
配当学年/学期	1 /後期	単位数	2		プロフェッショナリズム					
担当教員	市川 季夫				多職種連携					
講義目的										
社会貢献は、その活動が他者に強制されたものではなく、自発的・自主的な活動であること、中でも地域活動としての社会貢献活動は、その活動自体が公共的、社会的であり、自己実現欲求の充足等が活動の意義や要素と考えられる。社会貢献活動を通じて、住民の様々な意向やニーズを直接的に把握し、社会的な課題として顕在化させ、社会に反映させていく役割が期待されており、質の高い看護活動を更に深化させることにもつながることを理解する。										
授業内容										
変動する社会のなかで、さまざまな地域活動の実際を通して、生命と健康を守る仕事の大切さを学ぶ。										
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）										
新聞などのニュースを通して社会問題に関心を持つ										
教材										
テキスト 特定のテキストは使いません。新聞記事などを教材とします。										
参考図書 宮本 ふみ著 「無名の語り 保健師が『家族』に出会う 12 の物語」医学書院										
授業計画および学習課題（予習・復習）										
回	内 容	学習課題（予習・復習）								
1	オリエンテーション、地域活動と社会貢献	看護師・保健師との関わりから								
2	現代社会と地域	私たちの住む社会を理解する								
3	現代社会と家族	近代家族とは								
4	家族のゆらぎ	価値観の多様化								
5	在宅医療	在宅看護と看護師の役割								
6	地域で活動を始める	目的と目標（活動の必要性）⇒グループ結成								
7	グループごとに取り組み課題を明確にする	目標に向けて計画を作る								
8	計画を実行する	計画に沿って活動をする								
9	グループの取り組みをまとめる①	取り組みのまとめ①								
10	グループの取り組みをまとめる②	取り組みのまとめ②								
11	グループ発表①	1 グループ 30 分×3 グループ								
12	グループ発表②	1 グループ 30 分×3 グループ								
13	グループ発表③	1 グループ 30 分×3 グループ								
14	グループ発表④	1 グループ 30 分×3 グループ								
15	総括	講師からのまとめ。レポート作成								
評価方法および評価基準										
授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。										
S (100~90 点) : 現代の社会状況を理解し、取り組む課題が認識できる。課題の取り組み方が理解でき実行できる。										
A (89~80 点) : グループの一員として、他者と協調し課題に取り組むことができる。										
B (79~70 点) : 一人で課題に取り組む。										
C (69~60 点) : 課題が十分理解できていない										
D (60 点未満) : 課題が理解できていない										

科目区分	基本教育科目一人間の理解			成するためには ディプロマボリュームを達成するためには 必要能力	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット	○	
授業科目名	現代の倫理				実践的理	解	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		プロフェッショナリズム		
担当教員	鷲見コト江				多職種連携		

講義目的

現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目的目的である。

授業内容

倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。

教材

テキスト

参考図書：講義中に指示します。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	倫理と道徳 古代ギリシア哲学を中心に	倫理とは
2	論理的判断	価値判断の方法
3	デカルトの道徳とは	学問と道徳
4	スピノザの道徳とは	自由とは
5	カントの道徳とは	欲望と義務とは
6	ベルクソンの道徳とは	社会と義務とは
7	生物学的善悪とは	本能とは
8	心理学的善悪とは	フロイトの超自我とは
9	仏教における善悪とは	煩惱とは
10	唯識思想における善悪とは	末那識とは
11	生命と倫理	医療倫理とは
12	人権と障害	優生思想とは
13	人権と看護	ユマニチュードとは
14	幸福と倫理	貧乏とは
15	育児と倫理	虐待とは

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 40%、最終試験 50%により評価する。

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目一人間の理解			要な能力 を達成するためには ディプロマボリシー	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット		
授業科目名	心理と行動				実践的理		
配当学年/学期	1 /後期	単位数	1		プロフェッショナリズム		
担当教員	岩田郁子				多職種連携		

講義目的		
心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。		
授業内容		
社会生活に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、人の理解や対応に活かす力を身につける。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。		
これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。		
野田みや子（4回）、小野悟（11回）		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
教材		
参考書・参考資料等：適宜、紹介します。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	第1回：オリエンテーション、心理の概念と歴史	講義の目的、目標、内容を理解する。
2	第2回：学習のメカニズム	条件づけ、観察学習について理解する。
3	第3回：記憶のメカニズム	記憶・知能・忘却について理解する。
4	第4回：個人差（知的能力／パーソナリティ）	パーソナリティの定義について理解する。
5	第5回：動機づけ	2つの動機付けとその理論について理解する。
6	第6回：学習過程	教授学習モデルについて理解する。
7	第7回：発達①	発達段階と発達課題について理解する。
8	第8回：発達②	認知発達理論について理解する。
9	第9回：発達③	社会性、道徳性の発達について理解する。
10	第10回：適応①	不登校の問題について理解する。
11	第11回：適応②	いじめのメカニズムとその防止について理解する。
12	第12回：発達障害①	発達障害の諸相について理解する。
13	第13回：発達障害②	アセスメントと支援方法について理解する。
14	第14回：集団	集団は個人にどのような影響を与えるかについて理解する。
15	第15回：まとめ	全体のまとめを行う。
評価方法および評価基準		
授業の参加状況 10%、レポート 20%、最終試験 70%により評価する。		
S (100~90 点) :	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)	
A (89~80 点) :	学習目標を相応に達成している (Very Good)	
B (79~70 点) :	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)	
C (69~60 点) :	学習目標の最低限は満たしている (Pass)	
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない	

科目区分	基本教育科目一人間の理解			成するためには ディプロマポリシーを達成するためには 必要な能力	人間力 ○					
授業コード					ケア・スピーリット					
授業科目名	学習と行動				実践的理					
配当学年/学期	1/前期	単位数	2選択		プロフェッショナリズム					
担当教員	堀学				多職種連携					
講義目的										
学習とは何か。行動とは何か。また、学習と行動との関係は。心理学、行動科学、脳科学の観点から多様な学習と行動のプロセスを学び、人間理解へとつなげていくことを目的とする。										
授業内容										
テキストをベースとし、各々が与えられたテーマに対して自分の意見を発表したりディスカッションをしたりする時間も設けながら進めていく。										
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）										
教材										
メインテキスト(購入必須)：「行動と学習の心理学」、伊藤正人、昭和堂、2005年 2,592円										
サブテキスト(購入は任意)：「リハビリテーションのための脳・神経科学入門」、森岡周、協同医書出版、2016年 3,024円										
授業計画および学習課題（予習・復習）										
回	内 容	学習課題（予習・復習）								
1	オリエンテーション、学習とは何か (p17-26)	復習：「学習」の定義について学ぶ								
2	学習研究の歴史 (p29-38)	予習：「学習研究の始まり」に目を通しておくこと。 復習：「学習心理学」に目を通しておくこと								
3	反射の原理 (p41-p55)									
4	行為の原理① (p57-77)									
5	行為の原理② (p77-p93)									
6	複雑な学習① (p95-108)									
7	複雑な学習② (p109-127)									
8	学習研究の学際的領域 (p131-145)									
9	学習の基礎にある動機づけと情動 (p149-163)									
10	日常場面にみる反射の原理 (p167-174)									
11	日常場面にみる行為の原理① (p175-187)									
12	日常場面にみる行為の原理② (p188-209)									
13	社会的認知における模倣行動と心の理論の発達									
14	身体図式は空間認知によって生成される									
15	運動イメージは身体図式に基づいて生成される									
評価方法および評価基準										
授業の参加状況 10%、ディスカッション 10%、最終試験 80%により評価する。										
S (100~90点) : 能動的な学習ができており、日常生活における学習および行動について十分な理解ができる。										
A (89~80点) : 能動的な学習ができ、学習および行動についての意味づけについて理解ができる。										
B (79~70点) : 能動的学習姿勢が見られ、学習および行動についておおよその理解と説明ができる。										
C (69~60点) : 指導をすれば能動的学習姿勢を維持できる。また、学習および行動について指導をうけながら理解ができる。										
D (60点未満) : Cのレベルに達していない。										

科目区分	基本教育科目一人間の理解			成するため必要能力を達成するためのプロマボリシング	人間力	○	
授業コード					ケア・スピーリット		
授業科目名	健康と生活				実践的理解		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		プロフェッショナリズム		
担当教員	稻葉政徳				多職種連携		

講義目的

健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。

授業内容

スライドによる講義を主として、時にはディスカッション形式を取り入れて学生間の意見交換を交えるなどして進めていく。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教材

テキストは特に指定しない。毎回資料を配布する。

参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、健康と生活総論	新聞などで健康、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと
2	ライフスタイルと健康①	食生活、飲酒、喫煙
3	ライフスタイルと健康②	休養、睡眠
4	ライフスタイルと健康③	運動、その他の身体活動
5	生活習慣病の科学①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法
6	生活習慣病の科学②	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムと予防方法
7	生活習慣病の科学③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法
8	生活習慣病の科学④	骨粗鬆症の発症メカニズムと改善方法
9	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取
10	加齢と健康の科学②	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防
11	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング
12	健康増進のための運動の科学②	持久性トレーニング
13	安全に生活していくための方法①	運動・活動（健康習慣）
14	安全に生活していくための方法②	仕事
15	安全に生活していくための方法③	地域での生活と活動

評価方法 および評価基準

授業の参加状況、授業態度 10%、最終試験 90%により評価する。

S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目一人間の理解			成するため必要となる能力 ディプロマボリュームを達成するため必要となる能力 ディプロマボリュームを達成するため必要となる能力 ディプロマボリュームを達成するため必要となる能力 ディプロマボリュームを達成するため必要となる能力	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット		
授業科目名	岐阜県の歴史と文化				実践的理		
配当学年/学期	1/後期	単位数	2		プロフェッショナリズム		
担当教員	池田雅志				多職種連携		

講義目的											
学外のフィールド調査を通じて、岐阜県の郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や生活を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニング的手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。											
授業内容											
2回の岐阜市のフィールド調査をもとに郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境、生活を探求することで岐阜県の風土や観光について深く学び、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）											
グループごとにテーマを決めてフィールド調査を行うことにより、岐阜地域の風土や生活について学ぶ。岐阜県以外の出身者は、岐阜県の歴史や地域に関する本を読んでおくとよい。											
教材											
テキスト：無し（随時、プリント等を配布する） 参考図書：伊藤安男著 地図で読む岐阜 飛山濃水の風土 古今書院											
授業計画および学習課題（予習・復習）											
回	内 容	学習課題（予習・復習）									
1	岐阜市の歴史について学ぶ	岐阜市の歴史や継承される祭りや風習について学ぶ。									
2	岐阜市 金華山周辺地域のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。									
3	金華山周辺地域のフィールド調査 ①	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ①									
4	金華山周辺地域のフィールド調査 ②	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ②									
5	金華山周辺地域のフィールド調査 ③	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ③									
6	金華山周辺地域のフィールド調査 ④	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ④									
7	金華山周辺地域のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。									
8	金華山周辺地域のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。									
9	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド 調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。									
10	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①									
11	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②									
12	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③									
13	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④									
14	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。									
15	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。									
評価方法 および評価基準											
授業の参加状況 10%、レポート 90%により評価する。											
S (100~90 点) : フィールド調査の内容のレポートがしっかりと出来て、さらにフィールド調査の準備・結果のまとめ・発表会に積極的に参加できた。											
A (89~80 点) : しっかりとした内容のフィールド調査レポートが出来ていた。											
B (79~70 点) : 両方のフィールド調査レポート提出ができている。											
C (69~60 点) : フィールド調査のレポートが一つしか出でていない											
D (60 点未満) : 2つのフィールド調査に出席していない											

科目区分	基本教育科目一人間の理解			テクニカルアビリティを達成するためには、コミュニケーションスキルを活用する。 実践的理学的知識を獲得する。 プロフェッショナリズムを確立する。 多職種連携する。	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット	○	
授業科目名	多文化と多様性の理解				実践的理学的知識		
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		プロフェッショナリズム		
担当教員	高久道子、三浦昌子、内藤直子、市川誠一				多職種連携		

講義目的

医療の場では、国籍や人種、文化、宗教、生活習慣、ジェンダー、セクシュアリティ等、個々の患者の多様性を看護職者として理解し、信頼関係を構築して看護ケアを実践することが求められる。この科目では、異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献等を通じて異なる文化を理解し、多文化社会に触れる機会を持ち、実際に看護の現場で起こる課題に対応できる知識や非言語コミュニケーションスキル等を学修し、多様な文化背景を持つ人を受け入れる人間力を養う。

授業内容（授業の到達目標）

多文化と多様性、異文化コミュニケーションに関する文献を読み解く。

履修学生は、講義で実施されるグループワークやディスカッションに対して積極的に参加する。

履修学生は、想像力・考察力を高めるためにレポート課題を提出する。

- 「多文化と多様性の理解」について説明できる
- 異なる文化を尊重しようとする寛容性を獲得すると同時に、自己のもつ文化とアイデンティティを認識する
- 異なる文化・宗教・言語等を有する人々に対する看護の在り方「異文化看護」理論の基礎的知識を獲得する

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

国際社会の今日、在日外国人の医療アクセスも増加し、多文化を理解した看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう各回の授業テーマにあわせた課題の予習と復習を行う。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートのフォーマットは、その都度講義時間内に行う。レポート提出による評価方法も記載しているのでシラバスを熟読して学習を進めること。

教材

テキスト1：「知って考えて実践する 国際看護」、近藤麻里、医学書院（1,800円+税）

テキスト2：「母性看護学概論」、森恵美他、医学書院（2,400円）

参考図書1：「国際看護学入門」、国際看護研究会、医学書院（2800円+税）

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、 講義「多文化と多様性の理解」のイントロダクション (高久)	世界、日本、そして私たちが住む地域でグローバル化している背景について学ぶ。多文化と多様性の定義、集団と個人がもつ多文化と多様性について掘り下げる。 (復習：テキスト1、11-19 ページ)
2	日本で暮らす外国籍の人々の背景1：「東・中央アジア地域」 (高久)	東・中央アジア地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情、日本での生活や健康課題等）について、事例や文献等を通して学ぶ。 (予習・復習：テキスト1、38-44 ページ)
3	日本で暮らす外国籍の人々の背景2：「東南アジア地域」 (高久)	東南アジア地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情、日本での生活や健康課題等）について、事例や文献等を通して学ぶ。 (予習・復習：テキスト1、46-50、90-96 ページ)
4	日本で暮らす外国籍の人々の背景3：「中南米地域」 (高久)	中米・南米地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情、日本での生活や健康課題等）について文献等を通して現状を学ぶ。 (予習・復習：テキスト1、58-66 ページ)
5	日本で暮らす外国籍の人々の背景4：「北米、ヨーロッパ、オセアニア地域」 (高久)	北米、ヨーロッパ、オセアニア地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情（移民国として）、日本での生活や健康課題等について文献等を通して現状を学ぶ。
6	日本で暮らす外国籍の人々の背景5：「中東、アフリカ地域」 日本で暮らす外国籍の人々のまとめ、ふりかえり (高久)	中東、アフリカ地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、日本での生活や健康課題等）について文献等を通して現状を学ぶ。1から5のまとめとふりかえりをおこなう。 (予習・復習：テキスト1、11-19、90-96 ページ)
7	ジェンダー、セクシュアルマイノリティ（LGBTQ） (市川・高久)	ジェンダー、セクシュアルマイノリティの定義、世界と日本における時代の動き、関連する健康問題等について文献等を用いて学ぶ。(予習・復習：テキスト1、52-56 ページ)
8	ステレオタイプとスティグマ (市川・高久)	多文化・多様性に反するステレオタイプやスティグマの定義、背景、考え方、取り組みについて学ぶ。

		日本独特で根深い深いテーマを事例を元に学び考察する（感染症、同和問題、優生保護法、刺青等）。 (予習・復習：テキスト1、67-76ページ)
9	自己とアイデンティティ（高久）	「国籍」をキーワードとして、自己とアイデンティティについて学ぶ。文献等から日本独自の文化、生活習慣、健康に関する考え方を読み解く。
10	国際化社会と看護：1.母子保健の国際化、現状と課題、意義 2.在日外国人の：妊娠・出産・新生児ケアの文化的多様性 3.ジョイセフとリプロダクティブ、初・アフリカ（内藤）	国際化社会の現状から異文化看護の現状と意義や課題を考える。アフリカ・ネパールの包括的性教育と出産文化について学ぶ。レポート課題あり（2週間後、事務に提出）。 (予習・復習：テキスト2、第6章、308-315ページ)
11	異文化看護の視点：専門看護における実践（在宅看護） (三浦)	異文化看護の視点による患者アセスメント、異文化看護の理論、日本における異文化看護の必要性について学ぶ。 「在宅看護」分野における異文化看護について事例（文献等）をもとに理論と実践を学ぶ。レポート課題あり。
12	異文化看護：日本で暮らすアジア地域出身者に対する看護・ケアの実践・グループワーク1 (高久)	日本で人口の多いアジア地域出身者の健康課題について、言語&非言語コミュニケーションの視点も加えて異文化看護の実践を学ぶ。グループワークの手法を学び、グループごとに課題を行っていく。 (復習：グループの課題に沿った情報収集・整理を行う)
13	異文化看護：日本で暮らすアジア地域出身者に対する看護・ケアの実践・グループワーク2 (高久)	在日アジア地域出身者の健康課題や異文化看護を言語&非言語コミュニケーションの視点で。引き続きグループごとに課題を行い、発表資料を完成させる。 (復習：グループの課題を発表用にまとめる)
14	異文化看護：日本で暮らすアジア地域出身者に対する看護・ケアの実践（グループワークによる課題発表）（高久）	グループによる課題発表を行う（聴者による質疑応答も含めて）。
15	日本で暮らす外国籍の患者・問題を抱える人に対する看護・ケアの実践（グループワークによる課題発表2） 講評と総括 (高久)	引き続き、グループによる課題発表を行う（聴者による質疑応答も含めて）。グループワークと課題の取り組みに対する講評・総括

評価方法 および評価基準

課題レポート 60%、グループワーク 40%（4回の内で欠席は1回につき5点減点）、より評価する。

*課題レポート（60%）の配分については、高久・市川（40%）、内藤（10%）、三浦（10%）とする。

S (100~90点)：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の実践力を獲得する。

A (89~80点)：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の知識を得る。

B (79~70点)：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得する。

C (69~60点)：「多文化と多様性」について説明できる。

D (60点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目一健康と健康障害の理解			「 に達成するため に必要な能力」 シリ	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅰ				実践的理解	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	永井博式				多職種連携	

講義目的

人体の構造と機能を細胞・組織・器官・器官系の順に学び、体の基本単位と生命活動の基本を理解する。生理学の基礎として細胞の構造と機能を学ぶことにより生命現象の本質を理解し、次いで各器官の基本的な働きと、さらに各器官の機能調節のための器官間での情報伝達について、神経および内分泌の働きを中心に分子生物学的なレベルまで理解する。各器官の個別の機能分担を理解すると同時に、各器官間の相互作用の結果生じるホメオスタシスの生理学的意義を理解する。

授業内容

人体を構成する各器官の基本的な構造とはたらき（機能）について、特に各器官の機能分担を学習し、体内環境の恒常性が維持されるしくみを理解する。講義と単元テストに基づく知識確認を行いながら、対面講義を中心とするが、機会を見て参加型講義を随時に取り入れていく

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

解剖生理学によく出る単語と概念を理解するために教科書を読み込むこと

教材

テキスト 解剖生理学 人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）

参考図書 人体機能生理学（南江堂）

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	解剖生理学のための基礎知識	人体の階層性・細胞の基本構造と機能、細胞分裂と分化
2	細胞の代謝と機能	代謝、異化作用、同化作用 エネルギー代謝
3	細胞の分裂と機能	遺伝と遺伝子、DNA、体細胞分裂、減数分裂、卵割、胚葉
4	組織とホメオスタシス	上皮組織、結合・神経・筋組織、ホメオスタシス
5	栄養の消化と吸収－消化器系：	食物の消化、吸収、運搬
6	呼吸器系のはたらき	呼吸運動、ガス交換、呼吸機能測定、呼吸調節
7	血液のはたらき	血液の機能、血球・血漿のはたらき
8	血液の循環とその調節	心臓、刺激伝導系、血管系、大循環、動脈血、静脈血
9	体液の調節と尿生成	腎、尿生成、腎のホメオスタシスにおける役割
10	内臓機能の調節－神経・中枢神経・末梢神経（自律神経）	神経概論、神経細胞、中枢神経、機能分担、
11	情報の受容と処理－神経・中枢・末梢神経（感覚神経）	自律神経、感覚神経（特殊感覚、体性感覚、内臓感覚）
12	情報の受容と処理－神経・中枢神経・末梢神経（運動神経）	運動神経、筋の種類、筋収縮
13	内分泌器官のはたらき	内分泌器官、ホルモン
14	皮膚の機能	生体防御機能、ホメオスタシス
15	生殖と発生、老化	発生、老化

評価方法 および評価基準

授業の参加の積極性 10%、レポート・単元テスト 10%、最終試験 80%により評価する。

S (100～90 点)：人体の器官系を有機的に結びつけた構成を説明できる。

A (89～80 点)：人体を構成する各器官の基本的なはたらき（機能）について説明できる。

B (79～70 点)：人体を構成する各器官の基本的なはたらき（機能）について説明できる。

C (69～60 点)：人体を構成する各器官の基本的な働きについてわかる。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目一健康と健康障害の理解			成するため必要能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅱ				実践的理○解	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	1		プロジェクトマネジメント プロフェッショナリズム	
担当教員	小萱康徳				多職種連携	

講義目的

人体の基本的な解剖学的構成の学修は、その機能、疾病および病態の理解の礎となる。本科目では肉眼解剖学を中心に人体を構成する各器官系（骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系）を学修し、さらに必要に応じて組織学的構造と発生過程を学修する。全身の運動（骨格系、筋系）と神経系の関わりを理解する。循環器系では血管系とリンパ管系の関係、体循環と肺循環、血管（動静脈、毛細血管）の構造を理解する。各内分泌器官の組織構造と分泌ホルモンの働きを理解する。腎臓が有する機能の多様性を学修する。生殖器の構造の性差および相同性について、その発生過程を通して学修する。人体の発生、胚子期から胎児期に至る過程を学修し、各組織器官の発生学的由来を理解する。

授業内容

授業では板書を基軸とするが、必要に応じて配布プリントやICTを活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業後、理解度確認のため小テストやミニレポートを実施する。

教材

テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	全身の骨と関節	人体の骨格（頭部、体幹、上肢、上肢帯、下肢および下肢帯の骨）の構成並びに骨間の関節について説明できる。
2	骨の形成と組織構造	骨の形成過程（軟骨内骨化と膜内骨化）および骨のリモデリングとそれに関わる細胞の種類と働きを説明できる。
3	骨格筋の構造と働き	骨格筋の構造（形状による分類、起始と停止）、上肢の屈筋と伸筋、下肢の屈筋と伸筋、背部と胸腹部の筋、腸腰筋、殿筋（筋肉注射）を説明できる。
4	呼吸器系	上気道（鼻腔、咽頭、喉頭）と下気道（気管、気管支、肺胞）を説明できる。喉頭の声門を開閉する筋を説明できる。
5	消化器系	消化管の基本構造と各部位での粘膜上皮の形態的特徴を説明できる。付属消化腺（唾液腺、胰臓外分泌腺、肝臓）の組織構造を説明できる。
6	血管系とリンパ管系、心臓	血管系とリンパ管系の関係、心臓の内部構造と出入りする血管、冠状動脈、心膜を説明できる。動脈と静脈の血管壁の構造の違いを説明できる。
7	大動脈から分枝する血管、体表で脈拍を触知できる血管	大動脈弓から分枝する腕頭動脈、左鎖骨下動脈と左総頸動脈、胸大動脈と腹大動脈から分枝する血管と分布域並びに脈拍を触知できる血管を説明できる。
8	泌尿器系を構成する各器官の組織構造	腎臓、尿管、膀胱、尿道の組織構造を説明できる。腎臓の機能の多様性をその組織構造に基づいて説明できる。
9	ヒトの初期発生の概要	受精、着床、胚盤胞、二層性胚盤、三層性胚盤（外胚葉、内胚葉、中胚葉）、体節、神経管、神経堤細胞に由来する組織等の発生過程を説明できる。
10	生殖器の発生と卵子、精子の形成	生殖器発生過程の性差と相同性を理解する。生殖細胞の発生由来と減数分裂による精子および卵子の形成過程を説明できる。
11	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモンとその働き	各内分泌器官（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、胰臓、性腺）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。内分泌と外分泌の違いを説明できる。
12	視覚器、聴覚・平衡覚器の組織構造	眼球の組織構造（強膜、角膜、虹彩、毛様体、水晶体、硝子体、網膜、色素上皮、脈絡膜）、蝸牛および半規管の組織構造を説明できる。
13	脳と脊髄（中枢神経）	大脳、間脳、中脳、橋、延髓、小脳、脊髄そして髄膜の位置と構造を説明できる。大脳皮質機能局在、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と働きを説明できる。

14	脳神経と脊髄神経（末梢神経）	脳神経 12 対の線維構成と支配領域を説明できる。各脊髄神経（頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）の支配領域と伝導路を説明できる。
15	自律神経系（副交感神経と交感神経）	副交感神経（脳仙系）と交感神経の各起始核（節前ニューロンの細胞体）と関連神経節（節後ニューロンの細胞体）並びに各神経の走行経過を説明できる。
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			ディプロマアセスメント ケア・スピリット 実践的理学 プロフェッショナリズム 多職種連携	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅲ				実践的理学 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	単位1		プロフェッショナリズム	
担当教員	井上眞人				多職種連携	

講義目的

人体の各機能とその制御機構について学修する。生物が生存のために常に身体の内部環境を一定に保つために、生体の各臓器、各部分がどの様に機能しているのか、またその機能を制御統合している機構について、感覚器、神経系の形態的特徴とともに理解する。人体の発生、基礎代謝と体温調節、内部環境（電解質、酸塩基平衡）、生体内情報伝達（神経系、ホルモン、各種伝達物質等）、各中枢神経の構造と機能、脳の統合機能について学ぶ。また感覚器、自律神経の構造と機能及びそれらの相互作用についても理解を深める。

授業内容

1学年で学んだ人体の解剖学的構成を基礎に、本授業では生体が様々な外的及び内的環境の変化に対応して内部環境を一定に保って生存を維持する機構について、板書を基軸として講義する。授業で使用する解剖学的及び組織学的視覚素材は前もってポータルサイト等で学生に提示し、補助教材として活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業後、理解度確認のため小テストやミニレポートを実施する。

教材

テキスト テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）

参考図書 トートラの人体の構造と機能、桑木共之他編訳、丸善出版

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ホメオスタシス（恒常性）とは	生体の恒常性維持機構の概略を説明できる。
2	人体の発生とホルモン	下垂体性腺刺激ホルモンと卵胞の成熟、排卵、黄体ホルモン、受精から着床と hCG 分泌、胎盤完成過程を説明できる。
3	上皮組織の発生過程及び形態的特徴と恒常性	外胚葉性、内胚葉性、中胚葉性上皮組織の発生過程を理解し、上皮の形態的特徴と恒常性維持に果たす役割を説明出来る。
4	内分泌系 I	各内分泌器官と分泌ホルモンを説明できる。負のフィードバック機構と正のフィードバック機構を説明できる。
5	内分泌系 II（血中 Ca ²⁺ 濃度及び血糖値の調節機構）	血中 Ca ²⁺ 濃度調節におけるカルシトニンとパラトルモンの機能を説明できる。血糖値の調節機構（高血糖時と低血糖時）における関連ホルモン、神経系、肝臓、筋細胞及び脂肪細胞の関わりについて説明できる。
6	ストレス反応と視床下部・下垂体・副腎皮質系及び視床下部・交感神経・副腎髄質系	ストレス反応と視床下部-下垂体-副腎皮質系 (HPA 軸) 及び視床下部-交感神経-副腎髄質系 (SAM 軸) の関係を説明できる。副腎髄質の発生由来と交感神経系との関係を説明できる。
7	血圧調節機構	血圧上昇及び下降に関わる要因（心拍出量、末梢血管抵抗、循環血液量、血液の粘着度、大動脈の弾力）と神経性調節及び体液性調節機構を説明できる。
8	泌尿器系 I（腎臓の機能の多様性と恒常性）	腎臓の尿生成、代謝産物排泄、酸塩基平衡調節、レニン分泌、エリスロポエチン、ビタミン D ₃ の活性化作用について腎臓の組織構造に基づいて説明できる。
9	泌尿器系 II（酸塩基平衡と浸透圧調節）	腎臓による体液の組成を一定に保つ機能を、腎臓の組織構造に基づいて説明できる。代謝性及び呼吸性アシドーシスとアルカローシスを説明できる。

10	リンパ系と免疫系	血管系とリンパ管系との関係を理解し、免疫細胞の循環路とリンパ組織での免疫反応について説明できる。
11	感覚器系と恒常性	平衡聴覚器の組織構造を理解し、身体の位置及び運動の感知と反射的平衡維持機構を説明できる。視覚器に関連した対光反射、角膜反射、幅輻反射を説明できる。
12	自律神経系と恒常性	自律神経の走行経過と節前ニューロン、節後ニューロン及び自律神経節について説明できる。各器官に対する交感神経と副交感神経の働きを説明できる。
13	中枢神経系Ⅰ（大脳皮質の一次野と連合野）	大脳皮質機能局在を説明できる。一次野と連合野（前頭連合野、頭頂連合野、側頭連合野）の連携と機能障害による高次脳機能障害を説明できる。
14	中枢神経系Ⅱ（間脳と脳幹における生命維持機構）	間脳-視床下部（体温調節中枢、摂食調節中枢、飲水調節中枢、下垂体機能調節）と脳幹-延髄（呼吸中枢、心臓血管中枢、嚥下中枢、嘔吐中枢、唾液分泌中枢）の生命維持機構に果たす役割を説明できる。
15	中枢神経と体性神経	中枢神経（脳と脊髄）内における体性神経（感覚神経と運動神経）の伝導路を、求心性伝導路と遠心性伝導路に分け、様々な刺激に対する反射的な反応を迅速に行う過程を説明できる。

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。

S (100~90点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目一健康と健康障害の理解			成するため に必要な能力 ◆ディプロマホリシーを達成するため に必要な能力 ○実践的理 解 ◆プロフェッショナリズム ◆多職種連携	人間力					
授業コード					ケア・スピ リット					
授業科目名	栄養代謝学				実践的理 解					
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		プロフェッショナリズム					
担当教員	森裕志				多職種連携					
講義目的										
ヒトは摂食しないで生きることはできない。ヒトは食べたものをどのように利用して生命を維持しているのだろうか。本授業では、生命の基本構造である細胞の成り立ちと細胞が生きていくための仕組み、それを支える栄養素についての理解を深める。食物の消化、栄養素の吸収、代謝、排泄の機構を学び、生命の維持と栄養の関わりについて理解を深め、2年生で受講する栄養治療学における疾病・治療と栄養の関わりを理解するための基礎的知識を得る。										
授業内容										
栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するためには分解したり、取り込んだ物質を材料に生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本授業では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内における役割、どのように消化・吸収され、代謝されるか、さらに、酵素、ビタミン、微量元素、ホルモンの関わりを主として生化学的な観点から解説する。										
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）										
教材										
テキスト：栄養生化学 第5版（人体の構造と機能2） 脊山洋右ら編 メディカルフレンド社 2019年 参考図書：栄養学の基本が分かる辞典 川島由起子 監修 西東社										
授業計画および学習課題（予習・復習）										
回	内 容	学習課題（予習・復習）								
1	栄養と生化学、人体と栄養生化学	栄養に関連した生化学用語を知る。人体を構成する細胞、組織、臓器の構造と機能を知り、栄養との関連を理解する。								
2	食物と栄養	栄養と健康の関連を理解する。食品の種類と分類、それらに含まれる栄養素と栄養価を理解する。								
3	糖質の栄養生化学	生体における糖質の役割、分類と構造を理解する。糖質の消化吸収、代謝を理解する。								
4	脂質の栄養生化学	脂質の種類を理解する。生体における脂質の役割、分類と構造の概略を理解する。脂質の消化吸収、代謝を理解する。								
5	タンパク質の栄養生化学	生体におけるタンパク質の役割を理解する。タンパク質の構造と構成成分を理解する。タンパク質の消化・吸収、代謝について理解する。								
6	エネルギーの生化学	ATP 産生を中心としたエネルギー産生のメカニズムを理解する。糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関係を理解する。								
7	酵素の栄養生化学	酵素の働きと酵素反応の特性を理解する。酵素反応の促進因子、阻害物質について理解する。補酵素の働きを理解する。								
8	ビタミン・ミネラルの生化学	生体におけるビタミン・ミネラルの役割を理解する。ビタミン・ミネラルの過剰症・欠乏症を知る。								
評価方法および評価基準										
授業態度と小試験 20%、最終試験 80%により評価する。										
授業態度、小試験、最終試験の合計点を以下のように判定する。										
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。										
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している。										
B (79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。										
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている。										
D (60点未満) : Cのレベルに達していない。										

科目区分	専門教育関連科目一健康と健康障害の理解			人間力 に達する能力 をもつて、 必要な能力 をもつて、 マトリシス	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	人間の生殖と発達				実践的理解 ○	
配当学年/学期	1 /後期	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子				多職種連携	

講義目的

女性のみならず男性の身体と心の特徴もふまえながら、人間にとて健やかな「性と生殖（セクシャリティ）」について、理解を深めていく。また、女性および母性の健康に影響を与える文化的および社会的環境についても理解し、現代社会における問題や課題について、グローバルな視野で考えることをめざす。ライフサイクルの各期で生じる可能性のある健康上の問題について理解を深め、専門職者と協働した健康の保持増進のためのヘルスプロモーションについて学ぶ。

授業内容

- 到達目標
1. 種の存続としての生殖器の構造と機能について説明できる。
 2. 周産期における身体的・心理社会的特性について説明できる。
 3. 小児各期における身体的成长・発達、認知・発達の特徴を説明できる。
 4. 老年期の心身の変化の特徴について説明できる。
 5. ライフサイクルにおける生殖と発達について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からぬことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

教材

テキスト 特に指定しない (授業ごとに資料を配布する)

- 参考図書
- ・森恵美他著、「系統看護学講座 母性看護学概論」「系統看護学講座 母性看護学各論」、医学書院
 - ・坂井建雄/岡田隆夫著、「系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学」、医学書院
 - ・奈良間美保他著、「系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論」、医学書院
 - ・北川公子他著、「系統看護学講座 老年看護学」、医学書院
 - ・服部祥子著、「生涯人間発達論」、医学書院、

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	生殖を中心にみたライフサイクルの特徴	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】配布資料を読み返す ※5minutes test
2	男性の生殖器の構造と機能・女性の生殖器の構造と機能	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
3	妊娠期・分娩期・産褥期の身体的特性と心理・社会的特性	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】配布資料を読み返す ※5minutes test
4	性と生殖の発達に影響する要因（家族・地域・生物学的環境・社会文化的環境）と、生殖の過程における今日的課題	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】配布資料を読み返す ※5minutes test
5	小児の人体構造学並びに生理学的特徴と発達評価の諸方法	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
6	・胎児期～乳児期における心身の成長発達（愛着、親子の絆の確立） ・幼児期～学童期における心身の成長発達（発達理論、遊びや友人関係の発達、学習、道徳性）	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】配布資料を読み返す ※5minutes test
7	・思春期における心身の成長発達（第二次性徴の発現、アイデンティティの模索、性役割、恋愛） ・子どもの成長発達と家族および社会・自然環境並びに今日的課題	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
8	・老年期の心身の変化の特徴と、老年期の性に関する今日的課題 ・①～⑧のまとめ	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test

評価方法 および評価基準

授業の参加状況10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。

S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (excellent)

A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (very Good)

B (79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (pass)

D (60点未満) : Cのレベルに達していない (Failure)

科目区分	専門教育関連科目 健康と健康障害の理解			デイ ア・スビリッ ト 実践的理 解 プロフェッショ ナリズム 多職種連携 を達成す る方針	
授業コード					
授業科目名	人間の健康と社会・心理的適応				
配当学年/学期	2年 前期 選択	単位数	1単位		
担当教員	松井一久				

講義目的	<p>健康という切り口から人間や社会について理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康にどのように関わっているかについて理解に努める。また、人間の健康を維持・増進するために社会や環境がどうあるべきかについても理解する。さらに、日本が取り組んでいる健康政策の変遷から、今後、我が国が取り組むべき健康に対する課題について学修する。</p>																													
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 看護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、看護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養できる。 社会における人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解できる。 人が主体的に社会との共生する自己の生活を営もうとすることが自立であると、捉えることができる。 																													
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)	<p>教材に基づき自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。また、各自の理解度を確認するためのミニレポートを適宜実施する。</p>																													
教材	<p>テキスト「基礎から学ぶ健康管理概論」、柳川洋編、南江堂、「心を病む人の生活を支える看護」、坂田三允編、中央法規 参考図書 2020年国民衛星の動向</p>																													
授業計画および学習課題(予習・復習)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題(予習・復習)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康とは何か、健康の定義(小野)</td> <td>授業内容に関連するミニレポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>健康阻害要因、環境と健康、健康統計指標(小野)</td> <td>授業内容に関連するミニレポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>青少年を取り巻く社会と心の病(小野)</td> <td>授業内容に関連するミニレポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>働く人の心の病と精神保健(小野)</td> <td>授業内容に関連するミニレポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>高齢者を取り巻く環境と心の病(小野)</td> <td>授業内容に関連するミニレポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>我が国の健康政策の変遷(感染症から)(石井)</td> <td>健康長寿社会の実現に向けて各自で調べておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現状の健康政策の理解(感染症からの理解)(石井)</td> <td>第4類感染症などの理解を深める</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>心身の健康の維持増進の具体策の提案とまとめ(石井・小野)</td> <td>グループごとのまとめを発表する</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容	学習課題(予習・復習)	1	健康とは何か、健康の定義(小野)	授業内容に関連するミニレポート	2	健康阻害要因、環境と健康、健康統計指標(小野)	授業内容に関連するミニレポート	3	青少年を取り巻く社会と心の病(小野)	授業内容に関連するミニレポート	4	働く人の心の病と精神保健(小野)	授業内容に関連するミニレポート	5	高齢者を取り巻く環境と心の病(小野)	授業内容に関連するミニレポート	6	我が国の健康政策の変遷(感染症から)(石井)	健康長寿社会の実現に向けて各自で調べておく	7	現状の健康政策の理解(感染症からの理解)(石井)	第4類感染症などの理解を深める	8	心身の健康の維持増進の具体策の提案とまとめ(石井・小野)	グループごとのまとめを発表する
回	内 容	学習課題(予習・復習)																												
1	健康とは何か、健康の定義(小野)	授業内容に関連するミニレポート																												
2	健康阻害要因、環境と健康、健康統計指標(小野)	授業内容に関連するミニレポート																												
3	青少年を取り巻く社会と心の病(小野)	授業内容に関連するミニレポート																												
4	働く人の心の病と精神保健(小野)	授業内容に関連するミニレポート																												
5	高齢者を取り巻く環境と心の病(小野)	授業内容に関連するミニレポート																												
6	我が国の健康政策の変遷(感染症から)(石井)	健康長寿社会の実現に向けて各自で調べておく																												
7	現状の健康政策の理解(感染症からの理解)(石井)	第4類感染症などの理解を深める																												
8	心身の健康の維持増進の具体策の提案とまとめ(石井・小野)	グループごとのまとめを発表する																												
評価方法および評価基準	<p>○○により評価する。</p> <p>S(100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。</p> <p>A(89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。</p> <p>B(79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。</p> <p>C(69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。</p> <p>D(60点未満) : Cのレベルに達していない。</p>																													

科目区分	専門教育関連科目 健康と健康障害の理解			デイ アーフロマ ト タリ スビリッ ト 実践的理 解 ○ プロフェッ ショナリスム 多職種連携	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	生体防御学				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッ ショナリスム	
担当教員	永井博式・森裕志				多職種連携	

講義目的

免疫系は身体を外界の異物から守り、生体の恒常性を保つために必須な機能である。様々な感染症やアレルギー疾患、癌など、現代の医学、医療において免疫系が関わる事柄は少なくない。本講義では、感染症、免疫系の仕組み、免疫細胞、免疫関連分子、自然免疫と獲得免疫等を中心に、生体防御機構について体系的に学ぶ。

授業内容

免疫は、微生物感染に対する生体防御機構として生命の進化とともに発達してきた。本授業では、まず、病原微生物と感染症について学び、ついで免疫による生体防御機構について学ぶ。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業の復習として、各章の終わりにある国家試験過去問題および演習問題をその都度学習しておくこと。

教材

テキスト 新体系看護学全書 成人看護学9 「感染症／アレルギー・免疫／膠原病 第4版」 メディカルフレンド社
参考図書 系統看護学講座 専門基礎「微生物学」 医学書院

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	感染症と病原微生物	感染症の基礎知識として病原微生物の種類とそれらの違いを理解する。予習：原核細胞および真核細胞の構造の違い、ウイルスの特徴を復習しておく。
2	感染症の主な症状、診察・検査・治療	感染症に関連した医学用語を理解する。病原微生物の検査法の概略と手順を知る。感染症治療薬の概要を理解する（治療薬の詳細については他の授業で学ぶ）。
3	主要な感染症と予防	臓器別感染症の特徴と病原体について理解する。感染症法の目的と感染症法における感染症の分類を理解する。予防接種の種類を知る。
4	感染症患者の看護	感染症患者の看護の基本を理解し、各症状別および感染病原体別の看護のポイントを把握する。スタンダード・プリコーションの概念と方法を理解する。
5	生体防御機構	ヒトが持つ生体防御機構の概略と、免疫について学ぶ。特に自然免疫と獲得免疫の2種類の免疫の特徴とワクチンなどの免疫反応の応用について理解する。
6	免疫系の細胞及び因子	免疫系に働く細胞と機能する因子について学ぶ。さらに、これらの細胞と因子の働きによる免疫系の活性化機序を理解する。
7	免疫異常疾患とアレルギー疾患	免疫の異常にによる疾患の発症とその種類及びアレルギー疾患の種類と検査と治療法について学ぶ。特に急性期及び慢性期の治療について理解する。
8	自己免疫疾患・膠原病	免疫異常にによって発症する疾患のうち、自己免疫疾患すなわち膠原病について、その種類と発症機序及び薬物治療について学ぶ。

評価方法 および評価基準

授業態度と小試験 20%、最終試験 80%により評価する。

S (100~90 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-専門教育関連科目 健康と健康障害の理解			デイリーマネジメント による多様な人材育成	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	栄養治療学				実践的理解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	熊崎貴仁				多職種連携	

講義目的

健康を維持するためには適切な食事は極めて重要である。健康を維持するためには日常生活ではどのような食事が望ましいか、各年齢層別の栄養管理、妊娠時の栄養管理、生活習慣病にならないための栄養管理、疾患時に注意すべき食事の制限や病院における栄養管理の概要、代表的な疾患別の食事療法について理解を深める。

授業内容

栄養状態の評価方法と対応、栄養指導、栄養素の働き、消化吸収について学び、それらの発展として、疾患別の栄養管理や食事指導、経管栄養について述べる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教科書の講義範囲を予習して概略を理解し、授業に臨むこと。また、復習として教科書に付属の整理ノートを中心に学習し、確認問題を行うこと。

教材

テキスト わかりやすい栄養学 第5版 中村美智子・長谷川恭子 編集 ヌーベルヒロカワ 2020年

参考図書 わかりやすい生化学 第5版－疾病と代謝・栄養の理解のために一、齊藤邦明 編集、ヌーベルヒロカワ 2019年

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	健康と栄養	食生活の評価、栄養状態の評価、看護と栄養について理解を深める
2	日常生活と栄養	基礎代謝量、摂取基準、活動と必要エネルギー量の計算について理解する
3	栄養指導・保健指導	栄養指導方法と病院食、保健指導方法の概略を理解する。
4	食物と栄養	食品に含まれる栄養素とその働き・役割を理解する。食物の摂取と吸収・排泄について理解する。
5	ライフステージと健康教育	各ライフステージにおける健康と食生活の変化について理解を深める。
6	疾患別の栄養指導（1）	栄養代謝疾患・循環器疾患の病態と栄養療法について理解する。
7	疾患別の栄養指導（2）	肝疾患、腎疾患、消化器系疾患の病態と栄養療法について理解する。
8	疾患別の栄養指導（3）	経管栄養・静脈栄養・在宅栄養について理解する。

評価方法および評価基準

授業態度と小試験 20%、最終試験 80%により評価する。

S (100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目一健康と健康障害の理解			ため シード を達成 する 能	人間力	<input checked="" type="radio"/>	
授業コード					ケア・スピリット	<input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	医療薬理学				実践的理解		
配当学年/学期	2/後期	単位数	1		プロフェッショナリズム		
担当教員	永井博式				多職種連携		

講義目的

疾病の治療に薬物治療は必須である。しかし、薬物は適正使用の範囲を超えると、重篤な副作用を患者に引き起こす恐れがある。各種疾患に応じた投与前の準備から投与後の経過観察までの一連のプロセスについての薬物の適正使用法の詳細を知り、薬物による副作用など患者に不利益とならない投薬について知ることを目的とする。

授業内容

薬理学および薬物治療学の基礎理論ならび臨床応用に役立つ適正使用の基礎的な知識について講述する。薬物の作用は各種疾患別に臨床で使用される医薬品の薬理作用、薬効発現機序、病態との関連および副作用について述べる。そのほか医薬品に関する必須の知識を講義する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

理解できないことはそのままにせず、隨時質問して理解してほしい。薬品名は一般名を使って講義する。

教科書、プリントおよび液晶プロジェクターを使って講義する。

教材

テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち ② 臨床薬理学 メディカ出版

参考図書 系統看護学講座 専門基礎「薬理学」医学書院

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	医薬品総論 1	医薬品の分類、関連法律、薬理作用の発現原理について
2	医薬品総論 2	医薬品の体内動態、影響因子、副作用、相互作用
3	医薬品総論 3	医薬品の安全および適正な使用法
4	主な生活習慣病治療に使用する薬物 1	生活習慣病発症、心・循環器系疾患と代謝性疾患について
5	主な生活習慣病治療に使用する薬物 2	生活習慣病治療薬について
6	がん・痛みの治療に使用する薬物	薬物治療可能ながん、がん性疼痛治療について
7	主な脳・中枢神経系疾患治療に使用する薬物 1	中枢神経系の神経伝達物質と疾患発症及び治療薬
8	主な脳・中枢神経系疾患治療に使用する薬物 2	てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー型認知症治療
9	感染症治療に使用する薬物 1	化学療法薬と微生物、作用機序
10	感染症治療に使用する薬物 2	化学療法薬使用上の注意
11	救命救急時に使用する薬物	緊急時の医薬品の投与
12	アレルギー・免疫不全の治療に使用する薬物	アレルギー疾患および自己免疫疾患治療薬
13	消化器系の疾患治療に使用する薬物	消化器系疾患の治療薬
14	代謝・内分泌系の異常に使用される薬物	代謝系内分泌系疾患の治療薬
15	その他の疾患治療に使用する薬物	その他、臨床的に大切な疾患治療薬

評価方法 および評価基準

授業態度と小試験 20%、最終試験 80%により評価する。

S (100~90 点) : 社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。

A (89~80 点) : チームケアまたは、多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。

B (79~70 点) : 多職種の連携のあり方、退院調整について説明できる。

C (69~60 点) : サービス提供に関し連絡することがわかる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-専門教育関連科目 健康と健康障害の理解			デイリーマネジメントを達成するための必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	病理学				実践的理解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	川田憲司				多職種連携	

講義目的

さまざまな疾病の原因を科学的に理解し、疾病の機序を学びその結果として人体にどのような影響が現れるか、特に組織の構造や機能に現れる変化について学ぶ。授業では、病理学の概要、細胞、炎症、免疫とアレルギー、感染症、循環障害、代謝異常、内分泌臓器の分泌ホルモンと機能、新生児の病理と先天異常、血液と骨髄、肺、消化管、肝臓、脾臓、腎・泌尿器の病理について体系的に学修する。

授業内容

講義内容は形態的变化から疾病を把握することが必要であることから、病変のスライド投影を加えてより理解度を高められるようにする。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

全授業時間数のうち2／3以上の出席を必須条件とし、加えて小テストを実施する。

教材

テキスト 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 発行者 医学書院

参考図書 カラーで学べる病理学 Nouvelle Hirokawa

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	病理学の役割・意義・学び方 病因／細胞の損傷	病理学の学習意義を考えてまとめよう。病因を分類し、どのようなものがあるかをまとめよう。
2	細胞の適応現象・細胞の死および変性の種類	刺激の程度(強さ・作用時間)の違いによる細胞反応のパターンをまとめよう。
3	組織の修復と創傷治癒 循環障害①浮腫・充血・うつ血・出血	肉芽組織と瘢痕組織についてまとめよう。循環器系を復習しておこう。充血とうつ血の違いとそれぞれの原因についてまとめよう。
4	循環障害②血栓症・塞栓症・虚血・梗塞	血栓症・塞栓症の違いと梗塞との関係を考えよう。
5	循環障害③側副循環・ショック・高血圧の病変・DIC	肝硬変による側副循環の病変を整理しよう。 高血圧と心・血管病変およびDICをまとめよう。
6	炎症 ①分類・経過・浸潤細胞・炎症メディエーター	炎症の症状および炎症巣を形成する細胞の種類とそれらの働きをまとめよう。
7	炎症 ②各型 免疫と免疫不全	炎症の各型と炎症巣の白血球との関係を整理しよう。 免疫に関与する細胞種と働きについてまとめよう。
8	アレルギーと自己免疫疾患・膠原病 移植と再生医療	アレルギーの機序と疾患例をまとめよう。自己免疫疾患の特徴と代表的疾患を列挙しよう。臓器移植と骨髄移植の相違についてまとめよう。
9	主な病原体と感染症	病原体を分類し、それぞれの代表的疾患の病変像の特徴を捉えよう。
10	代謝異常 ①脂質代謝異常・タンパク質代謝異常	動脈硬化症と続発症および危険因子をまとめよう。
11	代謝異常 ②糖尿病・糖原病・痛風・黄疸・結石	糖尿病および高尿酸血症のそれぞれについてまとめよう。ビリビン代謝と黄疸の分類についてまとめよう。結石症を列挙しよう。
12	老化と個体死 先天異常 ①分類・奇形の原因・発生機構 胎児障害因子	加齢と各臓器の変化および死の徵候をまとめよう。 体表的な奇形とその発生要因についてまとめよう。
13	先天異常 ②遺伝子異常・診断と治療	先天異常の診断法についてまとめよう。
14	腫瘍 ①分類・機能性腫瘍・前がん病変・境界病変	腫瘍の分類と増殖の様式および腫瘍組織の形態異常の特徴をまとめよう。

15	腫瘍 ②悪性腫瘍の広がりと影響・進行度 腫瘍の発生病理・発生因子・腫瘍マーカー	転移の3経路と代表的な例をあげよう。癌遺伝子と癌抑制遺伝子および腫瘍マーカーの代表例をあげよう。発生頻度の高い小児がんをあげよう。死亡率の高い順に男女それぞれにつき3つをあげよう。
評価方法 および評価基準		
定期試験と提出物の結果を総合して評価する。		
S (100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
A (89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
B (79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。		
C (69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない。		

科目区分	専門教育関連科目一健康と健康障害の理解			成するためには 必要な能力 ティプロマボリシーを達成	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論 I (成人 A)				実践的理 解	
配当学年/学期	1 / 後期	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀				多職種連携	

講義目的

看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾患と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、呼吸循環器、血液、内分泌、栄養代謝系、アレルギー免疫、腎泌尿器疾患の病態を理解する。

授業内容

疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

教材

テキスト 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学 2 3 4 6 8 11

参考図書 ヌーベルヒロカワ 臨床病態学 1~3巻

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	呼吸器疾患①	呼吸器感染症
2	呼吸器疾患②	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患
3	呼吸器疾患③	肺癌、肺塞栓症、気胸
4	循環器疾患①	虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）
5	循環器疾患②	心不全、不整脈
6	循環器疾患③	弁膜症、先天性心疾患、
7	循環器疾患④	心筋症、心移植、大動脈疾患
8	血液疾患①	貧血疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血）
9	血液疾患②	白血病、出血性疾患
10	内分泌疾患①	下垂体疾患、甲状腺疾患
11	内分泌疾患②	副甲状腺疾患、副腎疾患
12	代謝性疾患	糖尿病、脂質異常症
13	免疫・膠原病	膠原病（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症） HIV 感染症
14	腎・泌尿器疾患①	急性腎不全、慢性腎不全、人工透析、腎移植
15	腎・泌尿器疾患②	ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、前立腺肥大、尿失禁、尿路結石

評価方法 および評価基準

定期試験成績 100%により評価する。

S (100~90点) : 講義目的の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。

A (89~80点) : 講義目的の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。

B (79~70点) : 講義目的の内容の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。

C (69~60点) : 講義目的の内容のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目一健康と健康障害の理解			人間力 デイブ （必要とするため） ロマ ボリシ ン	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅱ（成人B）				実践的理解 ○	
配当学年/学期	1/後期	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀、河田好泰				多職種連携	

講義目的

(概要) 看護の対象である人間についての疾患、治療についての基礎的知識を多面的かつ包括的に修得することを目的とする。本科目では、成人期にみられる消化器・肝胆脾の代表的な疾患に加え、脳神経外科学、乳腺疾患、皮膚科学、整形外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学における代表的な疾患の病態を理解し、適切な検査、診断、治療、予防法および予後について学ぶ。それぞれの障害が日常生活とどのような関連があるかを考え、健康から疾患に至る変化のプロセスを理解する。

(オムニバス方式 全15回)

(1 河田美紀/12回)

消化器・肝胆脾疾患、脳神経外科学、乳腺疾患、皮膚科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学における代表的な疾患における疾患の病因、症状、検査、治療

(46 河田好泰/3回)

運動器疾患（整形外科学）における特徴的症状や特徴的な疾患（外傷、変形性関節症、骨腫瘍、脊椎疾患、関節リウマチ等）の病因、症状、検査、治療

授業内容

疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

教材

テキスト 統一看護学講座専門II 成人看護学5, 7, 9, 10, 12, 13, 14, 15（医学書院）

参考図書 ヌーベルヒロカワ 臨床病態学1～3巻

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	運動器疾患①	外傷性疾患（骨折・脱臼・捻挫・神経筋の損傷等）
2	運動器疾患②	先天性疾患、骨関節の炎症性疾患、腫瘍
3	運動器疾患③	代謝性骨疾患、筋・腱・神経・脊椎の疾患
4	消化器疾患①	食道疾患（食道癌）、胃疾患（胃潰瘍・胃癌）
5	消化器疾患②	小腸・大腸疾患（腸閉塞、炎症性疾患、大腸癌）
6	消化器疾患③	肝疾患（ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌）
7	消化器疾患④	胆のう疾患（胆石症）、脾疾患（急性脾炎、脾臓癌）
8	脳神経系疾患①	脳血管障害（脳出血・くも膜下出血）、頭部外傷
9	脳神経系疾患②	脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作）
10	脳神経系疾患③	脳腫瘍、筋疾患、脱髓・変性疾患、感染症
11	乳腺疾患	乳癌、乳腺症
12	皮膚科疾患	接触性皮膚炎、じんま疹、白斑症、皮膚癌、褥瘡、熱傷
13	眼科疾患	白内障、緑内障、網膜疾患
14	耳鼻咽喉科疾患	鼻アレルギー、副鼻腔炎、中耳炎、メニエール病、喉頭癌
15	歯科・口腔外科疾患	齶蝕、口腔領域の疾患

評価方法 および評価基準

定期試験 100%により評価する。

S (100～90点) : 講義目的の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。

A (89～80点) : 講義目的の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。

B (79～70点) : 講義目的の内容の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。

C (69～60点) : 講義目的の内容のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			テクノロジーハブ による コミュニケーション を構成する ための 必要な 時間	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）				実践的理 解	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	井上眞人、河田美紀				多職種連携	

講義目的

看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は代表的な精神疾患の病因、症状、検査、治療について、後半は高齢者に特有な疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。

授業内容

(45 井上眞人／8回)

精神医学における代表的な精神疾患（統合失調症、気分障害、神経症性障害、器質性精神障害、精神作用物質による精神および行動の障害、等）の病因、症状、検査、治療

(1 河田美紀／7回)

老年医学における加齢による心身の変化の特徴的症状や特徴的な疾患（認知症を代表とする神経疾患、誤嚥性肺炎を代表とする呼吸器疾患、高血圧を代表とする循環器疾患、逆流性食道炎を代表とする消化器疾患等）の病因、症状、検査、治療

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教材

精神 テキスト 岩崎弥生/渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護。

2019年11月メディカルフレンド社

参考図書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学の基礎 精神看護学① 第5版 医学書院, 2017

系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版 医学書院, 2016

高齢者 テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 2018

参考図書 新体系看護学全書 老年看護学 健康障害を持つ高齢者の看護 第4版 メディカルフレンド社 2016

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	総論：精神疾患の分類、精神科リハビリテーション…リカバリー（回復）を支えるための援助方法 ICD10 ; F2 : 統合失調症および関連疾患の診断	予習：既習の精神医学的問題に関する看護過程を振り返る。 復習：リカバリー（回復）のプロセスにおいて、看護職が担う役割を理解する。
2	ICD10 ; F2 : 統合失調症および関連疾患の治療	統合失調症の診断・治療に関する援助過程において、看護職が担う役割を理解する。
3	ICD10 ; F3 : 気分（感情）障害：うつ病の診断・治療	気分（感情）障害：うつ病の診断・治療に関する援助過程において、看護職が担う役割を理解する。
4	ICD10 ; F3 : 気分（感情）障害：双極性感情障害の診断・治療	気分（感情）障害：うつ病の診断・治療に関する援助過程において、看護職が担う役割を理解する。
5	ICD10 ; F4:神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の診断と治療、	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の診断・治療に関する援助過程において、看護職が担う役割を理解する。
6	ICD10 ; F5 : 生理的障害および 身体的要因に関連した行動症候群、F6 : 成人のパーソナリティおよび行動の障害の診断と治療	生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群、成人のパーソナリティおよび行動の障害の診断・治療に関する援助過程において、看護職が担う役割を理解する。
7	ICD10;F7:知的障害、F8:心理的発達の障害、F9:小児期・青年期に通常発症する行動および情緒の障害の診断と治療	知的障害、心理的発達の障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害の診断と治療に関する援助過程において、看護職が担う役割を理解する。
8	ICD10;F0: 器質性精神障害の診断と治療、F1:精神作用物質等による精神および行動の障害の診断と治療、	器質性精神障害、精神作用物質等による精神および行動の障害の診断と治療に関する援助過程において、看護職が担う役割を理解する。

9	高齢者の生理的特徴①	認知・知覚・呼吸・循環器機能の老化
10	高齢者の生理的特徴②	消化・代謝・排泄・免疫機能の老化
11	老年症候群	意識障害、せん妄、脱水症、排尿障害
12	高齢者のフィジカルアセスメント	診察方法、検査
13	高齢者の疾患の特徴① 神経疾患	認知症
14	高齢者の疾患の特徴② 循環器・呼吸器疾患	高血圧、動脈硬化症、肺炎、結核
15	高齢者の疾患の特徴③ 消化器疾患	逆流性食道炎、虚血性腸炎
評価方法 および評価基準		
試験 (50%)、受講課題に関する提出物 (50%) により評価する。		
優 (100~80 点) : 精神疾患および高齢者に特有な疾患の診断・治療に関して必要な基礎的知識が十分身につき、看護職が担う役割を考えることができる。		
良 (79~70 点) : 精神疾患および高齢者に特有な疾患の診断・治療に関して必要な基礎的知識が概ね身につき、看護職が担う役割を考えることができる。		
可 (69~60 点) : 精神疾患および高齢者に特有な疾患の診断・治療に関して必要な基礎的知識が不十分な箇所はあるが身につき、看護職が担う役割を考えることができる。		
不可 (60 点未満) : 可のレベルに達していない。		

科目区分	-専門教育関連科目 健康と健康障害の理解			テイプロマホリックを達成するためには、 ○実践的理 解 ○プロフェッショナリズム ○多職種連携	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論IV（小児・母性）				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	磯貝光治				多職種連携	

講義目的																								
(概要) 看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は周産期の異常と婦人科疾患について、その病因、症状、検査、治療について学ぶ。後半は小児期の疾患、障害の特徴について理解し、小児期の循環器系、呼吸器系、消化器系、染色体異常等の代表的な疾患と治療の概要について学ぶ。 (オムニバス方式 全16回) (近藤直実/7回)																								
小児の疾患と障害及びその病因、症状、検査、治療 (尾藤長雄 9回)																								
周産期の異常と婦人科疾患及びその病因、症状、検査、治療																								
授業内容																								
(小児) 小児の成長発達、および小児期の疾患、障害について理解、修得する。																								
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)																								
(小児) 教科書を中心に事前学習、および講義内容を中心に事後学習を、各60分ずつ行う																								
教材																								
テキスト(小児) 以下のテキストは小児看護学の一部と同じ ナーシンググラフィカ 小児看護学 (3) 小児の疾患と看護 第2版 中村編 メディカ出版 3520円																								
参考図書																								
授業計画および学習課題(予習・復習)																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題(予習・復習)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小児の成長と発達 (近藤)</td> <td>小児の成長と発達につき修得する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新生児と疾患 (近藤)</td> <td>新生児と疾患につき修得する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>遺伝性疾患、染色体異常、代謝、内分泌疾患 (近藤)</td> <td>出生前小児科学、代謝、内分泌疾患につき修得する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>免疫、アレルギー疾患、膠原病、感染症 (近藤)</td> <td>免疫、アレルギー疾患、感染症につき修得する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>循環器疾患、腎泌尿器疾患 (近藤)</td> <td>循環器疾患、腎泌尿器疾患につき修得する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消化器疾患、血液腫瘍疾患 (近藤)</td> <td>消化器疾患、血液腫瘍疾患につき修得する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>神経、筋、精神疾患 (近藤)</td> <td>神経、筋、精神疾患につき修得する。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題(予習・復習)	1	小児の成長と発達 (近藤)	小児の成長と発達につき修得する。	2	新生児と疾患 (近藤)	新生児と疾患につき修得する。	3	遺伝性疾患、染色体異常、代謝、内分泌疾患 (近藤)	出生前小児科学、代謝、内分泌疾患につき修得する。	4	免疫、アレルギー疾患、膠原病、感染症 (近藤)	免疫、アレルギー疾患、感染症につき修得する。	5	循環器疾患、腎泌尿器疾患 (近藤)	循環器疾患、腎泌尿器疾患につき修得する。	6	消化器疾患、血液腫瘍疾患 (近藤)	消化器疾患、血液腫瘍疾患につき修得する。	7	神経、筋、精神疾患 (近藤)	神経、筋、精神疾患につき修得する。
回	内 容	学習課題(予習・復習)																						
1	小児の成長と発達 (近藤)	小児の成長と発達につき修得する。																						
2	新生児と疾患 (近藤)	新生児と疾患につき修得する。																						
3	遺伝性疾患、染色体異常、代謝、内分泌疾患 (近藤)	出生前小児科学、代謝、内分泌疾患につき修得する。																						
4	免疫、アレルギー疾患、膠原病、感染症 (近藤)	免疫、アレルギー疾患、感染症につき修得する。																						
5	循環器疾患、腎泌尿器疾患 (近藤)	循環器疾患、腎泌尿器疾患につき修得する。																						
6	消化器疾患、血液腫瘍疾患 (近藤)	消化器疾患、血液腫瘍疾患につき修得する。																						
7	神経、筋、精神疾患 (近藤)	神経、筋、精神疾患につき修得する。																						
評価方法および評価基準																								
(小児) : 期末試験(80%) および小テスト(20%) により評価する (近藤)。																								
S(100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。																								
A(89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。																								
B(79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。																								
C(69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。																								
D(60点未満) : Cのレベルに達していない。																								

科目区分	-専門教育関連科目 健康と健康障害の理解			ディプロマポリシー達成するためには必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論IV（小児・母性）				実践的理義 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	尾藤長雄				多職種連携	

講義目的

(概要) 看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は周産期の異常と婦人科疾患について、その病因、症状、検査、治療について学ぶ。後半は小児期の疾患、障害の特徴について理解し、小児期の循環器系、呼吸器系、消化器系、染色体異常等の代表的な疾患と治療の概要について学ぶ。

(オムニバス方式 全16回)

(7尾藤長雄 9回)

周産期の異常と婦人科疾患及びその病因、症状、検査、治療

(近藤直実/7回)

小児の疾患と障害及びその病因、症状、検査、治療

授業内容

母性：周産期の異常と婦人科疾患およびその原因、症状、検査、治療

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

国試過去問をしっかり解いておく

教材

テキスト 女性生殖器（松岡浩他 医学書院 2530円） 母性看護（森恵美他 医学書院 3300円）

参考図書 女性生殖器講義サブノート、母性看護講義サブノート

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	医療の動向と看護 女性生殖器の構造と機能	女性生殖器サブノートを読み返す
2	診察・検査と治療・処置	女性生殖器サブノートを読み返す
3	疾患の理解	女性生殖器サブノートを読み返す
4	疾患の理解	女性生殖器サブノートを読み返す
5	出生前診断 遺伝学	母性看護講義サブノートを読み返す
6	妊娠の異常と看護	母性看護講義サブノートを読み返す
7	妊娠の異常と看護	母性看護講義サブノートを読み返す
8	分娩の異常と看護	母性看護講義サブノートを読み返す
9	分娩の異常と看護	母性看護講義サブノートを読み返す

評価方法 および評価基準

最終試験 100%により評価する。

S (100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	-専門教育関連科目 社会と環境の理解			ティーチング法 ための プロマネジメント 能力を 達成す る。	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	公衆衛生学				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	森裕志				多職種連携 ○	

講義目的		
公衆衛生は、生活の質を向上させるための集団を対象とした健康の保持、増進、疾病予防を担う分野であり、法律、行政、社会環境、実務的な公衆衛生の仕組みと疾病との関連を学ぶ。		
授業内容		
公衆衛生の概念、病因解明のための疫学的研究法、法的制度、環境保持、感染症を防止するための知識と予防接種、公害などの公衆衛生に関する分野を講義する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
教科書の講義範囲を予習して概略を理解し、授業に臨むこと。また、教科書に付属の整理ノートを中心に復習し、確認問題を行うこと。		
教材		
テキスト わかりやすい公衆衛生学 第4版 編集：清水忠彦・佐藤拓代 ヌーベルヒロカワ 2019年 参考図書 公衆衛生看護学概論 医学書院		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	公衆衛生とは	公衆衛生の定義を知り、健康と公衆衛生による疾病予防の概念を理解する。
2	健康と環境、疫学的方法	ヒトの健康に影響する要因を理解する。病因を究明し防止対策をする方法としての疫学手法を学ぶ。
3	健康の指標・感染症とその予防	感染防止の観点から各種感染症について学ぶ。
4	食品保健と栄養：食中毒	食中毒の概要を学び、食中毒を起こす病原因子およびその法律的・行政的防止策を理解する。
5	生活環境の保全	健康に及ぼす環境の影響を理解し、環境汚染等に関する問題点と講じられている対策を学ぶ。
6	生活習慣病	多くの疾患が生活習慣と関わっていることを理解し、その対策を学ぶ。
7	難病対策・健康教育とヘルスプロモーション	難病対策の基本理念、医療対策と福祉サービスについて理解する。健康教育とヘルスプロモーションの概念を学び、取り組みを理解する。
8	精神保健・産業保険	精神障害者の人権尊重を理解し、精神保健福祉政策を学ぶ。精神保健福祉の課題について知る。産業保健の目的を学び、仕組みを理解する。職業病とその対策を理解する。
評価方法 および評価基準		
授業態度と小試験 20%、最終試験 80%により評価する。		
S (100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
A (89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
B (79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。		
C (69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない。		

科目区分	-専門教育関連科目 社会と環境の理解			テイ プロマ するため る能力 ト ア・スピリッ 実践的理 ○ プロフェッジ ヨナリズム 多職種連携	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疫学				実践的理	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		○	
担当教員	市川誠一				プロフェッジ ヨナリズム 多職種連携	

講義目的																											
疫学の基礎的な方法論を修得し、健康関連事象を科学的に観察する能力を養うために、1) 疫学の概念、歴史、2) 集団の健康状態を把握する方法や指標の計算、3) 疫学的研究方法、4) 疾患の予防とスクリーニング、5) 感染症の疫学を学修する。初学生にとっては難解な言葉も多いが、具体例を示し、学生の身近な事柄、地域、国際状況と照らし合わせながら、身近な問題を疫学的な視点で研究する基礎を養う。																											
授業内容																											
<ul style="list-style-type: none"> ・疫学で用いられる有病率、罹患率、疫学研究の方法として患者-対照研究、コホート研究について、オッズ比、相対危険度、寄与危険度などを学修する。早期検査・診断に必要なスクリーニングについて、事例をもとに講義する。 ・感染症の疫学、流行とその調査について、パンデミックについて事例を示しつつ講義する。 																											
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）																											
事前に講義内容を確認し、講義で配布された資料はテキストで確認し、学習すること。 この科目的単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。																											
教材																											
テキスト 日本疫学会監修 はじめて学ぶやさしい疫学—疫学への招待—、南江堂																											
授業計画および学習課題（予習・復習）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>疫学の始まり</td> <td>ジョン・スノウのコレラ対策について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>疫学研究とその方法</td> <td>疫学で用いられる指標と研究対象者の選び方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>疫学研究に用いられる方法</td> <td>記述疫学、横断研究、生態学的研究</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コホート研究</td> <td>コホート研究、相対危険度、寄与危険度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>症例(患者)・対照研究</td> <td>症例(患者)・対照研究、オッズ比</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>スクリーニング</td> <td>スクリーニング、特異度、敏感度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>感染症疫学総論</td> <td>感染症発生の要因、伝播様式、感染症予防の原則</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>感染症のアウトブレイクとその調査法</td> <td>アウトブレイクと疫学調査、パンデミック</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	疫学の始まり	ジョン・スノウのコレラ対策について	2	疫学研究とその方法	疫学で用いられる指標と研究対象者の選び方	3	疫学研究に用いられる方法	記述疫学、横断研究、生態学的研究	4	コホート研究	コホート研究、相対危険度、寄与危険度	5	症例(患者)・対照研究	症例(患者)・対照研究、オッズ比	6	スクリーニング	スクリーニング、特異度、敏感度	7	感染症疫学総論	感染症発生の要因、伝播様式、感染症予防の原則	8	感染症のアウトブレイクとその調査法	アウトブレイクと疫学調査、パンデミック
回	内 容	学習課題（予習・復習）																									
1	疫学の始まり	ジョン・スノウのコレラ対策について																									
2	疫学研究とその方法	疫学で用いられる指標と研究対象者の選び方																									
3	疫学研究に用いられる方法	記述疫学、横断研究、生態学的研究																									
4	コホート研究	コホート研究、相対危険度、寄与危険度																									
5	症例(患者)・対照研究	症例(患者)・対照研究、オッズ比																									
6	スクリーニング	スクリーニング、特異度、敏感度																									
7	感染症疫学総論	感染症発生の要因、伝播様式、感染症予防の原則																									
8	感染症のアウトブレイクとその調査法	アウトブレイクと疫学調査、パンデミック																									
評価方法 および評価基準																											
試験により評価する。 S (100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。 A (89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。 B (79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。 C (69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。 D (60点未満) : Cのレベルに達していない。																											

科目区分	専門教育関連科目—社会と環境の理解			人間力 デイブロマボリシ を達成するため の意図	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	保健統計学				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単位数	1		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	市川誠一				多職種連携	

講義目的

国民の健康、生活衛生の動向を把握するために国レベルの統計データの解読や関連する健康指標について学修する。「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口静態、国民生活基礎調査、患者調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状況を示す統計等について系統的に学修し、国民の生活と健康の特徴を理解する。

授業内容

「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口静態、人口動態、国民健康調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状況を示す統計をもとにデータの観察の視点について講義する。健康に関連した指標を理解し、人口静態統計が示す人口構成、人口動態統計が示す出生や死亡に関連した統計、国民生活基礎調査、患者調査から国民の生活と健康の特徴を把握する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。講義配布資料の内容は教材で確認し、学習すること。

教材

テキスト 財団法人『厚生統計協会 国民衛生の動向』最新号、2315 円+税

参考図書 福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学、南山堂、2400 円+税

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	講義の目標と内容について 人口静態統計 国勢調査・日本の人口・世界の人口	人口静態統計に基づく日本の最新の人口統計および世界の人口統計の特徴を理解する。
2	人口動態統計 出生の動向と死亡の動向	人口動態統計の概要、出生の動向、出生に関連する指標、死亡に関連する指標、日本と世界の人口の動向を理解する。
3	人口動態統計 死亡の動向（粗死亡率・年齢調整死亡率）	死亡の動向に関連する指標として、粗死亡率、年齢調整死亡率、標準化死亡比を理解する。
4	人口動態統計 主要死因とその動向	主な死亡原因とその動向（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）、外因死の動向、日本と世界の相違について理解する。
5	人口動態統計 妊娠・出産関連と乳児死亡	妊娠から出産、養育における動態統計の指標（死産、乳児・新生児死亡、妊娠婦死亡、周産期死亡等）の日本と世界の動向を理解する。
6	人口動態統計 平均余命・平均寿命・死因分析	生命表、平均余命、平均寿命、健康寿命について日本と世界の動向を理解する。特定死因と平均寿命との関連、健康寿命に関連する要因から看護職者の役割を理解する。
7	健康状態と受療状況 国民生活基礎調査・患者調査	国民生活基礎調査、患者調査が示す国民の健康状況、外来・入院の受療状況を理解し、保健医療が抱える課題、看護職者の役割を理解する。
8	生活習慣と健康 飲酒・喫煙・栄養・食生活・運動等	国民健康・栄養調査が示す国民の食生活、喫煙、飲酒等の状況を理解し、これらの要因の改善、疾病予防における看護職者の役割を理解する。

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 20%、最終試験 80%により評価する。

S (100~90 点) : 保健統計に関する指標を十分に理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。

A (89~80 点) : 保健統計に関する指標を理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。

B (79~70 点) : 保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することの基本的な理解がある。

C (69~60 点) : 保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することへの基本的な理解がある。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目—社会と環境の理解			成するため に必要な能力 デイブローマーク リシードを達成	人間力	
授業コード					ケア・ スピリット	
授業科目名	社会保障論				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2 / 前期	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	塚本銳裕				多職種連携	

講義目的

社会保障は「生活の基本的必要の不充足による困難」を解決する方法として制度化されたものであり、具体的には医療保険、年金保険、介護保険といった社会保険制度、生活保護制度、社会福祉制度がある。本講義では、社会保障の基本的考え方、わが国における社会保障制度の歴史、現行の社会保障制度の現状およびその課題、社会保障に関する法律と制度、社会保障における行政の役割と財政上の問題等、社会保障制度の基本的知識を学修する。

授業内容（授業の到達目標）

- 到達目標 1. 日本の社会保障についての基本的知識を身につける。
 2. 日本の社会保障制度の現状と課題を理解する。
 3. 海外の社会保障制度についての基本的知識を身につけ、日本の制度と比較ができる。
 4. 医療従事者としての視点を意識しながら社会保障の課題について考えることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

科目的単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要である。学習課題に示される予習・復習を行うこと。

教材

テキスト：「国民衛生の動向 2019/2020」厚生労働統計協会

参考図書：講義資料に加えて日頃より社会保障に関するニュースや記事を読むことが望ましい。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	社会保障制度とは	社会保障の理念と変遷：目的、機能、人権、倫理、社会保障給付費、制度改革 予習：テキスト 11-23 ページ、復習：左記ページと講義資料の読み直し
2	医療制度と年金制度	保健医療の動向、国民医療費の動向、医療制度の展望 予習：テキスト 47-184 ページ、復習：講義資料の読み直し
3	社会保険制度	目的と機能、制度の変遷、社会保険の種類、社会保険の管理運営機関等、社会保険における権利救済 予習：配布資料、復習：配布資料と講義資料の読み直し
4	医療保険制度	健康保険の種類、国民医療費、給付の内容、外国の医療保険制度 予習：テキスト 242-245 ページ、復習：左記ページと講義資料の読み直し
5	高齢者医療	後期高齢者医療制度の概況、高齢者医療費の動向、保健事業 予習：テキスト 118-120 ページ、復習：左記ページと講義資料の読み直し
6	介護保険制度	基本理念、保険者、被保険者、要介護・要支援の認定、給付と利用者負担 予習：テキスト 247-259 ページ、復習：左記ページと講義資料の読み直し
7	年金制度	国民年金、厚生年金、その他の年金制度、外国の年金制度 予習：テキスト 22-23 ページ 復習：上記ページと講義資料の読み直し
8	労働保険	雇用保険、労働者災害補償保険 予習：テキスト 324-335 ページ、復習：左記ページと講義資料の読み直し

評価方法 および評価基準

欠席は 1 回につき 2 点減点 10%、最終試験 90% により評価する。

S (100~90 点) : 到達目標をほぼ完全に達成している。

A (89~80 点) : 到達目標を相応に達成している。

B (79~70 点) : 到達目標を相応に達しているが、不十分な点がある。

C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

(英文読解)科目区分	-専門教育関連科目 社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	<input type="radio"/>	
授業コード					ケア・スピリット	<input type="radio"/>	
授業科目名	看護と関係法規				実践的理 解	<input type="radio"/>	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	<input type="radio"/>	
担当教員	高木繁子				多職種連携	<input type="radio"/>	

講義目的

看護職者はその職務上、多くの法規に関連しており、保健・医療・福祉に関連した法規と制度についての基礎知識の修得が欠かせない。この講義の目的は、他者と自己の尊重を基本に据えて、法規を活用することにより、人々の人権を守ると共に看護活動の質を高め、看護の対象者の QOL の向上に寄与することである。また、看護は社会や医療の変化に伴い、現実に沿うように法的整備がなされていくことを視野に入れて、看護の対象者の権利を守り、適切な看護サービスを適用するために法制度の基本的な考え方を身に付け、看護職者として知っておくべき法律や制度に関する理解を深める。また、看護職の資格や業務が法でどのように定められているのか、看護職として適切に職務を遂行するための法的根拠や判断基準について、具体的な事例等を用いて、看護職者の法的責任への理解を深める。さらに、人々の健康維持を図るためのサービス提供機関とそこに従事する職種の役割・機能に関する基本的な規定について法律を通して理解するとともに、法制度と実際の乖離や問題点について自分なりに考察ができるようになることをめざす。

授業内容

1. 看護職の基本法規
2. 看護職として働くために関係する法規
看護職の基盤となる法規、医療法・医師法およびその他の医療に関する法規、福祉関係法規、保健衛生法規、予防衛生法規、薬事関係法規、その他の関係法規
3. 看護職としての職務を遂行するための根拠や判断基準

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. この科目では、各法律や制度を学びながら、特に「インフォームドコンセント」や「倫理」について意識して学修する。
2. 他の科目で学ぶ法や制度に関する部分をピックアップして学修することになるため、関連領域と連携・内容を確認しながら学びを深める。
3. 授業前に教科書の該当ページを予習するとともに、参考文献やインターネットなどで該当する条文を自主的に読んで講義に参加すること。
4. この単位を修得するためには、授業時間以外に 30 時間程度の学修が必要である。
5. グループ討論や、発表等に関するフィードバックはその都度講義時間内に行うことを原則とする。

教材

テキスト ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度、平林勝政・小西知世・和泉澤千恵編、出版：メディカ出版（2019年）、ISBN:978-4-8404-6514-4、価格：2,800円+税

参考図書 国民衛生星の動向 2019/2020 Vol. 66 (9) 出版社：厚生労働統計協会（2019年）、価格：2,646円
国民の福祉と介護の動向 2019/2020 Vol. 66 (10) 出版社：厚生労働統計協会（2019年）、価格：2,356円
系統看護学講座 看護関係法令 著者：森山幹夫 出版：医学書院 2019年 価格：2,400円+税

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	保健医療福祉と法の関わり方 (チーム医療と法の構造、医療提供の理念、医療安全)	教科書 p 28~47 を読み、関心のある内容についてインターネット等で最新の情報を収集して講義に参加する。
2	看護をめぐる法（保助看法、免許、業務、医師法他）	教科書 p 50~148 を読み、疑問点を持って講義に参加する。
3	医療機関における看護の保障と関係法規（看護業務「療養上の世話」、「診療の補助」に関する過去の事故事例に学ぶ）	過去に起きた看護に関する事故事例をインターネット等で情報収集して講義に参加する。
4	看護活動と地域・在宅領域での人を守るための法	教科書 p 170~191 を読み、住んでいる市町村での取り組みについて情報収集をして講義に参加する。

5	人を支えるシステムに関する法律 (健康保険法、介護保険法、精神保健福祉法、虐待防止法等)	教科書 p 192～257 を読み、疑問点を整理して講義に参加する。
6	政策に関わる基本法等の関連法令 (個人情報保護に関する法、社会的弱者政策に関する法律、女性政策に関する法律等)	教科書 p 258～311 を読み、疑問点を整理して講義に参加する。
7	インフォームドコンセントと看護過誤（医療過誤）	教科書 p 314～330 を読み、生命の尊重と個人の尊厳の保持について自分の考えを整理して講義に参加する。
8	法と生命倫理	教科書 p 331～345 を読み、インターネット等で国内外の倫理指針等に関して情報収集をして講義に参加する。

評価方法 および評価基準

定期試験：70%、小テスト：20%、講義への参加状況：10%により評価する。

S (100～90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89～80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79～70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69～60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目一社会と環境の理解			①ディベロップメント ②コミュニケーション ③ソーシャル・アクション	人間力	
授業コード					ケア・スピリット <input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	保健医療福祉行政論				実践的理 <input type="radio"/>	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	2		プロフェッショナリズム <input type="radio"/>	
担当教員	原田裕子 (科目責任者)、牧野悦子				多職種連携 <input type="radio"/>	

講義目的

日本における社会保障・社会福祉の歴史および制度、それぞれの制度が果たしている役割について学修する。また、保健・医療・福祉行政の理念と法制度、社会資源について学修する。さらに、住民の基本的人権としての権利「健康」をサポートするために、公衆衛生やヘルスプロモーションなどによる地域づくりとそれを行なうしくみについて理解を深める。特に近年進められている社会保障制度改革から、地域包括ケア、地域医療構想など保健・医療・福祉行政分野の喫緊の課題についても詳しく学ぶ。

授業内容

看護職として必要な保健・医療・福祉の制度について学び、厚生行政のシステムを理解する。

留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)

日頃から身近な地域や国内で起こっている保健医療福祉の動向に关心を持って講義に積極的に臨むこと。毎回の授業後には関連する法律も含めて復習をしておく。この科目的単位を取得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要である。

教材

テキスト ①系統看護学講座 健康支援と社会保障④「看護関係法令」最新版 医学書院 ISBN978-4-260-03449-4 2,400 円
参考図書 ②国民衛生の動向 最新版

授業計画および学習課題 (予習・復習)

回	内 容	学習課題 (予習・復習)
1	法の構造、厚生行政のしくみ	法の構造を説明できる。医療法を理解できる。チーム医療の枠組みを概観できる。地域医療構想を概観する。
2	人に関する法律	保健師助産師看護師法を理解し役割を説明できる。その他医療や福祉の専門職を理解できる。(予習) 第2章、第3章Bをよく読み授業に臨む。
3	地域保健法等	公の責任で実施される地域保健の構造を理解し説明できる。(予習) 第4章Aをよく読み授業に臨む。
4	感染症に関する法律	感染症対策について施策の理解し説明できる。予防接種対策や検疫についても理解できる。(予習) 第4章Cをよく読み授業に臨む。
5	食品安全、環境政策に関する法律	食中毒・食品衛生管理・食の安全に係る制度や施策を理解できる。公害を契機に展開してきた規制に関する法律や環境基本法および地球環境を保護するための法律を概観できる。(予習) 第4章D、第6章、第10章をよく読み授業に臨む。
6	健康増進、難病等に関する法律	健康増資、難病等に対する政策について理解できる。((予習) 第4章A②、B⑤～⑯をよく読み授業に臨む。
7	母子保健・児童福祉に関する法律	少子高齢化社会での母子保健の制度を理解し説明できる。母子保健や児童福祉行政を理解できる。(予習) 第4章B②③、第8章Bをよく読み授業に臨む。自分の母子手帳に目を通しておく。
8	障害者に関する法律	障害者総合支援法を中心に身体・知的・精神障害施策の枠組みを概観できる。(予習) 第8章Dをよく読み授業に臨む。
9	社会福祉に関する法律	老人福祉法や高齢者に係る法等を概観できる。成年後見制度を理解できる。(予習) 第8章A、Cをよく読み授業に臨む。
10	社会保険、労働政策に関する法律	健康保険・年金制度、労働法の概要を説明できる。(予習) 第7章(A④を除く)、第9章Aをよく読み授業に臨む。自分の健康保険証を確認する。
11	介護保険、地域包括ケアシステム	高齢化への対応として生まれた介護保険制度の仕組みを理解し説明できる。(予習) 第7章A④をよく読み授業に臨む。
12	学校保健に関する法律・医療を支える法律	学校保健の仕組みを理解できる。学校感染症について理解できる。医療を支える法律を理解できる。(予習) 第3章D、第4章B④をよく読み授業に臨む。
13	グループワーク	
14	ミニ模擬授業	保健医療福祉行政論で学んだ領域やそれに係るデータから自分たちの生活と結びつく事例を考え、その事例を基にした法律や制度、その活用をまとめ発表することができる。
15		

* テーマの順序は一部変更する可能性がある

評価方法 および評価基準

課題レポート発表 40%、最終試験 60%により評価する。

S (100～90 点)：保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、対象者の特性に応じた社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を考えることができる。

A (89～80 点)：保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、対象者の特性に応じた社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を解釈できる。

B (79～70 点)：保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を考えることができる。

C (69～60 点)：保健医療福祉行政論の基本的な概念と、用語などに関する基本的事項について理解している。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

1科目区分	-専門教育関連科目 社会と環境の理解			○ 人間力 ケア・スピリット 実践的理 プロフェッショナリズム 多職種連携 テイブロードアレンジ能力を達成するための必要な能力を達成する	
授業コード					
授業科目名	保健看護情報学				
配当学年/学期	2年 前期 選択	単位数	1単位		
担当教員	永坂和子				

講義目的

医療における情報科学の発達により、看護職者には情報通信技術(ICT)の活用能力が求められている。インターネットを活用した地域医療連携システム、電子カルテなどのICTの仕組み、データの収集と情報処理、個人情報を取り扱う上での倫理と法律、個人情報の管理と漏えい防止について学習する。看護職者の取り扱う医療情報について、患者の疾病管理や看護ケアを構するうえでの重要性を理解し、看護実践に活かす能力を養う。

授業内容

看護職者が患者・家族中心のケア実践するために取り扱う保健医療に関する情報通信技術(CIT)の仕組み、エビデンスに基づくデータ収集、利点とリスク、情報倫理、法律を学修する。授業の最後は、小テストやレポートを通して国試対策に繋げる。

留意事項(履修条件・授業時間外の学修)

看護学実習においては、患者・家族の情報収集が必須である。事前のテキストを読んでくることや講義内容(資料)を復習することで円滑な領域実習の情報収集に結び付く。

教材

テキスト 中山和弘他：系統看護学講座 別巻、看護情報学、医学書院

参考図書 太田勝正、前田樹海：エッセンシャル、看護情報学、医歯薬出版

太田勝正、猫田泰敏：Nursing Informatics 看護情報学、医学書院

授業計画および学習課題(予習・復習)

回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	看護における情報と活用について理解する	情報とは、情報の特性、情報とコミュニケーション、医療における情報 予習・復習：テキスト第1・第3章 P4～P21、P40～P61
2	看護における情報と医療情報システムについて理解する 電子カルテにおけるグループワーク	臨床で必要な看護データ、看護用語の標準化や看護の質指標、情報に翻弄される患者・市民、意思決定支援、チーム医療における情報 予習・復習：テキスト第4章 P64～P86
3 4	医療における情報システム、入院患者ケアシステム、保健医療福祉ネットワークについて理解する	医療記録における法令上の記載、医療情報システム導入の実際、看護過程による情報処理、看護記録の構成要素、電子カルテによる記録、カンファレンス等の多職種連携と記録、診療録記録の開示とガイドライン、病院情報システムと記録の仕方、クリニカルパス、DPC(診断群分類)、医療過誤防止システム、入院患者システム、看護管理・業務支援システム、保健医療福祉ネットワーク情報 予習・復習：テキスト第5章 P90～P127
5	情報倫理と医療倫理について理解する	情報倫理、医療倫理、看護倫理、患者に権利と自己決定への支援、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、診療情報の開示、レセプト開示、医療訴訟、 予習・復習：テキスト6章～7章 P132～P158
6	医療・看護における個人情報について理解する	個人情報とは、医療従事者・看護学生としての義務、看護学生における患者情報の取り扱い、看護学生が起こしやすい実習中の情報トラブル、研究における個人情報保護 予習・復習：テキスト第8章 P160～P174
7	調査とは何か、自分が住んでいる地域分析、医療圏、電子連絡帳等について調査する	調査の目的、調査の準備・設計、倫理的配慮、実際の地域医療・介護に関する情報収集 第11章予習：テキスト P224～P225
8	実際の臨床場面 演習(地域医療情報・電子連絡帳等)・まとめ	臨床における実際の情報場面や地域医療情報について演習を通して理解を深める。

評価方法および評価基準

授業の参加・グループワークの積極性 10%、小テスト・課題 10%、最終試験 80%により評価する。

S(100～90点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

- A (89~80 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。
- B (79~70 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。
- C (69~60 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。
- D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目一看護の基本			人間力 に 要 能 力 を 達 成 す る た め テ イ フ ロ マ ボ リ シ	人間力	
授業コード					ケア・スピリット <input checked="" type="radio"/>	
授業科目名	看護学概論				実践的理解 <input checked="" type="radio"/>	
配当学年/学期	1/前期	単位数	2		プロフェッショナリズム <input checked="" type="radio"/>	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江				多職種連携 <input checked="" type="radio"/>	

講義目的

これから学ぶ看護学全ての導入科目である。「看護とは・看護の対象者とは・看護師とは・専門職とは・看護ケアとは」何かを学ぶとともに、看護の目的や看護教育制度から看護学生に何が求められているかを理解して、専門科目の学修や臨地実習に取り組むことができるようとする。また、人間の生命・尊厳・生活に関わる権利を尊重するための倫理観を養う。さらに、看護の歴史的発展を踏まえて看護の代表的な理論や看護モデルを学び、自己の看護観の形成に役立てる。

授業内容

看護とは何か、看護に必要な知識を身につけ、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、根拠に基づいた看護実践の必要性を教授する。

到達目標 ①看護の本質が理解できる。②健康のとらえ方が理解できる。③主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。④看護の対象、看護の場、看護の機能と役割が理解できる。⑤保健・医療・福祉提供システムと看護、チーム医療の重要性が理解できる。⑥看護専門職としての課題と、これからの展望を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行い、次の授業に備える。
2. 自身の感性を大切にし、素直に表現する努力と友達づくり、クラス間の学習意欲の高揚に努める。
3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。

教材

テキスト 特に指定なし

参考図書 1. ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①看護学概論、メディカ出版
2. 看護学概論一看護とは・看護とは一、ヌーヴェルヒロカワ

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 看護とは	① 看護のイメージ ②看護の責務 ③看護の本質
2	専門職としての看護	① 看護の定義 ②看護の理論家たち
3	看護の対象の理解1	① 統合体としての人間 ②個人、家族、コミュニティ、地域社会
4	看護の対象の理解2	① 健康障がいをもつ対象の理解 ②ストレスと適応 ③人間の暮らし
5	健康のとらえ方	① 健康の定義 ②障がいの定義 ③社会状況の変遷と健康観の変化
6	看護の歴史的変遷1	① 原始～古代～中世～近代の看護 ②ヨーロッパ、アメリカの看護
7	看護の歴史的変遷2	日本の看護
8	看護の機能と役割1	① 看護の目標 ②看護の活動
9	看護の機能と役割2	① 看護の機能と役割 ②医療チームの中の役割
10	職業としての看護	① 看護の専門分化 ②看護職養成制度
11	看護倫理とは 看護用語	① 倫理学と看護学 ②看護と倫理の関係 ③価値と QOL ④看護用語
12	看護における法的側面	① 看護実践と医療安全 ②医療の質保証と医療過誤
13	日本の看護教育	① 看護教育の歴史的変遷 ②看護教育とキャリア開発
14	保健・医療・福祉提供システムと看護	① 看護の継続性 ②保健・医療・福祉サービスと看護活動
15	看護の課題と展望	① 看護に求められる教育 ②専門職としての看護組織

評価方法および評価基準

筆記試験 80%、レポート 10%、受講態度 10%により評価する。

S (100~90 点) : 保健・医療・福祉提供システムと看護について理解し、看護専門職としての課題と展望について自分の意見を述べる（記述する）ことができる。

A (89~80 点) : 看護の機能と役割、保健・医療・チーム医療の重要性が理解できる。

B (79~70 点) : 健康のとらえ方が理解でき、看護の対象が理解できる。

C (69～60 点)： 主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。

D (60 点未満)： Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目一看護の基本			成するため必要な能力 ディプロマホリシティを達成するため必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論 I				実践的理解 ○	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江				多職種連携 ○	

講義目的

看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる、生活行動の援助としての看護技術について学修し修得する。具体的には、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効な利用を支援するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアを実践するための基本的な看護介入の技術の方法を修得する。

授業内容

コミュニケーション技法（基本的かかわり技法）、感染防御（スタンダードプリコーション、手袋・ガウンの着脱法）、ベッドメーキング（リネン類のたたみ方、オープンベッド・クローズドベッドの作製法）を教授する。

到達目標 ①基本的かかわり技法を通して援助的対人関係について理解できる。 ②感染予防の意義と手指消毒の必要性を述べることができる。 ③オープンベッドとクローズドベッドの基本に基づいたベッドを作製することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

- シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義・演習により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。
- 演習の欠席はその単元が履修できることになるため注意する。（原則、欠席者に対する単元履修の対応は行わない。）
- 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。
- 技術到達状況の確認は技術チェック日を別に設けて行う。
- 看護実習室は空いていれば技術練習のために使用することは可能である。事前に教員に申し出て使用許可を得る。

教材

- テキスト 1. ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、メディカ出版
2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、サイオ出版
3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、サイオ出版

参考図書 看護コミュニケーション基礎知識と実際一、教育出版

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 看護援助方法論 I・II・IIIの構成と内容との関連性について	①看護援助方法論 I（前期）、看護援助方法論 II・III（後期）の内容と関連性、②看護援助とは何か。看護技術援助の意義と必要性、看護職が実践援助に必要な援助技術（講義）
2	生活行動援助技術と診療に伴う援助技術とは コミュニケーション技術	① 生活行動援助技術と看護師に役割②診療に伴う援助技術と看護師の役割 ② コミュニケーションとは ③コミュニケーションの構成要素 ④看護とコミュニケーション（講義）
3	基本的かかわり技法 1	① 好感、信頼感を高めるコミュニケーション ②敬意を伝えるコミュニケーション ③自己理解と他者理解 ④効果的なコミュニケーション⑤プロセスレコードとは（講義）
4	基本的かかわり技法 2	場面設定によるコミュニケーション技法、プロセスレコード作成（演習）
5	環境調整技術 1	①環境とは ②環境アセスメント ③病床環境の調整 ④対象者の生活の場の必要条件（講義）
6	環境調整技術 2	①環境を整える技術 ②テリトリーと個人空間 ③病院・病棟の構造設備（講義）
7	感染防御 1	①感染防御に必要な基礎知識 ②感染症に関する法律（講義）
8	感染防御 2 看護実習室の使用法	① 感染防御アセスメント ②2階看護実習室にて使用法の説明（講義）
9	衛生学的手洗い法 1	① 標準予防策 ②ディスポーザブルエプロンの着脱法 ③手袋の着脱法（演習）
10	衛生学的手洗い法 2	① 標準予防策 ②ディスポーザブルエプロンの着脱法 ③手袋の着脱法（演習）
11	ベッドメーキング 1	① リネン類・タオル類のたたみ方 ②三角コーナー・四角コーナーの作り方 ③横シーツの作り方 （演習）

12	ベッドメーキング2	①リネン類・タオル類のたたみ方 ②三角コーナー・四角コーナーの作り方 ③横シーツの作り方（演習）
13	ベッドメーキング3	オープンベッド・クローズドベッドの作製法（演習）
14	ベッドメーキング4	オープンベッド・クローズドベッドの作製法（演習）
15	感染防御技術、ベッドメーキング	オープンベッド・クローズドベッドの作製法の確認、ディスポーザブルエプロンの着脱法・手袋の着脱法の確認（演習）

評価方法 および評価基準

筆記試験 50%、技術到達状況 30%、レポート 10%、受講態度 10%により評価する。

S (100~90 点) : 感染予防の意義、病床環境調整の意義を述べる（記述する）ことができる。

A (89~80 点) : 手指衛生の必要性、患者用ベッドの基本に基づいた作製ができ、かつ必要性が理解できる。

B (79~70 点) : 相手の立場に立って物事を考える姿勢があり、援助的対人関係について理解できる。

C (69~60 点) : グループ学習の中に浸透し、手指衛生が必要であること、患者用ベッドの作製の意味と必要性について述べることができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目一看護の基本			成するため必要な能力 テイブロマボリシィを達成するため必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅱ				実践的理解 ○	
配当学年/学期	1 /後期	単位数	1		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江				多職種連携 ○	

講義目的

看護援助方法論Ⅰで学んだエビデンスに基づいた看護介入の方法の知識を活用し、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる生活行動の援助としての看護技術について学内の実習室にて演習を行う。具体的には、衛生手洗い、擦式アルコール手指消毒、感染性廃棄物取り扱い、防御用具装ベッドメーキング、基本的体位・良好な体位、体位変換、車いすへの移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送、療養上の環境調整、臥床患者のリネン交換、寝衣交換、摂食介助および口腔ケア、清拭、部分浴、洗髪、排泄ケアの技術を修得する。

授業内容

活動・休息援助技術、食事・排泄援助技術、清潔援助技術について教授する。

到達目標 ①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができる。

留意事項(履修条件・授業時間外の学修)

- シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義・演習により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。
- 演習の欠席はその単元が履修できないことになるため注意する。(原則、欠席者に対する単元履修の対応は行わない。)
- 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。
- 技術到達状況の確認は技術チェック日を別に設けて行う。
- 看護実習室は空いていれば技術練習のために使用することは可能である。事前に教員に申し出て使用許可を得る。

教材

- テキスト 1. ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、メディカ出版
2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、サイオ出版
3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、サイオ出版

参考図書

授業計画および学習課題(予習・復習)

回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	授業の概要・授業の進め方 活動・休息援助技術1	① 基本的活動の援助 ②体位の安定性 ③良肢位 ④人間工学とボディメカニクス(講義)
2	活動・休息援助技術2	① 体位変換の原理・法則 ②移乗と移送の意義と必要性 ③杖歩行 ④休息と睡眠への援助(講義)
3	体位変換法1	4つの体位変換法(演習)
4	体位変換法2	4つの体位変換法(演習)
5	移乗と移送法、ベッド上臥床患者のリネン交換1	① 車椅子利用による移乗と移送 ②ストレッチャー使用による移乗と移送 ③杖歩行(演習)
6	移乗と移送法、ベッド上臥床患者のリネン交換2	① 車椅子利用による移乗と移送 ②ストレッチャー使用による移乗と移送 ③杖歩行(演習)
7	食事援助技術	① 人間にとての栄養と食事の必要性 ②食欲と空腹感 ③栄養状態の評価 ④消化と吸収 ⑤非経口的栄養法(講義)
8	排泄援助技術	① 排泄の意義 ②排泄の生理 ③排尿・排便の異常(講義)
9	経口摂取援助法	ベッド上臥床患者の食事援助、口腔ケア(演習)
10	排泄援助法	ベッド上臥床患者の排泄援助(演習)
11	清潔援助技術1	① 身体清潔の意義と必要性 ②皮膚の生理作用(講義)
12	清潔援助技術2	① 清潔法の種類(講義)
13	清拭法と寝衣交換法1	部分清拭と寝衣交換(体位変換法含む)(演習)
14	清拭法と寝衣交換2	部分清拭と寝衣交換(体位変換法含む)(演習)
15	洗髪法と足浴法	① 洗髪 ②足浴(演習)

評価方法および評価基準

筆記試験 50%、技術到達状況 30%、レポート 10%、受講態度 10%により評価する。

S (100~90 点)：対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができ、それを述べる（記述する）ことができる。

A (89~80 点)：科学的根拠に基づいた看護技術を説明できる。

B (79~70 点)：原理・原則に基づいた看護基本技術が実施できる。

C (69~60 点)：場面に対する安全と安楽について説明できる。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目一看護の基本			人間力 ・ デイブロマーティン に必要な能力を達成するためのポリシー	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅲ				実践的理解 ○	
配当学年/学期	1/後期	単位数	1		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江				多職種連携 ○	

講義目的

本科目では、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかる看護技術とそのエビデンスについて演習を通じて学修する。具体的には、生命の兆候を観察する技術、感染予防の技術、検査に伴う看護技術、与薬の技術、創傷管理技術等を通じて、リスク管理、身体機能調節を支援するケア、ヘルスケアシステム、恒常性調節を支援するケアを実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。

授業内容

感染防御の技術、安楽を促す援助技術、与薬と看護、呼吸を整えるための看護、排泄の援助技術について教授する。

到達目標 ①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

- シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義・演習により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。
- 演習の欠席はその单元が履修できないことになるため注意する。(原則、欠席者に対する单元履修の対応は行わない。)
- 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。
- 技術到達状況の確認は技術チェック日を別に設けて行う。
- 看護実習室は空いていれば技術練習のために使用することは可能である。事前に教員に申し出て使用許可を得る。

教材

- テキスト 1. ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、メディカ出版
2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、サイオ出版
3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、サイオ出版

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 感染と感染防止技術	① 診療における基礎知識と看護師の役割 ②診療（診察・検査）に伴う看護 ③滅菌物の取り扱い、無菌操作（講義）
2	診療に伴う技術	①創傷保護管理 ②安楽を促す援助（講義）
3	与薬と看護1	① 薬物療法の基礎知識 ②薬物療法と看護師の役割
4	与薬と看護2	①注射法の基礎知識 ②注射法の種類と適応 ③採血法（講義）
5	呼吸を整えるための看護	① 酸素吸入法 ②吸引法（講義・演習）
6	医師の指示による排泄援助技術	①導尿法 ②浣腸法（講義）
7	感染防御技術1	① 清潔領域と不潔領域におけるガウンテクニック ②滅菌物の取扱い（演習）
8	感染防御技術2	① 創傷処置（演習）
9	罨法	① 温罨法 ②冷罨法（演習）
10	包帯法	① 包帯の種類と包帯法、三角巾、腹帯（演習）
11	与薬の技術1	①注射針、シリンジ、真空採血管の取り扱い ②注射液の吸い上げ（演習）
12	与薬の技術2	①採血法 ②アンプルカット（演習）
13	排泄を促す技術1、与薬の技術3	①注射法（皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射）（演習）
14	排泄を促す技術2、与薬の技術4	①導尿法 ②浣腸法 ③採血法、注射法（演習）
15	排泄を促す技術3、与薬の技術5	①導尿法 ②浣腸法 ③採血法、注射法（演習）

評価方法および評価基準

筆記試験 50%、技術到達状況 30%、レポート 10%、受講態度 10%により評価する。

S (100~90点) : 対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができ、それを述べる（記述する）ことができる。

A (89~80点) : 科学的根拠に基づいた看護技術を説明できる。

B (79~70点) : 原理・原則に基づいた看護基本技術が実施できる。

C (69~60点) : 場面に対する安全と安楽について説明できる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の基本			ディプロマポリシー達成 ための 必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	看護過程演習				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江				多職種連携	

講義目的

看護過程について理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導ける判断力を養成するため、模擬患者を使用した授業を行う。看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象との関わりで得た情報を、客観的に言語化した記録として伝達できる能力を身につける。さらに、対象により異なる理論を用いて看護過程を展開する能力を修得する。

授業内容

看護過程とは何か。看護の対象である人間の健康に関わる問題を明らかにし、その問題を解決していく過程を事例を通して理解していく。

到達目標 ①看護過程の意義と目標が理解できる。 ②看護過程の一連の流れが理解できる。 ③健康に関わる情報の収集・分析・整理アセスメントができる。 ④その人に合った看護問題を明確にし、看護援助法を見出すことができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

- シラバスの内容から事前学習を行い授業に備える。
- 事例記録物の整理整頓を確実に行い、配布物と記録物の紛失がないように注意する。
- 欠席や遅刻のないようにする。
- 事例展開演習であり、学生個々が看護過程の展開を行なうものであり、個別指導中心となる。

教材

テキスト ①看護の基本となるもの、日本看護協会出版会
②看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、ヌーヴェルヒロカワ

参考図書 ①実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド、照林社

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	科目ガイダンス、看護過程とは	看護過程とは、 看護教育の中の看護過程の位置づけ
2	看護過程と看護の本質	看護の本質と看護過程との関係、 看護過程と看護診断
3	看護過程の展開について	看護過程の構成く情報収集、アセスメント、看護問題の明確化（看護診断）、計画立案、実施、評価
4	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」基本的看護の構成要素 14 項目を読み解く。
5	看護過程の展開法	実際に基礎看護学実習Ⅱに使用する記録用紙を用いてペーパーペイシェントの展開法、事例の紹介
6	看護過程の展開①	事例の情報収集と情報の整理
7	看護過程の展開②	事例の情報収集と情報の整理
8	看護過程の展開③	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント
9	看護過程の展開④	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント
10	看護過程の展開⑤	体温表の記載方、事例の全体像
11	看護過程の展開⑥	事例の全体像、看護過程の展開（看護に必要な情報からアセスメント、看護問題の明確化（看護診断）の抽出
12	看護過程の展開⑦	看護過程の展開（看護に必要な情報からアセスメント、看護問題の明確化（看護診断）の抽出
13	看護過程の展開⑧	看護計画立案：患者の目標、看護方法（OP、TP、EP）
14	看護過程の展開⑨	看護計画立案：患者の目標、看護方法（OP、TP、EP）、看護問題の明確化で挙げた# 1に対する看護援助法

15	看護過程の展開⑩	看護計画立案：患者の目標、看護方法（OP、TP、EP）、看護問題の明確化で挙げた#1に対する看護援助の検討
評価方法 および評価基準		
筆記試験 50%、事例の展開記録 40%、受講態度 10%により評価する。		
S (100~90 点) : 看護を実践していくうえで患者（対象者）個々に合った看護援助における看護過程の展開法の必要性が理解でき、記録用紙の一連の展開法が理解できる。		
A (89~80 点) : 看護を実践していくうえで患者（対象者）個々に合った看護援助の必要性が理解でき、全般的に、記録用紙の一連の展開法が理解できる。		
B (79~70 点) : 患者（対象者）の看護過程の展開を全般的に理解でき、記録用紙の一連の流れが理解でき取り組むことができる。		
C (69~60 点) : 看護過程の必要性が大まかに理解でき、記録用紙の作成に取り組むことができる。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	-専門教育科目 看護の基本			ディプロマボディを養成するための 基礎能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	フィジカルアセスメント				実践的理解	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江				多職種連携	

講義目的

看護の対象の健康状態や病状、看護援助に関する情報を、系統的に収集しアセスメントする技術を身につける。看護におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、頭部から爪先までの身体を系統的に診察する技術とそのアセスメントについて解説する。演習では、頭頸部、眼・耳・鼻・口・胸部（肺・胸郭/乳房・リンパ系/心臓・血管系）、腹部、直腸・肛門・外性器・鼠径部、四肢（筋・骨格筋系/末梢血管系・神経系）の系統別に診察を行い、その結果のアセスメントを行う。

授業内容

フィジカルアセスメントとは何か。看護の対象である人間の健康に関わる身体状態のアセスメント（評価・査定）技術について教授する。

到達目標 ①フィジカルアセスメントの必要性が理解できる。 ②バイタルサイン測定が正確にできる。③フィジカルアセスメントに共通する技術、フィジカルアセスメントの身体各部の実際の技術が習得できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から事前学習を行い、講義・演習で理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。
2. 演習の欠席はその単元が履修できないことになるため注意する。
3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。
4. 技術到達状況の確認のための技術チェックは既定の授業終了後、別日を設けて行う。

教材

テキスト 基礎看護学②ヘルスアセスメント、メディカ出版

参考図書 ①看護のためのフィジカルアセスメントアドバイス、インターメディカ
②はじめてのフィジカルアセスメント、メディカルフレンド社

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要と授業の進め方、授業科目「フィジカルアセスメント」の位置づけ	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、観察する意味
2	フィジカルアセスメントの共通技術	問診、視診、触診、聴診、打診
3	フィジカルアセスメント（系統別アセスメント）①	①頭部、顔面、頸部
4	フィジカルアセスメント（系統別アセスメント）②	②眼・耳・鼻・口腔・咽頭
5	フィジカルアセスメント（系統別アセスメント）③	③胸部・肺、心臓・血管系
6	フィジカルアセスメント（系統別アセスメント）④	④乳房、腹部
7	フィジカルアセスメント（系統別アセスメント）⑤	⑤生殖器、肛門
8	フィジカルアセスメント（系統別アセスメント）⑥	⑥筋・骨格系、脳・神経系
9	バイタルサインのアセスメント	バイタルサインとは、バイタルサインの目的とその意義、体温・呼吸・脈拍・血圧
10	意識状態のアセスメント	意識とは、意識状態を観察する意義
11	体温と呼吸のアセスメント	体温測定、呼吸測定
12	脈拍・血圧のアセスメント①	脈拍測定、血圧測定
13	脈拍・血圧のアセスメント②	脈拍測定、血圧測定
14	看護とフィジカルアセスメント①	事例（看護師による患者の健康状態チェック）

15 看護とフィジカルアセスメント②	事例（看護師による患者の健康状態チェック）
評価方法 および評価基準	
<p>筆記試験 60%、技術到達状況 30%、受講態度（レポート提出含む）10%により評価する。</p> <p>S (100~90 点)：フィジカルアセスメントの学習を深め、バイタルサイン測定が正確にでき、学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、レポート作成に積極的に取り組むことができる。</p> <p>A (89~80 点)：フィジカルアセスメントの必要性が理解でき、必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、レポート作成に積極的に取り組むことができる。</p> <p>B (79~70 点)：フィジカルアセスメントの必要性が理解でき、必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、レポート作成に取り組むことができる。</p> <p>C (69~60 点)：フィジカルアセスメントを学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、レポート作成に最低限取り組むことができる。</p> <p>D (60 点未満) : C のレベルに達していない。</p>	

科目区分	専門教育科目一看護の基本			デイブロマボリシ を達成するため に必 要な能 力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	看護理論				実践的理義 ○	
配当学年/学期	1 /後期	単位数	1		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江、三浦昌子、内藤直子、野田みや子、白井キミカ				多職種連携 ○	

講義目的

(概要) 看護理論家たちが「看護とは何か」を問い合わせ、探求し、その結果を著した看護の本質論である看護理論に接する。看護理論の発達、理論の発達過程、年代に沿って主たる理論家とその理論概要を紹介する。看護実践に必要となる主な看護理論を取り上げ、その理論について考察する。成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学のそれぞれの領域における看護理論について学び、将来の看護実践につなげる。

(オムニバス方式 全8回)

- (山本澄子/3回) 主要な看護理論について教授する。
- (岩瀬通江/1回) 看護理論を実践に活かす意義について教授する。
- (三浦昌子/1回) 成人看護学の主な看護理論について教授する。
- (内藤直子/1回) 母性看護学の主な看護理論について教授する。
- (野田みや子/1回) 小児看護学の主な看護理論について教授する。
- (白井キミカ/1回) 老年看護学の主な看護理論について教授する。

授業内容

看護の先行研究とクリティック、看護理論との関連性について探求する。看護理論は看護実践の裏付けとなる考え方の枠組みを示すものであり、人間・環境・健康・看護の基礎的概念を理解することにより、科学的思考を基盤とした看護実践基礎能力が身につくよう教授する。

到達目標 ①先行研究論文に対するクリティックの必要性が理解できる。 ②先人の看護理論を学習し、それぞれの特性について説明できる。 ③看護学に共通する基本的概念と看護理論との関連性について理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。 2. 本授業科目はオムニバス方式であるため、シラバスによる次回担当教員の確認を行い、テキスト等指示された準備物の忘れ物がないように注意して授業に臨む。 3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。

教材

テキスト①看護学テキスト NICE 看護理論 南江堂 ②あっそーか！ロイとゴートンで母性小児看護過程 11事例、改訂版、2017、ふくろう出版、はじめての看護理論 医学書院

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 看護学と看護理論（山本）	① 看護研究論文と看護理論家 ②看護活動と看護理論家
2	看護実践上の倫理的概念、看護理論の実践活用の意義（岩瀬）	①看護実践における倫理的概念と倫理的行動の規律 ②看護実践活用に活かす意義
3	看護理論の分類（山本）	① 看護理論の分類と特徴 ②看護理論と看護過程 ③ クリティックの意義
4	看護理論家の例（山本）	① フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン
5	成人看護学の主な看護理論について（三浦）	これまでに学んだ看護理論を復習して講義に臨むこと
6	リプロダクティブヘルス、母性と父性、母子相互、セルフケア、ウェルネス、ロイ適応看護論、ストレス、家族看護論（内藤）	テキスト②p2-19 ロイ適応理論を予習、リプロダクティブヘルスや自分の考える母性と父性につき後日レポート提出
7	小児看護に活用できる理論・看護学実習で活用できるアプローチ、プロセスレコード（野田）	① ヒルデガード・E・ベプロウ “対人関係理論” ② ドロセア・E・オレム “セルフケア不足看護理論”
8	高齢者看護に活用できる理論・アプローチ（健康の概念、ライフストーリー、レジリエンス）（白井）	健康とはどのようなことを言うのかをインタビューして、講義に参加する。

評価方法 および評価基準

筆記試験 90% (看護の基本 30%、成人・老年・母性・小児各 15%)、受講態度 10% により評価する。

S (100~90点) : 看護学に共通する基本的概念と看護理論の関係性について理解できる。

A (89~80点) : 先人の看護理論のそれぞれの特性について説明できる。

B (79~70点) : 積極的に先人の看護理論を学習することができる。

C (69~60点) : 先行研究論文に対するクリティックの必要性がわかる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目一看護の基本			デイブロマボリューム達成するためには、 ①知識・技能の獲得 ②問題解決能力の養成	人間力 ○	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	看護倫理				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	川北美枝子、内藤直子				多職種連携	

講義目的

あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献することを使命とし、倫理の重要性、倫理に関する理論や倫理原則、思考方法を学ぶ。生命、人の尊厳を尊重することができ、看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史を通して、倫理的課題を解決するための理論や倫理原則、思考方法を理解できる。看護師のプロフェッショナリズムを高めるための方法を学び、事例を展開させながら検討・発表会を行う。

授業内容

看護倫理学では、看護職に必要な倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的課題を考察することによって、倫理的感受性、倫理観を高めることを目指している。実際には、学生は、倫理の意義、看護者の倫理的責任（人の尊厳と患者の権利、看護者の倫理綱領）、対象の意思決定を支える看護職の倫理的意思決定、患者の権利を護ることに焦点をあてた事例検討を行い、倫理的感受性を養うと共に倫理観を培う。平岡翠（5回）、中屋ひとみ（3回）

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

看護実践では、看護倫理は重要であり、基礎知識を理解するには各回の授業テーマにあわせた課題に対して学修をしておく。そのためこの科目の単位を修得にはおよそ15時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートのフォードバックは、その都度講義時間内に行う。

教材

テキスト：必携図書

看護倫理、宮坂道夫、石原逸子他、系統看護学講座 別巻 2018年改定版、価格：1,944円
他は授業で適時に紹介する。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護倫理を学ぶために・なぜ倫理を学ぶのか 倫理学の基本的な考え方①倫理とは何か、②倫理理論、③他者理解と対話にための理論、生命倫理とはなにか、①生命倫理とは何か②生命倫理の理論、③生命倫理と看護職の責務 川北	第1章：看護概論で学習する「看護とは」を各自考えて、講義を受ける 第2章：第1章の復習で読んでおく倫理とは何か、生命倫理についてまとめをする。（p2～P39）
2	看護倫理とは何か ①倫理を学ぶ意義と歴史、②看護の倫理原則、③看護実践上の倫理的概念、④看護実践と倫理 専門職の倫理 ①社会から見た倫理、②専門職に求められる倫理、③専門職の倫理綱領、④看護業務基準と倫理実践、⑤保健師助産師看護師法と倫理 *課題を提示* 川北	第6章：第2章を読んでおく看護倫理、歴史、専門職の倫理的責任について事前学習（p96～P115） 第7章：ICN・日本看護協会が出版している倫理綱領を熟読し、看護師の責務をまとめると。（p224～P226）
3	倫理問題のアプローチ ①看護実践における倫理的問題の特徴、②倫理的問題へのアプローチ・Jonsenの臨床4分割法、サラ・フライ、ナラティブーアプローチ、レストの分析モデルについて学習する。川北	第8章：倫理的問題へのアプローチでJonsenの臨床検討について学習する。（p140～P147） サラ・フライ、ナラティブーアプローチ、レストの事前と事後の学習（p150～P161）
4	看護研究の倫理、 ①看護職と研究倫理、②研究における倫理的問題、③倫理的配慮の要点、④看護研究に必要な倫理的配慮 事例分析1：Jonsenの臨床4分割法を用いて・事例によるグループ討議をする。 川北	第9章：研究における倫理的問題をまとめると。（p164～P179） 第10章：臨床検討シートのケアの4相でグループ討議を行う前に課題検討（p202～P206）
5	事例分析2： 検討シートに基づき事例を分析し、各グループ発表をする 提示した課題レポートを提出する。 川北	第10章：枠組みを用いてグループ討議をする。 グループ討議では、自分の考え方を相手に伝えて傾聴する姿勢を身につける。
6	性と生殖の生命倫理 ①性の生命倫理、②生殖の生命倫理を学ぶ 死の生命倫理、 ①死について、②死と医療、③死への生命倫理の課題、 内藤	第3章：性と生殖の生命倫理および 第4章：死の生命倫理について事前学習（p42～P71）
7	先端医療、①移植医療の歴史と現状②再生医療の歴史と現状 ③遺伝子医療の歴史と現状、④医療資源と医療保険制度 事例分析3：トンプソンの意思決定モデルについて10のステップの理解・分析方法・事例分析*課題を提示* 内藤	第5章：先端医療と制度を事前学習（p74～P90）、 第10章：トンプソンの意思決定モデルの分析方法の事前事後学習（p147～P150）（p207～P213）

8	<p>看護研究の倫理、 ①看護職と研究倫理、②研究における倫理的問題 ③倫理的配慮の要点、④看護研究に必要な倫理的配慮 *提示した課題レポートを提出する。 内藤</p>	<p>第9章：看護研究の倫理とその要点を熟読する。 (p164～P179)</p>
評価方法 および評価基準		
課題レポート 30%、最終試験 70%により評価する。		
S (100～90点)：看護倫理の基本的な理論や原則、方法についてほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。		
A (80～100点)：看護倫理の基本的な理論や原則、方法について十分に説明でき、自己の課題を明確にことができる。		
B (79～70点)：看護倫理の基本的な理論や原則、方法について概ね 説明でき、自己の課題を概ね理解できる。		
C (69～60点)：看護倫理の基本的な理論や原則、方法について不十分ながら説明でき、基礎を培う努力ができる。		
D (60点未満)：Cのレベルに達していない。		

科目区分	専門教育科目一看護の基本			テイブロマボリシードを達成するためには必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ				実践的理解 ○	
配当学年/学期	1 / 前期	単位数	1		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江、水木幸子、野田みや子、石田美和、榎田恵子				多職種連携 ○	

講義目的

本実習科目では、入院生活を送る患者との関わりの実際を見学し、保健・医療分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。同時に看護専門職者に求められる基本的な態度を修得する。

授業内容

この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面をもつものである。看護を学ぶ者としての自覚と看護者の倫理綱領に則った責任ある行動の自覚が大切である。

到達目標 ①医療の分野における看護職者の役割が説明できる。 ②医療の分野における看護の機能を説明できる。 ③看護者の倫理綱領に則って、他者を重んじた行動ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。
(例：既定のユニフォームを着用しない、髪の色・装飾品・靴下の色等教員の注意を無視する 等)
2. 看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で臨む。
3. 実習は原則欠席しない。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。

教材

テキスト
参考図書

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
---	-----	-------------

実習は「基礎看護学実習Ⅰ」実習要項に則って実施する。

評価方法 および評価基準

実習内容・実習記録 90%、受講態度 10% により評価する。

S (100~90 点) : 医療分野における看護職者の位置づけ、役割を説明できる。

A (89~80 点) : 医療の分野における看護の機能を説明できる。

B (79~70 点) : 入院生活を送る患者に対する看護援助の実際が理解できる。

C (69~60 点) : 看護を学ぶ者としての倫理的実習態度と自覚をもつことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の基本			デイフロマボリシィを達成するための必要能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ				実践的理解 ○	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	山本澄子、岩瀬通江、水木幸子、野田みや子、石田美知				多職種連携	

講義目的

本臨地実習では、医療機関において健康障害により入院生活を送っている患者（対象者）を受け持ち、看護過程を開拓する基礎的な能力を修得する。看護に必要な情報を適切にアセスメントし、看護上の問題を明確化し、それを言語化する能力、また看護計画を立案し実践できる能力を身につける。これらの看護過程を通して、看護職として必要な態度を修得する。

授業内容

入院生活を送る患者（対象者）を受け持ち、対象者のニーズに沿った看護を提供できるように、看護過程の展開の基礎を身につける。また、看護過程の展開から、必要な看護援助法を考える。

到達目標 ①患者（対象者）とのコミュニケーションを図り、援助関係を築くことができる。 ②基本的ニードの充足状態をアセスメントし、看護上の問題を明確にすることができます。 ③看護問題に対応した個別的・具体的な日常生活援助方法を見出し検討することができる。 ④患者（対象者）の個別性を踏まえた看護援助技術（日常生活援助技術）を実施できる。 ⑤実施した援助を評価し、次の援助計画、援助行動に繋げていくことができる。 ⑥看護援助活動を通して、看護職者としての態度を身につけることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。
(例： 規程の看護ユニフォームを着用しない。 髪の色・装飾品・靴下の色等、オリエンテーションや教員の注意を無視する 等)
2. 看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で臨む。
3. 実習記録物の取扱い、管理に細心の注意を払う。
4. 実習は原則欠席しない。出席回数が規定に達しない場合は評価対象外とする。

教材

テキスト

参考図書

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
---	-----	-------------

実習は「基礎看護学実習Ⅱ」実習要項に則って実施する。

評価方法 および評価基準

実習内容・実習記録 90%、実習態度 10% により評価する。

S (100~90点) : 患者（対象者）との援助関係を築くことができ、一連の看護過程の展開記録を作成し、看護援助の実施ができる。

A (89~80点) : 患者（対象者）との援助関係を築くことができ、基本的ニードの充足状態をアセスメントし、看護上の問題を明確にし、看護援助法（OP・TP・EP）を記載できる。

B (79~70点) : 基本的ニードの充足状態をアセスメントし、看護問題の明確化（看護診断）を明確にすることができます。

C (69~60点) : 患者（対象者）とのコミュニケーションを図ることができ、看護に必要な情報収集ができ、情報整理からアセスメントすることができる。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			するためには 必要な能力 を達成	人間力	
授業コード					ケア・スピ リット ○	
授業科目名	成人看護学概論				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	2 単位		プロフェッ ショナリズ ム	
担当教員	三浦昌子、永坂和子				多職種連携	

講義目的

成人期のライフサイクルに沿った健康課題について、そのセルフケアと療養を支える看護実践を学ぶ。成人各期の発達段階についてそれぞれの身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割について理解し、急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴・基礎理論（生体侵襲理論、危機理論等）を用いて理解する。また、慢性的な病気を持つ人々の健康問題の特徴を踏まえた看護についても学ぶ。成人看護学の対象となる人々への援助に必要な理論と看護診断の概要を理解し、その健康課題について、身体的・精神心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントし、支援できることを目標とする。

授業内容

テキストや資料を通して講義する。また、成人期の特徴を自ら捉えられるように小グループディスカッションを組み込み、次の成人看護援助論の授業に繋げていくことができるよう進めます。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

急性期・慢性的な看護実習の基盤となる科目である。主要な各理論を深めるためには、事前にテキストを読んでくることや講義資料に提示した授業内容を復習する。

教材

テキスト：ナーシング・グラフィカ 成人看護①成人看護学概論、メディカ出版

参考書：成人看護学、成人看護学概論、第2版、NOUVELLE HIROKAWA

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス：成人期にある対象者の成長発達や各期の健康問題の特徴を理解する（三浦）	予習：テキスト P12～P43
2	成人期にある対象者の身体機能変化に着目した看護について理解する（三浦）	予習：テキスト P46～P72
3	成人の学習者としての特徴を踏まえた健康教育・患者教育の手法を理解する（三浦）	予習：テキスト P108～P124
4	成人期における生活習慣と健康障害の関連・発症予防・自己効力感を理解する（三浦）	予習：テキスト P130～P141
5	成人期の職業に関連する健康障害・職業性疾病・業務上疾病の予防と生活ストレスに関連する健康障害に対する看護の役割を理解する（三浦）	予習：テキスト P146～P166
6	成人期の余暇活動の特徴や予防と対処を理解する。（三浦）	予習：テキスト P182～P189
7	健康障害をもつ人々のストレスフルな状態にあるストレスを理解する（三浦）	予習：テキスト P226～P235
8	急性期看護のまとめ：事例を用いて、急性期の健康障害の特徴・理論の活用を討議およびレポート作成する（三浦）	予習：危機理論・ストレス理論・コーピング理論
9	成人期の生活を理解する視点と健康観の多様性の看護を理解する。グループワークを通して健康レベルを考える（永坂）	予習：テキスト P74～P106
10	セクシュアリティと健康に関連する概念・更年期にみられる健康障害の予防・対応について理解する（永坂）	予習：テキスト P168～179、P192～P198
11	成人期への看護に有用な概念を理解する。事例で病の軌跡についてグループワークを通して考える。（永坂）	予習：テキスト P202～P211
12	成人の理解と看護におけるセルフケアの概念・理論の有用性を理解する（永坂）	予習：テキスト P216～P221

13	成人期にある人や家族の意思決定を支援するために必要な看護の知識と役割を理解する（永坂）	予習：配布資料
14	成人期にある人の看護を実践する過程で、ロイ適応看護モデル・自己効力理論を理解する（永坂）	予習：テキスト P248～P268
15	慢性期看護のまとめ：事例を用いて、慢性期の健康障害の特徴・理論の活用を討議およびレポート作成する（永坂）	予習：セルフケア理論・ロイ適応看護モデル・自己効力理論
評価方法 および評価基準		
定期試験 80%、レポート 10%、グループワーク 10%により評価する。 S (100～90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。 A (89～80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。 B (79～70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。 C (69～60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。 D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			ディレクタードリード型 授業による 学習成果	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	成人看護援助論Ⅰ（急性期）				実践的理解	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	三浦昌子、野村浩、中屋ひとみ				多職種連携	

講義目的

成人期における急性期や重症な状態、周術期にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護実践を学ぶ。生命危機的な状況にある対象者の呼吸・循環管理、フィジカルアセスメントを用いた全身状態の観察法、救急看護法やクリティカルケア実践に必要な看護技術を修得する。また回復期にある患者の心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支える看護実践を学ぶ。

授業内容

急性・回復期、周手術期におけるアセスメント能力、必要な看護技術を講義と演習を連動させて学ぶ。到達目標は

- 急性・回復期にある対象者の急激な変化について理解し説明できる。
- 急性・回復期における侵襲の大きい治療や検査を受ける対象者を理解するためのアセスメントができる。
- 急性・回復期における侵襲の大きい治療や検査を受ける対象者に必要な看護技術を理解し実施できる。
- 周手術期に必要な看護について理解できる。
- クリティカルな状態にある対象者に対する具体的な看護方法について理解し実施できる。
- 急性・回復期、周手術期におけるチーム医療について理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人看護学概論の単位を修得していること

教材

テキスト 写真でわかる臨床看護技術2 アドバンス、本庄恵子監修、インターメディカ：3400円
臨床外科看護総論、矢永勝彦、高橋則子編集、医学書院：2800円

参考図書 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020、上鶴重美訳、医学書院：3000円
クリティカルケア看護学、道又元裕、医学書院：2100円
救急看護学、山勢博彰、医学書院：2500円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション 急性期看護の特徴	成人看護援助論Ⅰのシラバスを確認して授業に参加する
2	周手術期看護1 術前の看護と麻酔の基礎	術前オリエンテーション、麻酔について事前に予習して授業に参加する
3	周手術期看護2 術中、術直後の看護	手術室の環境、手術中の看護師の役割について事前に予習して授業に参加する
4	帰室時のアセスメント（シミュレーション）	術直後の看護を復習し、帰室直後に必要な観察項目を予習して授業に参加する
5	周手術期看護3 術後合併症予防の看護（呼吸・循環）	術後の呼吸器合併症、循環動態の変化について予習して授業に参加する
6	呼吸のアセスメント（気管吸引、体位ドレナージ）	呼吸状態を観察するのに必要な観察項目と気管吸引の手技を予習して授業に参加する
7	循環のアセスメント（12誘導心電図）	四肢誘導、胸部誘導について予習して授業に参加する
8	周手術期看護4 術後合併症予防の看護（疼痛、消化機能、術後せん妄）	疼痛のメカニズム、せん妄のメカニズム、消化器官の機能について復習して授業に参加する
9	周手術期看護5 術後合併症予防の看護（感染、離床、退院支援）	スタンダードプリコーション、感染症について復習して授業に参加する
10	術後看護ケア1（シミュレーション）	術後合併症予防のためのケアを復習して授業に参加する
11	術後看護ケア2（シミュレーション）	計画した看護計画を実施するための準備をして授業に参加する
12	循環器疾患患者の看護（心筋梗塞、狭心症）	循環器の解剖生理、循環器疾病について復習をして授業に参加する

13	消化器疾患患者の看護（胃がん） (中屋)	消化器の解剖生理、消化器疾患について復習をして授業に参加する
14	呼吸器疾患患者の看護（肺がん、急性呼吸不全）	呼吸器の解剖生理、呼吸器疾患について復習をして授業に参加する
15	人工呼吸器装着患者の看護	呼吸のメカニズムの復習をして授業に参加する
16	運動器疾患患者の看護（脊椎疾患、骨折）	運動器の解剖生理、運動器疾患の復習をしてから授業に参加する
17	脳神経疾患患者の看護（脳卒中）	脳神経の解剖生理、脳卒中を復習してから授業に参加する
18	クリティカルケア看護	クリティカルケアについて予習をして授業に参加する
19	救急看護	救急看護とクリティカルケア看護の違いを予習して授業に参加する
20	急性期における特殊な治療と看護	特殊な治療機器について予習して授業に参加する
21	ME 機器の管理（シリンジポンプ、輸液ポンプ）	輸液ポンプ、シリンジポンプについて予習して授業に参加する
22	急性期看護におけるチーム医療	チーム医療について復習して授業に参加する
23	救命処置（BLS、ALS）	一時救命処置について予習して授業に参加する
24	看護過程の展開 1（情報収集）	情報収集、分類の方法について復習して授業に参加する
25	看護過程の展開 2（アセスメント）	アセスメントに必要な情報を整理して授業に参加する
26	看護過程の展開 3（アセスメント）	アセスメントした内容を修正して授業に参加する
27	看護過程の展開 4（看護診断）	アセスメントに関連した NANDA 看護診断項目を熟読して授業に参加する
28	看護過程の展開 5（看護計画）	看護過程演習（看護計画の内容）を復習して授業に参加する
29	看護過程の展開 6（評価）	看護過程演習（評価の内容）を復習して授業に参加する
30	総括	

評価方法 および評価基準

筆記試験（50%）および、演習課題（50%）の達成状況により評価する。

S (100~90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目 看護の展開			デイブロマポリシーを達成するためには必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	成人看護援助論Ⅱ（慢性期）				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	高木繁子、永坂和子				多職種連携	

講義目的

疾病をもちながら生きる対象の思いや生活、治療過程を理解し、セルフケアを伴う社会生活を支える看護実践を学ぶ。慢性病を持つ対象者の健康障害・疾病の特徴とライフヒストリーを理解し、その人のQOLを尊重した自己管理に繋がる看護援助法を修得する。健康状態の変化によって引き起こされる患者の身体的、心理的変化を理解し、慢性病を受容し主体的に生きるために看護援助方法を学ぶ。がん患者の看護（手術後、化学療法、放射線療法、緩和ケア等）、長期療養を必要とする慢性疾患の看護についても学ぶ。

授業内容

慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、対象者が主体的に療養生活を送ることができるように必要な看護援助を学習する。代表的な慢性疾患モデルで疾病の理解・アセスメント・症状コントロールのための指導方法等について講義する。講義後、各疾患における看護問題の抽出から看護過程が展開できるように演習し、慢性期看護実習へと繋げるように進める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業の疾患の解剖生理・病態生理は必ず予習してくる。予習することで、アセスメントや看護過程の演習が効果的になる。各自でノートを整理し、繰り返しが看護過程の展開力となり国家試験対策となる。

教材

テキスト：鈴木久美：看護学テキスト NICE 成人看護学、慢性期看護、病気とともに生活する人を支える、改定第3版、南江堂、2019
参考図書：安酸史子：ナーシング・グラフィカ、成人看護学①成人看護学概論、メディカ出版、2019

鈴木志津枝：慢性期看護論、第3版、NOUVELLE HIROKAWA、2014

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1 2	慢性期疾患の種類と特徴を把握し、動向・社会の変化、治療・療養環境の特徴、看護の役割を理解する	予習：テキスト P2～P64、成人看護学概論で学んだ理論や看護過程を読んでくる 復習：配布資料
	慢性期を有する人とその家族の理解を理解する	
3 4	慢性期疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本を理解する	予習：テキスト P72～P127、成人看護学概論で学んだセルフケアマネジメント、アドヒアランス、病みの軌跡などの理論を読んでくる 復習：配布資料
	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助を理解する	
5 6	気管支喘息を有する事例より看護過程を理解する	予習：テキスト P218～P223、気管支喘息の疾患について読んでくる 復習：配布資料
7 8	循環器系の障害を有する対象者とその家族への援助を理解する	予習：テキスト P271～P279、循環器系の解剖生理・病態生理、心不全の疾患について読んでくる 復習：配布資料
	心不全を有する対象者とその家族への援助を理解する	
9 10	心不全の事例より、看護計画・患者指導方法を理解する。	予習：テキスト P271～P279、患者指導の概念や理論を読んでくる 復習：配布資料
11 12	脳神経障害を有する対象者とその家族への援助を理解する。事例を通して演習で脳梗塞を有する人の看護過程を理解する	予習：テキスト P418～P424、脳神経系の解剖生理・病態生理、脳梗塞の疾患と看護を読んでくる 復習：配布資料
13 14	脳梗塞を有する対象者とその家族への意思決定支援・退院支援を理解する。	予習：意思決定支援・退院支援・地域連携クリティカルパスの配布資料を読んでくる 復習：配布資料
15 16	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助を理解する。事例を通して演習で糖尿病を有する人の看護過程を理解する	予習：テキスト P328～P339、糖尿病疾患・病態生理、看護について読んでくる。 復習：配布資料
17 18	糖尿病を有する人と家族への効果的な支援についてグループワークを通して考える	予習：生活習慣病の発生要因、患者指導として効果的な理論を読んでくる 復習：配布資料

19	糖尿病を有する人と家族への支援についてロールプレイを通して理解する	予習：テキスト P130～138、インスリン療法について読んでくる 復習：配布資料
20	インスリン療法の基礎知識とインスリン療法を受ける患者の援助	
21	腎障害を有する人とその家族への援助を理解する。	予習：テキスト P357～P367、 復習：配布資料
22	慢性腎不全を有する人の事例より演習を通して看護過程を理解する	
23	人工透析を受ける患者の援助を理解する	予習：テキスト P140～P149 復習：配布資料
24		
25	肝臓がんを有する人とその家族への援助を理解する	予習：テキスト P307～P310 復習：配布資料
26		
27	化学療法を受ける患者の援助を理解する	予習：テキスト P169～P182、テキスト P183～191 読んでくる 復習：配布資料
28	放射線治療を受ける患者の援助を理解する	
29	演習を通して慢性期疾患を有する人に対する看護の役割をまとめると	予習：今まで学んだ慢性期疾患における看護を整理してくる 復習：配布資料
30		
評価方法 および評価基準		
定期試験 70%、レポート 10%、グループワーク 20%により評価する。		
S (100～90 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
A (89～80 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
B (79～70 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。		
C (69～60 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			ディプロマポーリングを達成するための必要能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	老年看護学概論				実践的理解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	臼井キミカ				多職種連携	

講義目的

老いと、老年看護の対象となる人々の特徴、及び老年看護の基本となる考え方について科学的根拠に基づき理解し、複数の疾患や障害を抱えつつ老年期を生きる高齢者の暮らしや、望みを知る。さらに高齢者の尊厳あるケアと看取りについて学修し、高齢者と家族の意向を理解して意思決定を支え、地域包括ケアの実現に向けての課題や、多職種協働の視点とストレングスを生かした地域づくりと老年看護学の課題を探求する。

授業内容

高齢期にある人とその家族を環境との関係の中で、発達段階、健康レベル、保健行動の視点から生活者として総合的に理解し、高齢者とその家族を支援する看護活動の基本的概念について学ぶ。また、高齢者のウエルネスと QOL の視点から、高齢者の特徴や個人差、その人らしさについて学びを深め、最適の健康を生きることができる看護援助のあり方について理解し、高齢者的人権や権利擁護について学ぶ。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 高齢者看護学の基礎となる科目であり、主体的な学修を期待します。
2. 講義の最後に講義内容に関する 5 分間程度の小テストを毎回実施します。
3. この科目を失格した場合は、「老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」は履修できません。その自覚を持って、授業に臨んでください（20 分以上の遅刻、早退は欠席となります）。
4. この科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業外学修（学習課題に示した内容の学修等）が必要です。
5. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。

教材

テキスト 看護学テキスト NiCE 老年看護学概論（改訂第 2 版）「老いを生きる」を支えることとは 正木治恵・真田弘美編
出版：南江堂（2019 年）、ISBN：978-4-524-25901-4 価格：3,080 円

参考図書 国民衛生星の動向 2019/2020 Vol. 66 (9) 出版：厚生労働統計協会（2019 年）価格：2,646 円
国民の福祉と介護の動向 2019/2020 Vol. 66 (10) 出版：厚生労働統計協会（2019 年）価格：2,356 円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	第Ⅰ章：老年看護を理解するための基盤 第Ⅱ章：老年看護の理念と目標 (4/6)	第Ⅰ章～第Ⅱ章を読み、高齢者をとりまく社会制度についてインターネット等で情報収集して講義に参加する。 (教科書 p2～63)
2	第Ⅲ章：老年看護の対象となる人々の特徴① (4/13)	第Ⅲ章(対象特性・対象理解・からだ・こころ・かかわり暮らし・生きがい)を自己学習して講義に参加する。 (教科書 p66～109)
3	第Ⅲ章：老年看護の対象となる人々の特徴② (4/20)	第Ⅲ章(歳月の積み重ね、高齢者ケアにおける高齢者理解の発展)を自己学習し、P111 を参考にして関心のある事柄(ヒットした流行歌、ファッション等)の一覧表を作成して講義に参加する。 (教科書 p110～122)
4	第Ⅳ章：老年看護に活用できる理論・アプローチ① (4/27)	第Ⅳ章を読み、関心のある理論を取り上げて、その特徴をまとめて講義に参加する。 (教科書 p124～160) 連休中の課題レポート①：連休中に後期高齢者へのインタビューを行い、その内容に関するレポート(A4 版用紙 2 枚程度)を作成する。
5	第Ⅳ章：老年看護に活用できる理論・アプローチ② (5/11)	後期高齢者へのインタビューレポートをもとにグループ別に情報交換を行うので発表の準備をして講義に参加する(レポートは提出、コピー1 部を持参)。

6	第VI章:高齢者の健康生活の支援 (5/18)	第VI章 (p188~212)、巻末の付録:評価スケール・アセスメントツール (p381~392) を自己学習して講義に参加する。
7	第VII章:高齢者の療養生活の支援① (5/25)	第VII章:薬物療法・手術療法を受ける高齢者への看護、を自己学習して講義に参加する。 (教科書 p214~225)
8	第VII章:高齢者の療養生活の支援② (6/1)	第VII章:高齢者のリハビリテーション看護、受療形態に応じた高齢者への看護、地域連携における退院時の看護を自己学習して講義に参加する。 教科書 p226~241)
9	第VII章:高齢者の療養生活の支援③ (6/8)	第VII章:療養生活の場の特徴と看護を自己学習して講義に参加する。 (教科書 p242~258)
10	第VIII章:認知症高齢者の支援① (6/15)	第VIII章:認知症と社会制度を自己学習して講義に参加する。 (教科書 p260~266)
11	第VIII章:認知症高齢者の支援② (6/22)	第VIII章:認知症の予防を自己学習して講義に参加する。 (教科書 p267~271)
12	第VIII章:認知症高齢者の支援③ (6/29)	第VIII章:認知症の高齢者への看護を自己学習して講義に参加する (教科書 p273~283)。認知症高齢者ケアに関する先駆的な取り組み (実践報告・国内外を問わない) を調べてレポートを作成する (課題レポート②)
13	第V章:「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護 第IX章:高齢者の尊厳を支える看護と見取り (7/6)	第V章、第IX章を自己学習し、疑問点を確認して講義に参加する。 (教科書 p172~185、285~306)
14	第IX章:3. 家族介護者の生活支援 4. 終末期の家族支援 (7/13)	第IX章を自己学習し、疑問点を確認して講義に参加する。 (教科書 p307~327)
15	第X章:生かし生かされる地域づくり、第XI章:老年看護学の課題 (7/20)	第X~XI章を自己学習し、これまでの講義内容で疑問等があれば書き出して講義時間内に質問すること。 (教科書 p330~380)

評価方法 および評価基準

小テスト 20%、定期試験: 50%、課題レポート: 20%、授業への参加状況: 10%により評価する。

S (100~90 点) : 講義で学んだ内容を十分理解し、我が国の高齢者看護の概要と課題を十分に説明できる。講義に積極的に参加し、自己の課題を極めて明確にできる。

A (89~80 点) : 講義で学んだ内容を理解し、我が国の高齢者看護の概要と課題を概ね説明できる。講義に積極的に参加し、自己の課題を説明できる。

B (79~70 点) : 講義で学んだ内容を理解し、我が国の高齢者看護の概要と課題を不十分ながら説明できる。講義に参加し、自己の課題を概ね説明できる。

C (69~60 点) : 我が国の高齢者看護の概要と課題について考えることができる。講義に参加し、自己の課題を不十分ながら知ることができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			テクノロジーを活用するための技術能力	人間力		
授業コード					ケア・スピリット	○	
授業科目名	老年看護援助論Ⅰ				実践的理 解	○	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム		
担当教員	臼井キミカ、中谷こずえ				多職種連携		

講義目的

高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢期特有の疾患や症状・機能障害の特徴とその要因・誘因を知り、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解する。すなわち、それらの疾患や障害が、高齢者の生活にどのように影響するのかを理解し、高齢者のセルフケアの促進や予防を含めた看護について探求し、高齢者が“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術を学ぶことをこの科目的目的とする。

授業内容

高齢者の特性を理解し、その人らしさの追求も実現できるように基本的な看護技術について学ぶ。また、日常生活を自律できるように支援方法を考えながら演習を行う。

オムニバス方式／全 15 回 中谷 こずえ／13回 臼井 キミカ／2回

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 老年看護学概論を履修済みであること
2. この科目を履修するにあたり、授業外学修が約 30 時間必要です。
3. 小テストや課題レポートのフィードバックは、講義時間内に行いますが、個別におけるフィードバックは時間外に行います。

教材

テキスト 1：看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術 編者 泉キヨ子、小山幸代、メディカルフレンド社 2019年第3版
価格 3,600円+税

テキスト 2：生活機能からみた老年看護過程 編集 山田律子、荻野悦子、内ヶ島伸也、井出 訓、医学書院 2016年第3版
価格 3,600円+税

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	老年看護対象の理解（高齢者体験）	テキスト 1 p2～7 を読み、老年看護の目的を予習する
2	老年看護対象の理解（高齢者体験）	テキスト 1 p9～14 を読み、超高齢社会の現状を予習する。復習として、高齢者体験での学びをレポートにまとめ提出する
3	老年看護に必要なアセスメント技術 1	テキスト 1 p18～36 フィジカルアセスメントに必要な基本的技術を読み授業にのぞむ
4	老年看護に必要なアセスメント技術 2	テキスト 1 p37～46 生活機能評価をするための尺度を読み授業にのぞむ
5	老年の特性を踏まえたコミュニケーション技術	テキスト 1 p47～61、テキスト 2 p45～51 老年看護におけるコミュニケーション技術と基礎的コミュニケーション技術との違いを考え授業にのぞむ
6	食べることに関する意義とアセスメント方法	テキスト 1 p80～101 食べることに関するアセスメントを読み授業にのぞむ
7	摂食・嚥下機能の加齢変化・障害 義歯の取り扱い方	テキスト 1 p170～180 摂食嚥下障害のメカニズム、原因を読み授業にのぞむ
8	摂食・嚥下機能の加齢変化・障害 口腔ケア	テキスト 1 p181～202 口腔ケアの目的、高齢者の口腔問題を読み授業にのぞむ
9	加齢に伴う排尿・排便機能に伴う排泄ケア	テキスト 1 p102～113 を読みまとめ授業にのぞむ オムツ内での排尿を体験し、レポートを提出する

10	身体の清潔と身だしなみ	テキスト 1 p114~121 高齢者の皮膚の特徴を踏まえた清潔方法を考え授業にのぞむ
11	清潔（トイレ・オムツ内での陰部洗浄）	基礎看護学のテキストを参考にし、おむつを使用した陰部洗浄の手順を書いて持参し、授業に臨む
12	活動と休息	テキスト 1 p137~160、テキスト 2 p2~16 を読み身体を動かすことの意義・廃用症候群をまとめ授業にのぞむ
13	転倒・骨折	テキスト 1 p217~226、テキスト 2 p127~155、p399~408 を読み、高齢者体験を踏まえ振り返り、転倒しやすい要因をまとめ授業にのぞむ
14	認知症高齢者を支えるコミュニケーション技術	テキスト 1 p272~288 を読み、認知症の定義、種類、症状、アセスメントの視点をまとめ授業にのぞむ
15	認知症中核症状に対応するコミュニケーション技術	テキスト 1 p289~311 認知症高齢者とのコミュニケーション方法を読み授業にのぞむ

評価方法 および評価基準

小テスト 10%、期末試験 50%、課題レポート 20%、授業への参加状況 20%により評価する。

S (100~90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			元々の口頭・ボリュームを尊重するためには、コミュニケーション能力を養成する	人間力		
授業コード					ケア・スピリット	○	
授業科目名	小児看護学概論				実践的理解	○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数			プロフェッショナリズム		
担当教員	野田みや子、平岡翠				多職種連携		

講義目的

現在の小児と家族がおかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について理解する。小児各期の成長・発達の特性を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について学ぶ。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解し、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。

授業内容

小児看護の対象者である子どもの成長発達上の特徴及び小児看護の基本となる理念、子どもの人権、現代の子どもと家族の概況や倫理的観点から子どもの健康問題、小児看護の役割と課題について講義する。

子どもの全体像をイメージするために、各期の子どもの成長・発達及び栄養の特徴、健康、家族、看護の特徴について説明する。小児と家族の諸統計から小児の健康問題の動向を知るとともに、小児に関する保健医療福祉のシステム、および法規を知り具体的な施策について説明する。国内外の小児看護の変遷を学び包括的ケアへと発展してきている現代の小児看護の役割について倫理的観点を含み意見交換・発表する場を設ける。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からぬことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

教材

テキスト ナーシング・グラフィカ・小児の発達と看護/著:中野綾美/メディカ出版/

参考図書 危機療法の理論と実際/著:ドナ・アギュララ/川島書店/

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	小児看護の理念と目標、小児看護の変遷を理解する。	【予習】指定された教科書に目を通す 【復習】配布資料を読み返す ※5minutes test
2	小児保健統計を理解する。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
3	小児看護に必要な発達理論と、身体の特徴について理解する。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
4	子どもの死の受け止め方について理解する。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
5	乳乳幼児期の健康問題に必要な看護を説明できる。幼児期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。①～④の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
6	学童思春期の健康問題に必要な看護を説明できる。 学童思春期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。⑤の重要な点の出題を解答し、解説を聞く	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
7	小児および家族・同胞とのコミュニケーションについて理解する。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
8	災害にあった子ども達の看護について理解する。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test

9	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑥、⑦、⑧の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
10	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑨の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
11	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑩の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
12	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑪の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
13	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑫の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
14	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑬の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
15	まとめ：①～⑬の授業内容について総括する	【予習】教科書の指定ページに目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。

S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (excellent)

A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (very Good)

B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない (Failure)

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			ディプロマカリキュラムを達成するための実践能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	小児看護援助論Ⅰ				実践的理理解 ○	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子、平岡翠				多職種連携	

講義目的		
小児の心身の健康問題が小児とその家族に与える影響について考え、健康問題をもつ小児とその家族のニーズを把握し、適切な看護の方法を身につける。具体的には、病気・障害や入院が小児や家族に与える影響を理解し、さまざまな療養環境や疾病の経過における小児と家族への看護について基礎的な知識と技術を修得する。さらに、小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。		
授業内容		
子どもとその家族に向けた適切な看護援助の在り方について、具体的な理解を踏まえた基礎的な実践能力を修得する。 小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援をする基本的知識を講義する。 疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について意見交換・レポート作成ができるようになる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
授業中に発表を求めます。分からぬことがありますれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
テキスト 参考図書		
テキスト ・ナーシンググラフィカ小児看護学2 小児看護技術/著:中野綾美/メディカ出版/ 参考図書 ・ナーシンググラフィカ小児看護学1 小児の発達と看護/著:中野綾美/メディカ出版/ ・根拠と事故防止からみた小児看護技術（第2版）/著:浅野みどり/医学書院/ ・発達段階からみた小児看護過程（第3版）/著:浅野みどり/医学書院/ ・写真でわかる 小児看護技術（第3版）/著:山元 恵子/インターメディカ/		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、子どもの日常生活援助と入院の子どもへのプレバレーションやデストラクションについて学習する。	【予習】指定された教科書に目を通す 【復習】配布資料を読み返す ※5minutes test
2	子どもの病気認知と子どもに行われるフィジカルアセスメントについて学習する。	【予習】指定された参考図書に目を通す 【復習】課題レポート ※5minutes test
3	演習：抱っこの仕方・衣類交換・おむつ交換 正しい身体測定の仕方	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
4	子どもの清潔ケアに関するアセスメントの実際について学習する	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
5	発熱が身体に及ぼす影響について学習する。 (脱水・小児感染症・隔離)	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
6	呼吸器疾患児の把握とその対応について学習する。 (喘息・肺炎・クリープ)	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
7	小児救急の実際について学習する。 子どもの入院と家族の付き添いについて学習する。	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test

8	抑制や固定が必要な子どもへの援助について学習する。 (骨折・先天性股関節脱臼)	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
9	子どもへの声かけの仕方と点滴刺入部のシーネ固定法 演習：子どもの点滴固定	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
10	慢性的な疾患をもつ子どもの再発や悪化を防ぐ治療管理と在宅看護の援助について学習する。 (ネフローゼ・急性糸球体腎炎・Ⅰ型糖尿病)	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
11	子どもの内服について学習する。 演習：子どもの与薬方法	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
12	手術を受ける子どもの痛みについて学習する。 (口唇口蓋裂・先天性心疾患・痛み・プレバレーション)	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
13	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。 (重心児・筋ジストロフィー・てんかん他)	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
14	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。 (重心児・筋ジストロフィー・てんかん他)	【予習】演習の内容に関して、教科書を読み理解する 【復習】課題レポート ※5minutes test
15	まとめ①～⑭の学習の総括	【予習】今までのノートをまとめる 【復習】課題レポート ※5minutes test

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。

S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (excellent)

A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (very Good)

B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない (Failure)

科目区分	専門教育科目 看護の展開			ディプロマポーリシー達成 するためには、必要能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	母性看護学概論				実践的理 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	内藤 直子				多職種連携	

講義目的

学生は、リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、周産期の女性の生理心理社会的変化を学び、それに伴う家族の変化や適応へのケアが必要である。その特性に適応した援助への理解を深めつつ、人間のライフサイクルで性科学を学び、生殖期の女性の健康問題を well-being に看護実践できる方法論と母性看護の基本的概念を修得する。また学生が内在化する母性観・父性観を確認し対象への共感的理解能力を高め、社会的変遷や国際化社会における看護を理解する。

授業内容

学生は人間のライフサイクルで性科学を学び、学生自身の「母性と父性」概念を培うことで、母性看護学対象の基礎的な健康問題が認識できる。ロイ適応看護理論を理解し看護過程の意味を理解し、対象へ wellness 型思考で母性看護の実践ができる方法論と基本概念を修得する。更に女性の生涯を通じて家族の健康問題と社会的変遷や国際化社会で看護行動がとれる基礎知識を修得する。授業形態は書籍や PC 視聴覚で一斉講義やクリティカルな PBL 討議で展開し適時資料・ビデオ教材を活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目的単位を修得するにあたり、約 60 時間の授業時間外の学修（予習・復習）が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度、講義時間内に行う。その成果は、受講態度として評価に加える。出席回数が開講回数の 3 分の 2 以上が必要であり、学生便覧を熟読してください。オフィスアワーは、掲示しているので活用してください。特に講義後 30 分～60 分間は、研究室に在室するので質問など、気軽に利用してください。

教材

テキスト 1. 母性看護学概論・1、系統看護学講座、森恵美他、医学書院 2018、第 13 改訂、2640 円
2. 他は適時に提示する

参考図書 1. 「あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程 11 事例」、内藤直子他、ふくろう出版、3000 円+税
2. 他は適時に提示する。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	母性看護の概念： 母性とは、父性、親性とは、母性の身体的心理社会的特徴、母子関係と家族発達、愛着・母子相互作用、家族関係形成、	予習：第 1 章、A, B の 1-19 p を読み、各自の母性性や父性性、親性を考える。 復習：母子関係と家族機能、家族の発達課題が述べられる。
2	セクシュアリティ：（人間の性・性の多様性） セクシュアリティの発達と課題（乳幼児期から思春期） リプロダクティブヘルス／ライツとは、その課題	予習：第 1 章、C の 20-27 p を読み、人間の性と発達課題について理論的に調べる。 復習：セクシュアリティとリプロダクティブヘルス／ライツが述べられる
3	母性看護の概念： 女性の健康とライフサイクル、リプロダクティブヘルス／ライツ・ウイメンズヘルス、健康教育モデル ヘルスプロモーション、女性の生涯健康の活動と協働	予習：第 1 章、D, E の 24-33 p を読み、母性の基盤となる概念を深く理解できるよう調べてみる。 復習：リプロダクティブヘルス／ライツとヘルスプロモーション、女性のライフサイクルと健康を考える。
4	母性看護の理念： 母性看護のあり方、本質と特徴、災害時の支援、母性看護の課題と展望、医療技術進歩、卵子提供 母性看護の倫理、生命倫理、倫理的意意思決定、安全事故予防	予習：第 1 章、F, G の 34-53 を読み、各自で考える。 復習：母性看護のあり方、倫理、意意思決定、安全と事故予防について説明できる。
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状： 歴史的変遷と現状：助産の発展、母子保健統計の動向・母性看護の組織と法律、施策、家族、地域社会、生物学的社会文化的環境	予習：第 2 章、A の 54-85 p を読み、母性看護の歴史から関連法規や母子保健統計や施策、社会文化的意味を理解する。近代産科学や助産の発展を知る 復習：母性の関連法規や母子保健統計を説明する。
6	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状： 母性看護の対象を取り巻く環境と施策 家族・地域社会・生物学的環境・社会文化的環境	予習：第 2 章、B の 86-95 p を読み、母性看護の対象を取り巻く施策と環境を理解する。 復習：母性の対象に関する施策と環境を説明する。

7	母性看護の対象理解： 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、基礎体温測定について	予習：第3章、Aの94-123pを読み、生殖器の形態機能と性ホルモンを調べる。 復習：生殖器と性ホルモンが述べられるホルモンを調べる。
8	母性看護の対象理解： 女性のライフサイクルと家族、母性の発達・成熟・継承	予習：第3章、B、Cの124-154pを読み、母性、父性、親性、家族の意味を考え、母性的発達を理解する。 復習：母性、父性、家族が説明できる。 *PBLでGW後、ミニレポートを提出する。
9	母性看護に必要な看護技術： 母性看護における看護過程・ロイ適応看護モデルを用いた4様式で情報収集とアセスメント、・自己概念情報収集技術、②ヘルスアセスメントの方法	予習：第4章、A、Bの146-159p及び、教材2「ロイの看護過程11事例」の第1章を読み、看護過程でロイ適応看護モデルを用いた情報収集とアセスメント技法、自己概念を調べる。 復習：看護過程展開の要素を理解する。
10	母性看護で有用な理論と看護技術： 女性の意思決定を支える看護技術、②ヘルスプロモーション、③親になる過程・家族適応を促す看護技術、④カルガリーファミリー看護モデルのアセスメント法	予習：第4章、Cの160-172pを読み自己決定、保健指導、妊娠の受容、親になる過程、家族適応を調べる。 復習：母性看護で有用な理論と看護技術を、理解する。
11	母性看護で有用な理論と看護技術： ストレス・不快症状・苦痛緩和の看護技術②次世代の育成・発達を促す看護技術③リプロダクティブヘルスの健康障害の対応④周産期の死への看護技術	予習：第4章、Cの172-179pを読み、苦痛の緩和と、次世代の成長を促す、看護技術を調べる。 復習：母性看護で有用な理論と看護技術を理解する。
12	各期における看護： 1. 女性の健康と看護の必要性①思春期の健康と看護②成熟期の健康と看護③更年期の健康と看護④老年期の健康と看護、2. 産後ケアと育児支援、3. 多職種との連携と協働	予習：第5章、A、B、C、D、Eの180-245pを読み、女性のライフステージ各期の看護を調べる。 復習：女性のライフステージ各期の看護を理解する。 *課題レポート提出
13	リプロダクティブヘルスケア： ①家族計画、②性感染症とその予防③HIVに感染した女性への看護④人工妊娠中絶と看護、⑤喫煙女性の健康と看護	予習：第6章、A、B、C、D、Eの250-290pを読み、リプロダクティブヘルスケアに関する項目を調べる。 復習：家族計画、性感染症、HIV感染時、人工妊娠中絶や喫煙女性の健康と看護を理解する。
14	リプロダクティブヘルスケア： 性暴力を受けた女性に対する看護、②児童虐待と看護 ③国際化時代の多様なお産文化	予習：第6章、F、Gの291-306pから性暴力や、国際社会でのグローバルなお産文化と生命倫理を考える。
15	リプロダクティブヘルス： 国際化社会と看護、①母子保健の国際化、②在日外国人の母子保健と妊産婦ケア *母性看護学の特徴・まとめ	予習：第6章、Hの308-316pを読み、国際社会でのグローバルなお産文化と日本での生命倫理を考える。 在日外国人の母子ケアを調べる。 復習：母性看護学概論の基盤の概念をまとめる。

評価方法 および評価基準

ミニレポート（10%）、課題レポート（10%）、定期試験成績（80%）により評価する。

S (100~90点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の健康問題の理解、および、社会的変遷と看護のあり方を述べることができる。

A (89~80点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の健康問題の理解、および、社会的変遷と看護のあり方を概ね述べることができる。

B (79~70点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の健康問題の理解、および、社会的変遷と看護のあり方を理解することができる。

C (69~60点)：母性看護の概念「母性」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス/ライツ」を学び、対象の健康問題の理解、および、社会的変遷と看護のあり方を概ね理解することができる。

D (60点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			テ る た 方 に か れ て る よ う に 成 す	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ				実践的理解	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	内藤直子、石田美知				多職種連携	

講義目的

周産期の女性及び新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解し、対象の健康レベルをウェルネスな視点でアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を身につける。対象の健康レベルのアセスメント能力と、看護実践を支える基本技術と日常生活への適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の妊娠期・分婬期の女性に対するクリティカルな援助技法も修得し、母性看護の臨床看護実践に必要な基本的技術の修得を目指す。学生が内在化する母性観・父性観を確認し、対象を共感的に理解する視点も醸成する。

授業内容

本講義では、妊娠期から分婬期の正常経過にある対象の看護について学修する。妊娠婦の身体的特性や心理社会的特性、各期の看護に必要な情報やアセスメントの視点を理解し、母性看護を実践するための基礎的な知識を修得する。子育てをする母親・父親への親役割取得に必要な看護について理解し、新しい家族形成に向けて看護を実践できる具体的な援助方法を学修する。学生は、周産期の女性の生理的心理的変化のアセスメントでは、正常と異常の違いの観察力と看護的判断力能力を培う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本科目を履修する学生は、講義を積極的に受講することが条件である。予習・復習は30時間程度が必要となり、資料や教科書の熟読を求める。課題に対するフィードバックは講義時間内に行う。

教材

テキスト：1. 母性看護学各論「2」：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第13版、2018、3000円+税

参考図書：1. 「あっ！そうか ロイとゴードンの母性小児看護過程11事例」内藤直子他、ふくろう出版第2版、2014、3000円
2. 母性看護学概論：系統看護学講座 森恵美他、医学書院 第13版、2018、2640円
3. 他は、適宜に提示する。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	リプロダクティブヘルス概念と看護：リプロダクティブ・ヘルス／ライツ②子どもを産み育てることと看護 ③生殖補助医療・出生前診断と倫理的課題 (内藤)	予習：教材の第1章1-9p、第2章12-56pを熟読し受講する。 復習：リプロダクティブヘルス概念と看護が述べられる。 不妊治療と看護、遺伝相談など倫理的課題が述べられる。
2	正常な妊娠の経過： 妊娠期の定義、妊娠尾成立、妊娠の経過と胎児の発育、母体の生理的変化、妊婦と家族の心理社会的変化 (石田)	予習：教材の第3章A・Bの58-86pを予習し、妊娠の生理、妊娠期の身体的特徴、母体の生理的変化を理解する。 復習：妊娠期の定義、任氏の成立、妊娠経過と胎児の発育、母体の生理的変化が述べられる。
3	妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント： 妊娠週数、妊婦の健康状態と胎児の発育、食事と栄養、排泄 (石田)	予習：教材の第3章Cの87-126p、Dの130-146pを熟読し妊婦と胎児のアセスメント、妊娠時期の診断、など理解する。 復習：妊婦と胎児の健康と生活のアセスメントが述べられる。
4	妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント：妊婦健康診査、活動と休息、性生活、嗜好品、レオポルド触診法、子宮底・腹囲の測定、胎児心拍数聴取、胎児心拍数陣痛図、NST、超音波断層法 (石田)	予習：教材1の第3章Cの87-126p、Dの130-160pを予習し、妊婦と胎児の健康と生活のアセスメントを理解する。 復習：妊婦のレオポルド触診法、子宮底・腹囲の測定、胎児心拍数聴取、胎児心拍数陣痛図、NST、超音波断層法が述べられる。
5	妊婦と家族への看護：セルフケアと健康教育、マイナートラブル、家族の調整、出産・育児の準備、不育症、流産早産、妊娠期の感染症 (石田)	予習：教材の第3章126-176p、第7章I-B、EのP369-390を予習し、ハイリスク妊娠及び妊娠期の感染症を理解する。 復習：ハイリスク妊娠の意義や主な感染症が述べられる。
6	妊娠期の異常と看護(1) 切迫流産、早産、妊娠高血圧症候群のフィジカルアセスメント、メンタルアセスメントとケア (石田)	予習：教材1の第7章E~GのP387-399を予習し妊娠期の異常と看護を理解する。 復習：妊娠期の異常経過にある妊婦の看護を述べる。

7	妊娠期の異常と看護(2) 妊娠糖尿病、妊婦貧血、常位胎盤早期剥離①フィジカルアセスメント②メンタルアセスメント③ケア(石田)		予習：教材の第7章E~GのP387-399を予習し妊娠期の異常と看護を理解する。 復習：妊娠期の異常経過にある妊婦の看護を述べる。 <u>*10分間ミニ確認テスト</u>
8	分べん期の看護(1) 分べんの定義、要素、経過(石田)		予習：教材1の第4章A~BのP178-194を予習して受講する。 復習：分べんの要素と分べん経過を述べる。
9	分べん期の看護(2) 産婦・胎児、家族のアセスメントと看護①フィジカルアセスメント②メンタルアセスメント③ケア(石田)		予習：教材1の第4章B~CのP199-219を予習して受講し、産婦の心理・社会的変化、産婦家族のアセスメントが理解できる。 復習：産婦の心理・社会的変化からアセスメント視点を述べる。
10	分べん期の看護(3) 産婦と家族の看護 産婦の基本的ニーズ支援、産痛緩和、産婦と家族の心理への看護(石田)		予習：教材1の第4章DのP220-250を予習し、産婦と家族の看護と分べん各期の看護を理解する。 復習：安全安楽な分べんと分べん各期の看護ポイントを述べる。
11	分べん期の異常と看護 前期破水、帝王切開術、分べん時異常出血①フィジカルアセスメント②メンタルアセスメント③ケア(石田)		予習：教材1の第7章のP401-455を予習し分べん期の異常を理解する。 復習：異常分べんと正常分べん経過の違いその看護を学習する。 <u>*10分間ミニ確認テスト</u>
12	周産期の看護実践とスキル演習(1) レオボルド触診法、子宮底及び腹囲測定法(内藤)	周産期の看護実践とスキル演習(2) 胎児心拍数モニタリング、判読 妊産婦ケア(石田)	(実践演習) 援助技法の意義や方法・留意点のレポートをする。事例による胎児心拍数モニタリングを行い、判読及びケア、NFRS時のケアを理解。目で見る母性看護Vol.3(DVD)と分べんのDVDを視聴し妊娠後期のアセスメント、分べん期の看護を考える(演習はPBLグループのアクティブラーニング) 復習：課題レポートを作成する。
13	周産期の看護実践とスキル演習(1) レオボルド触診法、子宮底及び腹囲測定法(内藤)	周産期の看護実践とスキル演習(2) 胎児心拍数モニタリング、判読 妊産婦ケア(石田)	(実践演習) 援助技法の意義や方法・留意点のレポートをする。事例による胎児心拍数モニタリングを行い、判読及びケア、NFRS時のケアを理解。目で見る母性看護Vol.3(DVD)と分べんのDVDを視聴し妊娠後期のアセスメント、分べん期の看護を考える(演習はPBLグループのアクティブラーニング) 復習：課題レポートを作成する。
14	周産期の看護実践とスキル演習(1) レオボルド触診法、子宮底及び腹囲測定法(内藤)	周産期の看護実践とスキル演習(2) 胎児心拍数モニタリング、判読 妊産婦ケア(石田)	(実践演習) 援助技法の意義や方法・留意点のレポートをする。事例による胎児心拍数モニタリングを行い、判読及びケア、NFRS時のケアを理解。目で見る母性看護Vol.3(DVD)と分べんのDVDを視聴し妊娠後期のアセスメント、分べん期の看護を考える(演習はPBLグループのアクティブラーニング) 復習：課題レポートを作成する。
15	妊産婦ケアのまとめ、確認テスト、評価(内藤・石田)		妊娠期から分べん期までの確認テストを実施する。 理解不十分な学習を行う。 課題レポートの見直しをする。まとめと評価

評価方法 および評価基準

【評価方法】1. 定期試験(75%)、2. 課題レポート(15%)、3. 授業内のミニ確認テスト(10%)により評価する。

S(100~90点)：周産期における対象の健康レベルのアセスメントを十分に理解し、看護について説明することができ、積極的に学修に取り組むことができる。(Excellent)

A(89~80点)：周産期における対象の健康レベルのアセスメントを十分に理解し、看護について説明することができ、積極的に学修に取り組むことができる。(Very Good)

B(79~70点)：周産期における対象の健康レベルのアセスメントの理解は不十分であるが、看護について説明することができ、学修に取り組むことができる。(Good)

C(69~60点)：周産期における対象の健康レベルのアセスメントを理解する姿勢がみられ、看護について説明することができ、学修に取り組む努力をしている。(Pass)

D(60点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			ディプロマポリシーを達成するためには必要な能力	人間力	○	
授業コード					ケア・スピリット	○	
授業科目名	精神看護学概論				実践的理 解	○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム		
担当教員	多喜田恵子				多職種連携		

講義目的		
精神看護・精神保健の役割について、人が自己実現へと向かう過程を支えるために、心のしくみと発達、人間関係のダイナミクスなどの心の働きなどを前提に、人の精神的・身体的・社会的な援助の考え方を教授する。また、精神科で出会う人々の状態像や治療過程を学び、対象者の状況に対応した援助の根拠を学ぶ。最終講では、精神医療・保健福祉における今日的な課題を考察する。		
授業内容		
精神の健康や健康障害について、心の働きや人間関係、文化、社会、歴史とのつながりから理解するとともに講義で紹介する文献やグループ・ディスカッションを通して各自の考え方を深める。学習の到達目標として以下を目指す。		
<ol style="list-style-type: none"> 精神看護の基本概念や精神保健の意味を説明できる。 人間の心のはたらきや関係におけるパーソナリティの発達を説明できる。 精神看護の場で出会う人々や精神科での治療看護の特徴を説明できる。 精神看護における身体ケアの意味や精神療法的アプローチを説明できる。 社会における精神保健医療福祉の現状や精神医療における今日的課題を指摘できる。 		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
精神看護に幅広い視野をもつため、教科書だけでなく授業で紹介する図書などを読み自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。また、各自の理解度を確認するための小テストを適宜、行う。毎回授業でミニツツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニツツノートの内容は授業時間内に解説する。		
教材		
テキスト 「系統看護学講座専門科目Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎」(第5版)、武井麻子編、医学書院、2,420円(税込) 参考図書 「系統看護学講座別館 精神保健」(第3版) 末安民生編、医学書院、2,620円(税込)		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	精神看護学を学ぶことの意義：現代社会における精神保健・医療ニーズ、精神看護学とその課題、精神看護学の基本的な考え方	予習：教科書 pp. 2-23 を読む。 復習：教科書 p. 23 ゼミナール「復習と課題」①②③を各 200 字程度にまとめる。
2	精神の健康と健康障害：精神の健康とは、ふつうというものさし、精神障害の捉え方、医学モデルと社会モデル、生活機能分類	予習：教科書 pp. 26-38 を読む。 復習：教科書 p. 51 ゼミナール「復習と課題」①②③を各 200 字程度にまとめる。
3	ストレスと健康の危機：危機という考え方、心理的ストレスとライフイベント、予防の概念、心的外傷、レジリエンス	予習：教科書 pp. 38-51 を読む。 復習：教科書 pp. 51 ゼミナール「復習と課題」④⑤200字程度にまとめる。
4	人間の心のはたらき：意識と認知機能、感情、学習と行動、知能、心の理論	予習：教科書 pp. 54-70 を読む。 復習：教科書 pp. 104 ゼミナール「復習と課題」①を各 100 字程度にまとめる。
5	心のしくみと人格の発達：人格と気質、ライフスタイルとアイデンティティ、精神分析と精神力動理論、防衛機制 対象関係論、愛着理論、自己愛の傷つき、甘え	予習：教科書 pp. 70-104 を読む。 復習：教科書 pp. 104 ゼミナール「復習と課題」②③を各 100 字程度にまとめる。
6	ライフサイクルにおける危機と危機介入：乳幼児期・学童期・思春期・青年期・壮年期・老年期の危機の特徴と危機介入	予習：事前配布資料を読む。 復習：授業資料をもとにライフサイクルにおける危機介入を各 50 字程度にまとめる。
7	生活の場と精神的危機：家庭・学校・職場・地域における危機の特徴と危機介入、自然・人為的災害での精神的危機と危機介入	予習：事前配布資料を読む。 復習：授業資料をもとに生活の場の危機介入を各 50 字程度にまとめる。

8	家族の精神の健康：多様化した家族と精神の健康、家族内コミュニケーションのゆがみ、家族の中の役割関係、システムとしての家族	予習：教科書 pp. 108-128 を読む。 復習：教科書 pp. 142 ゼミナール「復習と課題」①②を各 100 字程度にまとめる。
9	人間と集団：集団と個人、グループプロセス、全体としてのグループ、グループの方法	予習：教科書 pp. 128-142 を読む。 復習：教科書 pp. 142 ゼミナール「復習と課題」③を 100 字程度にまとめる。
10	精神科で出会う人々：精神を病むことと生きること、精神病状論と状態像、特異症状と非特異症状	予習：教科書 pp. 146-164 を読む。 復習：特異症状おとび非特異症状、思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶障害の特徴をそれぞれ 100 字程度にまとめる。
11	当事者に学ぶ病いの体験①：生きにくさの意味	予習：1 回・2 回・10 回の授業資料および自己学習を読み返すこと。 復習：当事者の立場に立って「生きにくさ」の意味を 800 字程度にまとめる。
12	当事者に学ぶ病いの体験②：精神障害とともに生きる意味	予習：1 回・2 回・10 回の授業資料および自己学習を読み返すこと。 復習：当事者の立場に立って「精神障害とともに生きる」の意味を 800 字程度にまとめる。
13	精神障害と治療の歴史：西洋における精神障害と治療、日本における精神障害者の治療、	予習：教科書 pp. 282-304, を読む。 復習：教科書 pp. 345 ゼミナール「復習と課題」①を各 300 字程度にまとめる。
14	精神障害と文化：精神障害の多様性と普遍性、精神障害と社会	予習：教科書 pp. 304-315, を読む。 復習：教科書 pp. 345 ゼミナール「復習と課題」①②を各 100 字程度にまとめる。
15	精神障害者および精神看護師にとっての法制度：精神科看護の基本となる法律、地域移行支援精神保健福祉活動	予習：教科書 pp. 317-345 を読む。 復習：教科書 pp. 345 ゼミナール「復習と課題」③を各 300 字程度にまとめる。

評価方法 および評価基準

期末試験（50%）、小テスト（25%）、レポート（25%）により評価する。

S (100~90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目 看護の展開			ディプロマポリシーを達成するためには必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ				実践的理 解 ○	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム ○	
担当教員	多喜田恵子 小野悟				多職種連携 ○	

講義目的

精神看護の基本的な援助の方法論を教授する。精神の状態像をアセスメントするための面談方法や対人関係論を基盤とした精神看護を通して、患者一看護師関係を形成する対人援助技術を演習する。さらに、グループダイナミクスを活用した援助技術の演習を通して、精神障害をもつ人や家族へのアプローチを理解する。これらの内容を通して、精神看護に必要な基本的なスキルやアプローチを学び、精神看護援助論Ⅱの具体的な精神看護の展開につなげる。

授業内容

精神看護実践の基盤となる患者一看護師関係や看護の役割の理論・知識をもとに、演習で精神障害をもつ人や家族に対する援助の理解を深める。また、グループワークで当事者の立場になった地域生活支援のあり方を理解する。本科目の到達目標は以下を目指す。

- 精神看護における援助の方法や場の特徴について説明できる。
- 精神障害をもつ人のアセスメントの視点が説明できる。
- 精神障害をもつ人の回復過程を踏まえた看護のアプローチを説明できる。
- 精神障害をもつ人の地域生活支援の方法を説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

精神看護実践を具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。復習課題については適宜、提出する。毎回授業でミニツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。演習はレポートで学習の振り返りを行う。ミニツノートやレポート内容は授業時間内に解説する。

教材

テキスト 「系統看護学講座専門科目Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開」(第5版)、武井麻子編、医学書院、2,620円(税込)

「系統看護学講座専門科目Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎」(第5版)、武井麻子編、医学書院、購入済

参考図書 「精神神経疾患ビジュアルブック」 落合慈之監修、学研メディカル秀潤社、2015.

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	精神看護とは：ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法 (多喜田)	予習：教科書②pp. 2-29 を読む。 復習：教科書②pp. 65 ゼミナール「復習と課題」①を各 200 字程度にまとめる。
2	患者一看護者の治療的関係とコミュニケーション：患者一看護者関係の発展段階、治療的コミュニケーション、関係のアセスメント、プロセスレコードの活用 (多喜田)	予習：教科書②pp. 29-42 を読む。 復習：教科書②pp. 65 ゼミナール「復習と課題」①②を各 200 字程度にまとめる。日常の会話での場面を取り上げ、プロセスレコードを記載する。
3	精神疾患と治療の理解①：代表的な精神疾患(障害)のとらえ方、精神科における検査と診断 (小野)	予習：教科書①pp. 164-192 を読む。 復習：教科書①pp. 232 ゼミナール「復習と課題」②③を各 200 字程度にまとめる。
4	精神疾患と治療の理解②：精神科における治療（身体療法、精神療法、薬物療法）と多職種協働 (小野)	予習：教科書①pp. 236-278 を読む。 復習：教科書①pp. 278 ゼミナール「復習と課題」①②③を各 200 字程度にまとめる。
5	精神看護アセスメントの特徴：さまざまな精神症状と生活への影響、患者一看護者関係の感情体験、医療の場のダイナミクス (多喜田)	予習：教科書②pp. 43-63 を読む。 復習：教科書②pp. 65 ゼミナール「復習と課題」②③を各 200 字程度にまとめる。
6	回復を助ける：回復の意味、精神科リハビリテーション、回復を支えるプログラム (小野)	予習：教科書②pp. 68-89 を読む。 復習：教科書②pp. 139 ゼミナール「復習と課題」①を 200 字程度にまとめる。
7	治療の場の特徴：入院治療の目的と意味、入院形態、入院時アセスメント、治療的環境 (小野)	予習：教科書②pp. 90-138 を読む。 復習：教科書②pp. 139 ゼミナール「復習と課題」②③を各 200 字程度にまとめる。

8	安全をまもる援助一リスクマネジメント、行動制限、緊急事態への対処、院内災害時の対応 (小野)	予習：教科書②pp. 144-186 を読む。 復習：教科書②pp. 139 ゼミナール「復習と課題」①②③④⑤を各 200 字程度にまとめる。
9	身体面への治療と援助：精神科における身体ケア、精神科治療と身体のケア、身体合併症へのケア (小野)	予習：教科書②pp. 190-243 および第 4 回の授業資料を読む。 復習：教科書②pp. 244 ゼミナール「復習と課題」①②を各 200 字程度にまとめる。
10	精神面・社会面への治療と援助一回復段階に応じた活動、行動療法、環境療法、社会療法、SST、レクリエーションの方法 (小野)	予習：教科書①pp. 190-243 および第 4・6 回の授業資料を読む。 復習：教科書②pp. 244 ゼミナール「復習と課題」③を各 200 字程度にまとめる。
11	回復を支える技術①【演習】：SST (小野・夢喜田)	予習：教科書 pp. 77-80 および第 10 回の授業資料を読む。 復習：演習の振り返りレポート (A4 用紙 1 枚) にまとめる。
12	回復を支える技術②【演習】：レクリエーション (夢喜田・小野)	予習：事前配布資料および第 10 回の授業資料を読む。 復習：演習の振り返りレポート (A4 用紙 1 枚) にまとめる。
13	サバイバーとしての患者とケア：問題行動における隠された感情、心的外傷への着目、エンパワーメント・アプローチ (夢喜田)	予習：教科書②pp. 248-260、を読む。 復習：授業時に配布する資料「当事者研究」を読んで 1,000 字程度のレポートにまとめる。
14	精神障害者の家族支援：家族支援とは、家族療法の考え方、家族支援の方法、家族心理教育 (夢喜田)	予習：教科書①pp. 114-128 および精神看護学概論第 8 回の授業資料を読む。 復習：授業時に配布する資料「IP だった私」を読んで 800 字程度のレポートにまとめる。
15	地域における精神保健と精神看護：地域移行支援、地域生活定着支援、就労支援 (夢喜田)	予習：教科書②pp. 262-323 を読む。 復習：教科書②pp. 341 ゼミナール「復習と課題」①②③を 200 字程度にまとめる。

評価方法 および評価基準

期末試験 (50%)、演習レポートにより評価する。

S (100~90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、レポート発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			ティーチング法 のために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	在宅看護学概論				実践的理理解 ○	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	柄本千鶴 石井英子				多職種連携 ○	

講義目的					
全ての看護学領域および諸関連専門科目で学んだ知識を基盤として、在宅療養者が、望む住まいでの人らしく健やかに療養生活が送れるよう、地域医療・ケアシステムの中で個別の看護を行うための基礎的能力を養う。在宅看護ケアの基盤となる保健・医療・福祉制度について理解し、在宅看護の対象の疾患、療養状況、療養環境を踏まえた在宅ケアのありかたについて考察する。在宅のケアシステムにおける多職種の連携や、地域の社会資源やネットワークについても理解を深める					
授業内容					
カリキュラムにおいて専門教育科目の「看護の展開」に位置づけられる。在宅看護論の中で主に地域に基盤を置き、個人や家族を対象に地域で展開される看護活動の位置づけを学ぶ。その際、個人と家族に在宅看護がどのように到達しているかを評価するとともに、在宅看護が焦点を当てる対象のニーズを満たすための今後の課題について対処する方法を講義方式で学習する。					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）					
履修にあたり、社会的背景・看護・医学・法制度に関する基礎的な知識・用語の理解が予備知識として求められる。1年後期までのGPA1.5以上が望ましい。また、学習課題（予習・復習）に示されている時間外の学習を毎回4時間が必要である。課題（試験やレポート）に対するフィードバックはその都度講義内に行う。					
教材					
テキスト 河野あゆみ編『在宅看護論』、メディカルフレンド社、2019 参考図書 厚生労働統計協会編『国民衛生の動向 2019/2020』					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	在宅看護の理念 在宅ケアを必要とする背景・在宅看護の目的と位置づけ・ 在宅看護の機能と提供機関・在宅看護の基本理念（柄本）	[予習] pp. 1-11 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく			
2	在宅看護の対象理解 在宅看護の対象と対象を理解するためのモデル 在宅看護における倫理的問題（柄本）	[予習] pp. 12-17 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく			
3	在宅看護の変遷 在宅看護の原点・日本における在宅看護の始まり 日本における在宅ケア・在宅看護の発展他（柄本）	[予習] pp. 17-30 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく			
4	在宅看護を支えるしくみ 在宅看護を支える制度： 医療保険制度・介護保険制度（柄本）	[予習] pp. 31-48 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく			
5	在宅看護を支えるしくみ 在宅看護を支える制度： 障害者支援に関する制度・ 高齢者虐待防止に関する制度（柄本）	[予習] pp. 48-59 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく			
6	在宅看護を支えるしくみ 訪問看護の制度と機能：訪問看護の目的、機能、特徴・ 訪問看護ステーション他（柄本）	[予習] pp. 59-75 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく			
7	在宅看護を支えるしくみ 地域包括ケアシステム：地域包括ケアシステムの必要性と 目的・地域包括ケアシステムづくり他（柄本）	[予習] pp. 75-87 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく			

8	在宅看護における支援の基本 ケアマネジメント：在宅ケアにおける社会資源・継続看護・退院支援・介護保険におけるケアマネジメント他（板本）	[予習] pp. 89–102 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
9	在宅看護における支援の基本 在宅看護における家族支援：家族の定義、機能、発達段階・家族のアセスメント他（板本）	[予習] pp. 103–119 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
10	在宅看護における支援の基本 在宅看護過程の展開：在宅看護過程の定義、目的、特徴他 リスクマネジメント：概念、防止対策他（板本）	[予習] pp. 119–152 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
11	対象の状態に応じた在宅看護 在宅看護とエンド・オブ・ライフケア：エンド・オブ・ライフケアの目的・意義、定義、対象者他（石井）	[予習] pp. 153–172 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
12	対象の状態に応じた在宅看護 在宅看護と難病ケア：難病の理解・難病療養者を支える在宅ケアシステム他（石井）	[予習] pp. 173–186 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
13	対象の状態に応じた在宅看護 在宅看護とりハビリテーション：リハビリテーション期にある療養者・家族への看護他（石井）	[予習] pp. 186–195 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
14	対象の状態に応じた在宅看護 在宅看護と重症心身障害児ケア：重症心身障害児ういお支える在宅ケアシステム他（石井）	[予習] pp. 206–219 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
15	対象の状態に応じた在宅看護 在宅看護と介護予防：介護予防のための在宅ケアシステム他（石井）	[予習] pp. 242–253 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく

評価方法 および評価基準

評価方法：期末試験 60%、小テスト 20%、レポート 20%により評価する。

S (100~90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	-専門教育科目 看護の展開			デイブロマボリシート のために必要な能力を達成する	人間力	
授業コード					ケア・スピリット ○	
授業科目名	在宅看護援助論 I				実践的理解 ○	
配当学年/学期	2年 後期 必修	単位数	1単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	柄本千鶴 梶田恵子 石井英子				多職種連携 ○	

講義目的

在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護で必要とされる基本的生活援助技術について講義・演習を通して修得する。在宅看護で必要とされる基本的な能力として、在宅看護の展開能力、在宅における面接技術と観察技術、訪問看護の実際、訪問看護制度、在宅における面接技術、在宅におけるアセスメント能力を修得する。

授業内容

カリキュラムにおいて専門教育科目の「看護の展開」に位置づけられる。本科目の中で主に在宅看護の特性をふまえた看護過程、健康障害の種類や程度別看護過程、在宅療養者の心理・社会的課題別看護過程に必要な知識と技術を講義と演習方式で学習する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

履修にあたり、在宅看護学概論、公衆衛生看護学概論を十分に復習しておく。また在宅の対象は他領域の看護についての総合的な学びが求められるため、1年後期までのGPA1.5以上が望ましい。また、学習課題（予習・復習）に示される時間外の学習を毎回1時間が必要である。課題（試験やレポート）に対するフィードバックはその都度講義内で行う。

教材

テキスト 河野あゆみ編『在宅看護過程』、医学書院、2018

参考図書 河野あゆみ編『在宅看護論』、メディカルフレンド社、2019 厚生労働統計協会編『国民衛生の動向 2019/2020』

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	在宅看護過程 在宅看護の特徴 在宅看護の考え方、用語の整理 (柄本)	[予習] pp. 1-3 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
2	在宅看護過程 在宅看護過程の基本 在宅看護過程の目的、特徴、概要 (柄本)	予習] pp. 4-6 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
3	在宅看護過程 在宅看護過程のステップ アセスメント：情報整理、関連図、課題の提示 (柄本)	予習] pp. 7-18 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
4	在宅看護過程 在宅看護過程のステップ 看護課題の明確化、看護計画 (柄本)	予習] pp. 18-25 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
5	在宅看護過程 在宅看護過程のステップ 実施、評価 (柄本)	予習] pp. 25-30 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
6	健康障害別看護過程 慢性疾患： がん慢性期、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎不全、慢性心不全、 (梶田)	予習] pp. 31-97 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
7	健康障害別看護過程 慢性疾患： 糖尿病、脳梗塞、頸髄損傷、統合失調症、重症心身障害児 (梶田)	予習] pp. 98-177 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく

8	健康障害別看護過程 難病：パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症、多発性硬化症、筋ジストロフィ	(模田)	予習] pp. 178-241 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
9	健康障害別看護過程 老年症候群：フレイル、骨折、関節拘縮、認知症、尿失禁、摂食・嚥下障害、生活不活発病	(模田)	予習] pp. 242-354 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
10	健康障害別看護過程 エンドオブライフケア：老衰、神経難病、がん、小児がん	(模田)	予習] pp. 355-413 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
11	心理・社会的課題別看護過程 環境 家族の介護疲れ	(石井)	予習] pp. 416-429 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
12	心理・社会的課題別看護過程 環境 療育困難、家族による高齢者虐待	(石井)	予習] pp. 430-459 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
13	心理・社会的課題別看護過程 環境 生活困窮、社会的孤立化	(石井)	予習] pp. 460-502 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
14	心理・社会的課題別看護過程 理解・意向 意欲低下、自己放任	(石井)	予習] pp. 503-529 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく
15	心理・社会的課題別看護過程 環境・意向 意思決定不全、服薬管理不全	(石井)	予習] pp. 530-557 を事前に読み自分の考えをノートにまとめておくこと [復習] ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめておく

評価方法 やおよび評価基準

評価方法：期末試験 50%、小テスト 10%、レポート 40%により評価する。

S (100~90 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

A (89~80 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。

B (79~70 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。

C (69~60 点)：大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目 看護の展開			テクノロジーポリシーを達成するためには必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	公衆衛生看護学概論				実践的理	
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	2単位		プロフェッショナリズム	
担当教員	石井英子・柄本千鶴				多職種連携	

講義目的

公衆衛生看護の理念と目的、公衆衛生看護の原則、公衆衛生看護の対象について、地域保健法下における保健師の役割について教授する。また、公衆衛生看護活動のはじまりと歴史的な発展についての理解と住民との協同による地域づくり、ヘルスケアづくりについて教授する。さらには、地域保健、学校保健、産業保健の健康戦略とヘルスプロモーションの促進についても教授する。

授業内容

- 人々が暮らす地域での公衆衛生看護活動の対象・目的・方法の場について理解できる
- 健康保健活動（母子、成人、老年、難病、精神、災害など）の対象別保健師活動を理解できる。
- 活動方法である家庭訪問、健康診断、健康教育、地域組織活動などの様々な活動を理解できる。
- 公衆衛生看護活動における倫理的課題に配慮することを理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

日々の生活の中で、健康に関する新聞、ラジオなどのメディアや本などから情報を得るようにする。また、人々の健康、家族の健康に関心をもち、講義に積極的に参加し、発言する。

教材

テキスト：公衆衛生看護学概論 最新版 3,100円（医学書院）

参考図書：国民衛星の動向（必須）

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	公衆衛生看護学の理念（石井） <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の理念 ・公衆衛生の理念 ・公衆衛生看護の基盤となる概念 	公衆衛生看護学とは、公衆衛生基盤とした看護学であり、地域住民の健康増進と疾病予防をめざし、保健師の援助対象者の健康課題を構造的に明らかにすることを理解する。
2	公衆衛生看護学の歴史（石井） <ul style="list-style-type: none"> ・日本における公衆衛生看護の歴史 ・昭和40年代からの保健師活動 	公衆衛生看護活動の歴史を概観する 公衆衛生看護活動の変遷を知る
3	公衆衛生看護の対象（石井）	公衆衛生看護活動の対象の特徴、個人、家族、グループ、組織などを知る
4	社会環境の変化と健康課題（石井）	人口および疾病の変化、社会構造、文化的背景の変化、環境の変化と健康課題について知る
5	公衆衛生看護学の対象と活動の展開（柄本）	公衆衛生看護の対象の特徴、対象としての個人、家族、グループ、地区組織への活動を知る
6	行政の場での保健師活動（柄本）	行政における活動を理解する。住民への健康づくり、母子保健活動と保健師活動とのかかわり
7	行政の場での保健師活動（柄本）	住民の成人・老年保健活動、精神保健活動、難病保健活動について知り、保健師の役割を理解する

8	学校の場での保健師活動（板本）	学校現場における児童生徒の健康課題と、身体的・精神的健康方策について知る
9	産業の場での保健師活動（板本）	産業現場における健康課題と保健師の役割を知る
10	公衆衛生看護活動の計画策定と施策化（石井）	保健計画の策定と策定プロセス、立案について知る
11	公衆性看護活動の実施・評価の実際（石井）	事業化のための 必要な地域診断をするためのコミュニティ・アズ・パートナーモデルを知り、計画を立て見よう
12	健康危機管理（石井）	自然災害などの実績と災害活動を知る
13	感染症集団発生への保健活動（感染症）（石井）	国際的な感染症の状況分析から健康広報を作成し、感染症の意義を知る
14	感染症集団発生への保健活動（結核）（石井）	最近の結核発生動向を知る、予防のための方策を考える
15	公衆衛生看護活動の実際	公衆衛生看護活動の今後の課題について考える
評価方法 および評価基準		
○○により評価する。		
S (100~90点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
A (89~80点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。		
B (79~70点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。		
C (69~60点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない。		